令和５年度第２回上越市食育推進会議 次第

日時：令和６年３月 27 日（水）
午後２時から
会場：上越文化会館 ４階 大会議室

１　開　　会

２　委嘱状交付

３　会長挨拶

４　議　　事

(1) 令和５年度食育市民アンケート結果報告

(2) 第４次上越市食育推進計画指標項目
及び令和５年度上越市食育推進実施計画（アクションプラン）の取組状況の報告

(3) 令和６年度上越市食育推進実施計画（アクションプラン）について

(4) 令和６年度食育実践セミナーの実施について

(5) その他

５　閉　　会

資料＝＝

○令和５年度食育に関する市民アンケート調査結果　・・・・・・・・・・・・・　【資料№1】
○令和５年度食育に関する市民アンケート（高校生対象）調査結果　・・・・・　【資料№2】
○第４次上越市食育推進計画指標項目の取組状況の推移　・・・・・・・・・・・　【資料№3】
○令和５年度上越市食育推進実施計画（アクションプラン）進捗管理一覧表　・　【資料№4】
○令和５年度上越市食育推進実施計画（アクションプラン）進捗管理表　・・・　【資料№5】
○令和６年度上越市食育推進実施計画（アクションプラン）（案）　・・・・・・　【資料№6】

上越市食育推進会議委員名簿

（令和６年３月１日～）

No.	氏　　名	選出区分	備　　考
1	内　山　一　晃	学識経験者	上越医師会理事（内山医院院長）
2	松　井　千鶴子	学識経験者	上越教育大学学校教育研究科教授
3	小　林　綾　子	学識経験者	新潟県立看護大学准教授
4	保　坂　　哲	学識経験者	新潟県立高田北城高等学校長
5	中　嶋　里　子	学識経験者	上越市立上杉小学校長
6	倉　又　久美子	学識経験者	上越市立きよさと保育園長
7	飯　塚　恵　子	公募に応じた市民	
8	王　　鑫	公募に応じた市民	
9	秦　野　美奈子	事業者	えちご上越農業協同組合 農業対策課（3/1～）
10	金　子　修　一	事業者	株式会社 セブン-イレブン・ジャパン 総合渉外部　新潟・北陸ゾーン　マネジャー
11	蓑　輪　若　奈	事業者	株式会社 Amaya farm 農園従業員 上越地域農業者グループ「ひかり」
12	鳥　越　香菜子	事業者	えちご上越農業協同組合 上越あるるん村 店長 （3/1～）
13	信　田　紘　基	事業者	上越市地産地消推進の店 「Yagaiya　郷土料理と旬の小料理」代表
14	土　井　麻　美	食育関係団体の代表者	新潟県栄養士会上越支部 （妙高市立総合支援学校栄養教諭）
15	松　井　和　代	食育関係団体の代表者	上越市総合型スポーツクラブネット運営委員
16	小　林　　元	市の職員	健康福祉部長
17	空　　周　一	市の職員	農林水産部長
18	市　川　　均	市の職員	教育部長

資料1

令和５年度「食育に関する市民アンケート」調査結果

■調 査 目 的　市民の食育に対する関心や知識、食育を実践している市民の割合などの現状を把握するため、市民に対してアンケート調査を行う。

■調 査 期 間　令和５年 12 月４日(月)～12 月 28 日(木) 25 日間

■調査対象者　住民基本台帳に登録されている満 18 歳以上(令和５年4月1日現在)の市民 3,000 人を無作為抽出

■回 収 結 果
・回答者数　1,218 人　(R3 年度:1,280 人　62 人減)
・回 収 率　40.6%　(R3 年度:42.7%　2.1 ポイント減)

【調査結果の記載方法について】
1. 表中の「n」は有効回答者総数を示し、各選択肢の比率算出の基礎となっている。
2. 表中の比率(%)は小数点第２位を四捨五入しているため、個々の選択肢の比率の合計が100%にならない場合がある。

■回答者の構成

○年齢構成

年齢層	人数	割合	【参考】R3割合	
18～19歳	17人	1.4%	2.0%	↓
20～29歳	118人	9.7%	10.6%	↓
30～39歳	164人	13.5%	13.9%	↓
40～49歳	190人	15.6%	15.8%	↓
50～59歳	221人	18.1%	18.8%	↓
60～69歳	255人	20.9%	21.3%	↓
70歳以上	244人	20.0%	16.9%	↑
無回答	9人	0.7%	0.8%	↓

○性別構成

年齢層	人数	割合	【参考】R3割合	
男	532人	43.7%	40.8%	↑
女	669人	54.9%	58.1%	↓
無回答	17人	1.4%	1.1%	↑

■各設問への回答結果

○「食育」への関心について

問1　あなたは、「食育」という言葉やその意味を知っていましたか。（1つ選択）

n＝　1,218

	項目	R1	R3	R5	
ア	言葉も意味も知っていた	51.9%	51.3%	53.0%	（646人）
イ	言葉は知っていたが、意味は知らなかった	40.2%	41.9%	39.4%	（480人）
ウ	言葉も意味も知らなかった	7.7%	6.5%	6.7%	（82人）
	無回答	0.2%	0.3%	0.8%	（10人）

『言葉を知っていた』と回答した方の割合が92.4%（「言葉も意味も知っていた」53.0%+「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」39.4%）、『言葉も意味も知らなかった』と回答した方の割合が6.7%となっている。

問2　あなたは、食育に関する情報をどこから入手していますか。（すべて選択）

n＝　1,218

	項目	R1	R3	R5	
ア	広報上越	17.4%	13.5%	16.0%	（195人）
イ	新聞、雑誌、本	38.0%	45.9%	45.8%	（558人）
ウ	テレビ、ラジオ	39.5%	49.9%	51.7%	（630人）
エ	【R5～】上越市ホームページ	-	-	2.5%	（30人）
オ	インターネット上のニュースサイト	19.2%	32.7%	23.0%	（280人）
カ	【R5～】YouTube等の動画サイト	-	-	8.1%	（99人）
キ	【R5～】ブログ、SNS	-	-	9.7%	（118人）
ク	【R5～】生産者や食品企業、販売業者のウェブサイトや広報物	-	-	11.0%	（134人）
ケ	家族、友人、知人	13.7%	20.6%	19.5%	（237人）
コ	学校	12.9%	9.9%	15.4%	（187人）
サ	職場	8.7%	10.2%	11.8%	（144人）
シ	医療機関、保健所、保健センター	8.8%	9.0%	10.9%	（133人）
ス	生産者（農家）	3.9%	6.1%	7.1%	（86人）
セ	スーパーマーケットなどの食品売場	10.0%	13.0%	14.4%	（175人）
ソ	【R5～】イベントやシンポジウム	-	-	6.7%	（82人）
タ	その他	1.4%	2.0%	1.9%	（23人）
チ	特にない	19.5%	13.1%	11.5%	（140人）
	無回答	3.4%	2.4%	1.6%	（19人）

『テレビ、ラジオ』と回答した方の割合が51.7%と最も高く、次いで『新聞、雑誌、本』が45.8%、『インターネット上のニュースサイト』が23.0%の順となっている。

問3

①あなたは「食育」に関心がありますか。(1つ選択)

n＝ 1,218

	項目	R1	R3	R5	
ア	関心がある	25.3%	22.8%	21.2%	(258人)
イ	どちらかといえば関心がある	51.6%	54.8%	49.6%	(604人)
ウ	どちらかといえば関心がない	14.3%	14.3%	17.9%	(218人)
エ	関心がない	4.8%	4.1%	5.3%	(65人)
オ	わからない	3.4%	3.8%	4.9%	(60人)
	無回答	0.6%	0.1%	1.1%	(13人)

『関心がある』と回答した方の割合が70.8%(『関心がある』21.2%+『どちらかといえば関心がある』49.6%)、『関心がない』と回答した方の割合が23.2%(『どちらかといえば関心がない』17.9%+『関心がない』5.3%)となっている。

※①で「ア 関心がある」または「イ どちらかといえば関心がある」を選択した方のみ回答

②あなたが「食育」に関心がある理由は何ですか。（すべて選択）

n＝ 862

	項目	R1	R3	R5	
ア	子どもの心身の健全な発育に必要だから	55.1%	53.5%	46.0%	（560人）
イ	食生活の乱れが問題になっているから	38.3%	33.4%	27.5%	（335人）
ウ	肥満や痩せすぎが問題になっているから	23.6%	25.3%	21.5%	（262人）
エ	生活習慣病の増加が問題になっているから	51.9%	47.8%	42.2%	（514人）
オ	食品の安全性が気になるから	43.4%	40.7%	34.4%	（419人）
カ	地域の食文化や伝統を守ることが重要だから	24.1%	23.9%	16.9%	（206人）
キ	地域の食材や旬のものを食べたいから	35.4%	31.6%	28.1%	（342人）
ク	食べ残しなどの食品廃棄物が問題だから	34.4%	40.2%	28.9%	（352人）
ケ	その他	-	3.9%	1.1%	（14人）
	無回答	10.7%	7.7%	0.2%	（3人）

①で『関心がある』または『どちらかといえば関心がある』と回答した方に、食育に関心がある理由を聞いたところ、『子どもの心身の健全な発育に必要だから』と回答した方の割合が 46.0%と最も高く、次いで、『生活習慣病の増加が問題になっているから』が 42.2%、『食品の安全が気になるから』が 34.4%の順となっている。

問4 あなたは6月の「食育月間」、毎月19日の「食育の日」を知っていますか。（1 つ選択）

n＝ 1,218

	項目	R1	R3	R5	
ア	どちらも知っている	6.5%	6.8%	6.6%	（80人）
イ	6月の「食育月間」のみ知っている	7.7%	9.5%	7.6%	（92人）
ウ	毎月19日の「食育の日」のみ知っている	6.4%	8.0%	4.8%	（59人）
エ	どちらも知らない	77.6%	74.5%	79.6%	（970人）
	無回答	1.8%	1.3%	1.4%	（17人）

『「食育月間」または「食育の日」を知っている』と回答した方の割合が 19.0%（『どちらも知っている』6.6%+『６月の「食育月間」のみ知っている』7.6%＋『毎月 19 日の「食育の日」のみ知っている』4.8%）、『どちらも知らない』と回答した方の割合が 79.6%となっている。

○現在の食生活・生活習慣について

問5　あなたは、普段の食生活で、下記の内容をどの程度実践していますか。（1 つ選択）

＜R5年度＞　　n＝　1,218

	項目	ほとんどできている	おおむねできている	あまりできていない	まったくできていない	無回答
①	食べることを楽しんでいる	34.4%	51.5%	10.3%	1.0%	2.8%
②	規則正しい食事から、健やかな生活リズムを心掛けている	21.6%	48.9%	23.7%	2.9%	3.0%
③	ごはんを中心とした和食（日本型食生活）を実践している	26.9%	48.4%	20.1%	2.1%	2.5%
④	生活習慣病の予防や改善のため、適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践している	12.2%	43.5%	37.1%	4.5%	2.6%
⑤	食事の際に、ゆっくりよく噛んで食べている	9.9%	38.0%	41.4%	7.6%	3.1%

＊「ほとんどできている」又は「おおむねできている」と回答した人の割合

	項目	R1	R3	R5
①	食べることを楽しんでいる	84.1%	82.8%	85.9%
②	規則正しい食事から、健やかな生活リズムを心掛けている	69.0%	71.3%	70.4%
③	ごはんを中心とした和食（日本型食生活）を実践している	76.3%	74.1%	75.4%
④	生活習慣病の予防や改善のため、適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践している	55.0%	57.0%	55.7%
⑤	食事の際に、ゆっくりよく噛んで食べている	43.5%	45.8%	47.9%

問6　あなたは、主食(ごはん、パン、麺など)・主菜(肉・魚・卵・大豆製品などを使ったメインの料理)・副菜(野菜・きのこ・いも・海藻などを使った小鉢・小皿の料理)を3つそろえて食べることが1日に2回以上あるのは、週に何日程度ありますか。

n＝　1,218

	項目	R1	R3	R5	
ア	ほぼ毎日	40.7%	43.6%	39.7%	(484人)
イ	週に4日～5日	27.4%	25.9%	28.4%	(346人)
ウ	週に2日～3日	21.6%	20.2%	21.3%	(260人)
エ	ほとんどない	8.1%	9.7%	9.5%	(116人)
	無回答	2.2%	0.5%	1.0%	(12人)

【参考】若い世代（20 歳～39 歳）において、「ア　ほぼ毎日」と回答した人の割合

n＝　282

	項目	R1	R3	R5	
ア	ほぼ毎日	34.1%	29.0%	25.2%	（71人）

『ほぼ毎日』と回答した方の割合が 39.7%、『週に 4 日～5 日』が 28.4%、『週に 2 日～3 日』が 21.3%、『ほとんどない』が 9.5%となっている。
また、若い世代においては『ほぼ毎日』と回答した方の割合が 25.2%であった。

問7　あなたは朝食を週に何日程度食べますか。

n＝　1,218

	項目	R1	R3	R5	
ア	ほぼ毎日	83.8%	81.6%	79.0%	（962人）
イ	週に4日～5日	4.9%	7.3%	7.5%	（91人）
ウ	週に2日～3日	4.5%	5.3%	5.8%	（71人）
エ	ほとんど食べない	6.0%	5.4%	7.5%	（91人）
	無回答	0.7%	0.5%	0.2%	（3人）

【参考】若い世代（20 歳～39 歳）において、「エ　ほとんど食べない」と回答した人の割合

n＝　282

	項目	R1	R3	R5	
エ	ほとんど食べない	13.2%	7.3%	11.3%	（32人）

『ほぼ毎日』と回答した方の割合が 79.0%、『週に 4 日～5 日』が 7.5%、『週に 2 日～3 日』が 5.8%、『ほとんど食べない』と回答した方の割合が 7.5%となっている。
また、若い世代においては『ほとんど食べない』と回答した人の割合が 11.3%であった。

問8　あなたは、普段の食事を自分で準備しますか。(1 つ選択)

n＝　1,218

	項目	R1	R3	R5	
ア	ほとんどのものを食材から調理して、食事を準備している	-	-	23.6%	(288人)
イ	一部市販食品を取り入れて、食事を準備している	-	-	47.1%	(574人)
ウ	ほとんどのものに市販食品を利用して、食事を準備している	-	-	8.9%	(109人)
エ	自分で食事を準備していない	-	-	19.7%	(240人)
	無回答	-	-	0.6%	(7人)

『普段の食事を自分で準備する』と回答した方の割合が 79.6%（『ほとんどのものを食材から調理して、食事を準備している』23.6%＋『一部市販食品を取り入れて、食事を準備している』47.1%＋『ほとんどのものに市販食品を利用して、食事を準備している』8.9%)、『自分で食事を準備していない』と回答した方の割合が 19.7%となっている。

※家族と同居している方のみ回答

問9　あなたは、朝食または夕食を家族と一緒に食べる「共食」を実践している回数は週に何回程度ありますか。

n＝　1,058

	項目	R1	R3	R5
	朝食または夕食を家族と一緒に食べる平均回数(週)	9回	9回	9.8回

家族と同居している方に、『朝食または夕食を家族と一緒に食べる「共食」を実践している回数』を聞いたところ、平均回数は「週 9.8 回」であった。

問 10

①地域や所属コミュニティ（職場等を含む）で食事会等の機会があれば、あなたは参加したいと思いますか。（1 つ選択）

n＝　1,218

	項目	R1	R3	R5	
ア	とてもそう思う	5.4%	7.9%	4.8%	（58人）
イ	そう思う	30.2%	25.2%	24.5%	（298人）
ウ	どちらともいえない	29.4%	28.0%	30.3%	（369人）
エ	あまりそう思わない	21.5%	24.2%	26.8%	（327人）
オ	全くそう思わない	10.8%	13.5%	13.2%	（161人）
	無回答	2.7%	1.1%	0.4%	（5人）

『参加したいと思う』と回答した人の割合が 29.3%（『とてもそう思う』4.8%＋『そう思う』24.5%）、『どちらともいえない』が 30.3%、『参加したいと思わない』が 40.0%（『あまりそう思わない』26.8%＋『全くそう思わない』13.2%）となっている。

※①で「ア　とてもそう思う」または「イ　そう思う」を選択した方のみ回答

②あなたは過去1年間に、地域や所属コミュニティでの食事会等に参加しましたか。（1 つ選択）

n＝　356

	項目	R1	R3	R5	
ア	参加した	70.0%	42.0%	60.1%	（214人）
イ	参加していない	29.0%	57.5%	39.6%	（141人）
	無回答	0.9%	0.5%	0.3%	（1人）

①で『参加したいと思う』と回答した方に、過去 1 年間に地域や所属コミュニティでの会食等に参加したことがあるか聞いたところ、『参加した』と回答した方の割合が 60.1%、『参加していない』と回答した方の割合が 39.6%であった。

○地域の食文化について

問 11

①あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭において受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を受け継いでいますか。(1 つ選択)

n＝　1,218

	項目	R1	R3	R5	
ア	受け継いでいる	51.3%	67.3%	64.5%	(786人)
イ	受け継いでいない	45.2%	31.4%	34.3%	(418人)
	無回答	3.4%	1.3%	1.1%	(14人)

【参考】若い世代(20 歳～39 歳)において、「ア　受け継いでいる」と回答した人の割合

n＝　282

	項目	R1	R3	R5	
ア	受け継いでいる	41.8%	61.8%	64.2%	(181人)

※①で「ア　受け継いでいる」を選択した方のみ回答

②あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭において受け継いできた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を地域や次世代(子やお孫さんを含む)に伝えていますか。(1 つ選択)

n＝　786

	項目	R1	R3	R5	
ア	伝えている	71.9%	71.4%	69.8%	(549人)
イ	伝えていない	27.5%	27.5%	29.4%	(231人)
	無回答	0.7%	0.9%	0.8%	(6人)

①で『受け継いでいる』と回答した方に、地域や次世代（子やお孫さんを含む）に伝えているか聞いたところ、『伝えている』と回答した方の割合が 69.8%、『伝えていない』と回答した方の割合が 29.4%であった。

【参考】地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている市民の割合

n＝ 1,218

	項目	R1	R3	R5	
	伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている	36.9%	48.0%	45.1%	（549人）

【参考】地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承している若い世代の市民の割合

n＝ 282

	項目	R1	R3	R5	
	伝統的な料理や作法等を継承している	41.8%	61.8%	64.2%	（181人）

問 12　あなたは、ご自身が生まれ育った地域の郷土料理や伝統料理について知っていますか。（1 つ選択）

n＝ 1,218

	項目	R1	R3	R5	
ア	よく知っていて、食べたことがある	-	66.3%	63.4%	（772人）
イ	知っているが、食べたことはない	-	3.2%	5.0%	（61人）
ウ	知らないが（認識したことはないが）、食べたことはあるかもしれない	-	25.5%	26.1%	（318人）
エ	知らない	-	3.4%	4.4%	（53人）
	無回答	-	1.6%	1.1%	（14人）

『地域の郷土料理や伝統料理を知っている』と回答した方の割合が 68.4%（『よく知っていて、食べたことがある』63.4%＋『知っているが、食べたことはない』5.0%）、『知らない』と回答した方の割合が 4.4%となっている。

問 13　あなたは、郷土料理や伝統料理をどのくらいの頻度で食べていますか。(1 つ選択)

n＝　1,218

	項目	R1	R3	R5	
ア	ほぼ毎日	-	4.1%	2.4%	(29人)
イ	週に3～5日程度	-	4.5%	5.6%	(68人)
ウ	週に1～2日程度	-	9.5%	11.0%	(134人)
エ	月に2～3日程度	-	15.2%	15.2%	(185人)
オ	月に1日程度	-	13.7%	15.4%	(187人)
カ	2～3か月に1日程度	-	21.9%	18.1%	(220人)
キ	それ以下	-	19.5%	20.6%	(251人)
ク	全く食べない	-	9.6%	9.2%	(112人)
	無回答	-	2.1%	2.6%	(32人)

『月に 1 日以上』と回答した方の割合が 49.5%（『ほぼ毎日』2.4%＋『週に 3～5 日程度』5.6%＋『週に 1～2 日程度』11.0%＋『月に 1 日程度』15.4%）であった。

○環境への配慮について

問 14　あなたは、日頃から環境に配慮した農林水産物・食品を選んでいますか。（1 つ選択）

n＝　1,218

	項目	R1	R3	R5	
ア	いつも選んでいる	-	12.9%	11.2%	（136人）
イ	時々選んでいる	-	45.1%	44.4%	（541人）
ウ	あまり選んでいない	-	31.7%	32.5%	（396人）
エ	まったく選んでいない	-	8.3%	10.5%	（128人）
	無回答	-	2.0%	1.4%	（17人）

『選んでいる』と回答した方の割合が 55.6%（『いつも選んでいる』11.2%＋『時々選んでいる』44.4%）、『選んでいない』と回答した方の割合が 43.0%（『あまり選んでいない』32.5%＋『まったく選んでいない』10.5%）となっている。

○食品の購入・安全性について

問 15　あなたが、食品を購入する際に意識していることは何ですか。（すべて選択）

n＝　1,218

	項目	R1	R3	R5	
ア	【R5】地場産であること 【R1・R3】地場産や国産であること	50.4%	52.7%	31.8%	（387人）
イ	【R5】国産であること	-	-	61.4%	（748人）
ウ	おいしさ	27.3%	27.3%	55.1%	（671人）
エ	価格	53.7%	55.5%	81.3%	（990人）
オ	健康	8.0%	8.3%	32.8%	（400人）
カ	安全性	25.7%	25.0%	53.9%	（657人）
キ	栄養のバランス	12.8%	10.9%	34.3%	（418人）
ク	エネルギー量（kcal）	3.4%	3.0%	15.6%	（190人）
ケ	その他	1.0%	1.6%	1.5%	（18人）
コ	特に意識していない	5.5%	4.1%	2.6%	（32人）
	無回答	3.1%	11.5%	1.1%	（13人）

『価格』と回答した方の割合が 81.3%と最も高く、次いで、『国産であること』が 61.4%、『おいしさ』が 55.1%、『安全性』が 53.9%の順となっている。

問 16　あなたは、食品を購入する際に安全性をどのように判断していますか。（2 つまで選択）

n＝　1,218

	項目	R1	R3	R5	
ア	色、つやなど見た目はどうか	34.0%	34.9%	37.9%	（462人）
イ	いやなにおいや変な感触がないか	10.9%	11.6%	17.3%	（211人）
ウ	生産者や製造業者はだれか	14.1%	12.5%	9.3%	（113人）
エ	信頼できる販売店舗かどうか	11.7%	12.2%	10.5%	（128人）
オ	国産品か輸入品か	49.2%	52.3%	38.9%	（474人）
カ	賞味期限や品質保持期限はいつか	52.3%	52.0%	59.0%	（719人）
キ	認証マークなどが添付されているか	1.4%	1.7%	2.0%	（24人）
ク	食品添加物の使用状況はどうか	13.8%	10.5%	10.0%	（122人）
ケ	有機栽培など特別な栽培方法で育成されたものか	1.8%	1.6%	1.7%	（21人）
コ	その他	0.6%	0.9%	0.7%	（8人）
サ	【R5～】特に判断していない	-	-	2.7%	（33人）
	無回答	3.9%	9.8%	1.3%	（16人）

『賞味期限や品質保持期限はいつか』と回答した方の割合が 59.0%と最も高く、次いで、『国産品か輸入品か』が 38.9%、『色、つやなど見た目はどうか』が 37.9%の順となっている。

問17　あなたは、安全な食生活を送るための、食品の安全性に関する基礎的な知識を持っていると思いますか。(1つ選択)

n＝　1,218

	項目	R1	R3	R5	
ア	持っていると思う	9.3%	14.5%	7.7%	(94人)
イ	ある程度持っていると思う	52.5%	60.3%	53.5%	(652人)
ウ	あまり持っていないと思う	29.7%	19.7%	31.9%	(388人)
エ	ほとんど持っていないと思う	6.2%	3.9%	5.5%	(67人)
	無回答	2.3%	1.6%	1.4%	(17人)

『持っていると思う』と回答した方の割合が 61.2%（『持っていると思う』7.7%＋『ある程度持っていると思う』53.5%）、『持っていないと思う』と回答した方の割合が 37.4%（『あまり持っていないと思う』31.9%＋『ほとんど持っていないと思う』5.5%）となっている。

【参考】食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合

＜全世代＞　　n＝　1,218

	項目	R1	R3	R5	
	基本的な知識を持ち、自ら判断している	56.5%	69.0%	60.7%	（739人）

＜若い世代＞　　n＝　282

	項目	R1	R3	R5	
	基本的な知識を持ち、自ら判断している	42.5%	63.7%	59.9%	（169人）

○食品の廃棄について

問 18　あなたは、「食品ロス」という問題を知っていますか。（1つ選択）　n＝　1,218

	項目	R1	R3	R5	
ア	知っている	55.5%	61.8%	59.2%	（721人）
イ	ある程度知っている	31.4%	30.3%	32.6%	（397人）
ウ	あまり知らない	7.6%	4.6%	5.7%	（69人）
エ	ほとんど・まったく知らない	2.0%	1.0%	1.3%	（16人）
	無回答	3.6%	2.3%	1.2%	（15人）

『知っている』と回答した方の割合が 91.8%（『知っている』59.2%＋『ある程度知っている』32.6%）、『知らない』と回答した方の割合が 7.0%（『あまり知らない』5.7%＋『ほとんど・まったく知らない』1.3%）となっている。

問 19　あなたは、「食品ロス」を軽減するために取り組んでいることはありますか。（すべて選択）

n＝　1,218

	項目	R1	R3	R5	
ア	小分け商品、少量パック商品、バラ売り等、食べ切れる量を購入する	46.1%	50.2%	49.8%	（607人）
イ	商品棚の手前に並ぶ期限の近い商品を購入する	-	8.9%	20.4%	（248人）
ウ	冷凍保存を活用する	55.1%	63.0%	60.2%	（733人）
エ	料理を作り過ぎない	34.4%	32.3%	32.2%	（392人）
オ	残った料理を別の料理に作り替える（リメイクする）	-	22.7%	26.9%	（328人）
カ	飲食店等で注文し過ぎない	30.4%	32.7%	28.8%	（351人）
キ	外食時に小盛メニュー等、希望に沿った料理で料理を提供する店舗を選ぶ	-	5.4%	6.2%	（75人）
ク	日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認している	36.4%	34.1%	33.7%	（410人）
ケ	「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する	61.7%	66.2%	65.1%	（793人）
コ	残さず食べる	56.1%	58.8%	60.2%	（733人）
サ	宴席において、料理を食べ切る時間を設けている	8.7%	3.7%	5.8%	（71人）
シ	その他	1.3%	2.3%	0.5%	（6人）
ス	取り組んでいることはない	2.7%	1.7%	1.1%	（14人）
	無回答	3.6%	2.3%	2.0%	（24人）

『「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する』と回答した方の割合が 65.1%と最も高く、次いで、『冷凍保存を活用する』、『残さず食べる』がともに 60.2%、『小分け商品、少量パック商品、バラ売り等、食べ切れる量を購入する』が 49.8%の順となっている。

【参考】食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合

n＝　1,218

	項目	R1	R3	R5	
	食品ロス削減のために何らかの行動をしている	85.2%	91.1%	90.5%	(1,102人)

○新型コロナウイルス感染症と食生活について

問 20　あなたご自身の現在の食生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大前と比べて変わりましたか。（1つ選択）

＜R5年度＞　n＝　1,218

	項目	増えた	変わらない	減った	もともとない	無回答
①	栄養バランスのとれた食事	9.6%	83.7%	1.2%	2.0%	3.5%
②	自宅で料理を作る回数	20.0%	69.0%	1.6%	6.2%	3.1%
③	自宅で食事を食べる回数	26.8%	67.7%	1.9%	0.2%	3.4%
④	家族と食事を食べる回数	11.8%	75.5%	3.6%	4.6%	4.5%
⑤	家族以外の誰かと食事を食べる回数	5.3%	37.0%	44.8%	8.7%	4.1%
⑥	朝食を食べる回数	3.7%	86.9%	2.1%	3.4%	3.9%
⑦	持ち帰りの弁当や総菜の利用	13.1%	57.9%	8.8%	15.8%	4.4%
⑧	フードデリバリーサービス（料理を注文し、配達を受けるサービス）の利用	4.1%	25.6%	3.4%	62.7%	4.1%
⑨	経済的な理由で食物（菓子、嗜好飲料を除く）の購入を控えた、または購入できなかった回数	9.0%	62.3%	6.0%	18.5%	4.2%
⑩	食事作りに要する時間や労力	12.9%	71.4%	2.8%	8.0%	4.8%
⑪	食に関する情報の入手	10.8%	75.5%	1.6%	7.5%	4.6%
⑫	規則正しい生活リズム	8.1%	82.1%	3.5%	2.4%	3.9%
⑬	在宅勤務の時間	4.2%	35.2%	0.8%	54.5%	5.3%

＊「増えた」と回答した人の割合の比較（R3に調査した項目のみ）

	項目	R3	R5	
①	栄養バランスのとれた食事	8.8%	9.6%	↑
②	自宅で料理を作る回数	26.6%	20.0%	↓
③	自宅で食事を食べる回数	38.6%	26.8%	↓
④	家族と食事を食べる回数	16.6%	11.8%	↓
⑩	食事作りに要する時間や労力	14.9%	12.9%	↓
⑪	食に関する情報の入手	9.8%	10.8%	↑
⑫	規則正しい生活リズム	9.4%	8.1%	↓

○デジタル技術を活用した食育について

問 21

①あなた又はあなたのご家族は、これまでにデジタル技術を活用した食育（インターネット等を通した食育に関する情報や体験など）を利用したことがありますか。（1つ選択）

n＝ 1,218

	項目	R1	R3	R5	
ア	利用したことがある	-	-	20.4%	（249人）
イ	利用したことがない	-	-	76.3%	（929人）
	無回答	-	-	3.3%	（40人）

※①で「ア　利用したことがある」を選択した方のみ回答

②利用したことがあるコンテンツを教えてください。（すべて選択）

n＝ 249

	項目	R1	R3	R5	
ア	食に関するオンラインセミナーの動画の視聴	-	-	9.2%	（23人）
イ	料理レシピ動画など、調理に関する動画の視聴	-	-	89.6%	（223人）
ウ	食品工場見学の動画など、食品加工に関する動画の視聴	-	-	13.7%	（34人）
エ	収穫体験など、農林水産業の生産現場に関する動画の視聴	-	-	8.4%	（21人）
オ	SNS等での料理レシピ等、食に関する情報の入手や収集	-	-	60.2%	（150人）
カ	SNS等での農林水産業に関する情報の入手や収集	-	-	6.0%	（15人）
キ	食育に関するアプリ（料理レシピ、栄養バランス、フードロス削減など）の利用	-	-	24.5%	（61人）
ク	食に関するオンラインセミナーへのリアルタイムでの参加	-	-	1.6%	（4人）
ケ	オンライン料理教室へのリアルタイムでの参加	-	-	0.0%	（人）
コ	オンライン食品工場見学へのリアルタイムでの参加	-	-	0.0%	（人）
サ	オンラインで生産現場（農場等）とつないだ農林漁業体験への参加	-	-	0.0%	（人）
シ	その他	-	-	0.4%	（1人）
	無回答	-	-	5.2%	（13人）

①で『利用したことがある』と回答した方に、利用したことのあるコンテンツを聞いたところ、『料理レシピ動画など、調理に関する動画の視聴』と回答した方の割合が 89.6%と最も高く、次いで、『SNS 等での料理レシピ等、食に関する情報の入手や収集』が 60.2%となっている。

資料2

令和５年度「食育に関する市民アンケート(高校生対象)」調査結果

■調 査 目 的　高校生の食育への関心や食生活の現状を把握し、全市民的運動として食育を推進する施策の基礎資料とするため。

■調 査 期 間　令和５年11月17日(金)～12月１日(金) 15日間

■調査対象者　市内高等学校(下記14校)の２年生 計1,561人

- ・県立高田高等学校
- ・県立高田北城高等学校
- ・県立高田農業高等学校
- ・県立上越総合技術高等学校
- ・県立高田商業高等学校
- ・県立有恒高等学校
- ・県立久比岐高等学校
- ・県立高田南城高等学校
- ・県立直江津中等教育学校
- ・県立吉川高等特別支援学校
- ・県立高田特別支援学校 高等部
- ・県立上越特別支援学校 高等部
- ・学校法人古川学園 上越高等学校
- ・学校法人関根学園 関根学園高等学校

■回 収 結 果
- ・回答者数　1,403人
- ・回 収 率　89.9%

【調査結果の記載方法について】
表中の比率(%)は小数点第２位を四捨五入しているため、個々の選択肢の比率の合計が100%にならない場合がある。

■回答者の構成

○性別

		R5		【参考】R3
ア	男	708人	50.5%	48.9%
イ	女	666人	47.5%	47.5%
ウ	無回答	29人	2.1%	3.6%

○居住地

		R5		【参考】R3
ア	上越市	1,189人	84.7%	83.5%
イ	上越市以外	214人	15.3%	16.0%
ウ	無回答	人	0.0%	0.5%

○家族構成

		R5		【参考】R3
ア	二世代世帯	871人	62.1%	59.3%
イ	三世代世帯	490人	34.9%	37.5%
ウ	その他	36人	2.6%	2.8%
	無回答	6人	0.4%	0.5%

○食育への関心について

問1　あなたは、「食育」という言葉やその意味を知っていましたか。（1つ選択）

		R5		【参考】R3
ア	言葉も意味も知っていた	403人	28.7%	34.1%
イ	言葉は知っていたが、意味は知らなかった	840人	59.9%	58.3%
ウ	言葉も意味も知らなかった	157人	11.2%	7.2%
	無回答	3人	0.2%	0.3%

『言葉を知っていた』と回答した方の割合が 88.6%（「言葉も意味も知っていた」28.7%+「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」59.9%）、『言葉も意味も知らなかった』と回答した方の割合が 11.2%となっている。

問２　あなたは、「食」に関心がありますか。（1 つ選択）

		R5		【参考】R3
ア	関心がある	618人	44.0%	37.7%
イ	どちらかといえば関心がある	560人	39.9%	40.0%
ウ	どちらかといえば関心がない	111人	7.9%	10.5%
エ	関心がない	45人	3.2%	3.3%
オ	わからない	62人	4.4%	8.1%
	無回答	7人	0.5%	0.4%

『関心がある』と回答した方の割合が 83.9%（『関心がある』44.0%+『どちらかといえば関心がある』39.9%）、『関心がない』と回答した方の割合が 11.1%（『どちらかといえば関心がない』7.9%+『関心がない』3.2%）となっている。

問３　あなたは、食育に関する講義や調理実習に参加したいと思いますか。（1 つ選択）

		R5	
ア	参加したい	194人	13.8%
イ	内容によっては参加したい	790人	56.3%
ウ	参加したくない	415人	29.6%
	無回答	4人	0.3%

『参加したい』と回答した方の割合が 70.1%（『参加したい』13.8%+『内容によっては参加したい』56.3%）、『参加したくない』と回答した方の割合が 29.6%となっている。

問４　あなたは、朝食を週に何日食べますか。

		R5		【参考】R3
ア	ほぼ毎日食べる	1,094人	78.0%	80.4%
イ	週に4日～5日食べる	159人	11.3%	10.1%
ウ	週に2日～3日食べる	59人	4.2%	3.7%
エ	ほとんど食べない	87人	6.2%	5.2%
	無回答	4人	0.3%	0.6%

『ほぼ毎日』と回答した方の割合が 78.0%、『週に 4 日～5 日』が 11.3%、『週に 2 日～3 日』が 4.2%、『ほとんど食べない』が 6.2%となっている。

問５　あなたは、朝食を家族と一緒に食べることは週に何日ありますか。

		R5		【参考】R3
ア	ほぼ毎日食べる	559人	39.8%	36.0%
イ	週に4日～5日食べる	175人	12.5%	12.0%
ウ	週に2日～3日食べる	135人	9.6%	12.0%
エ	ほとんど食べない	527人	37.6%	38.8%
	無回答	7人	0.5%	1.1%

『ほぼ毎日食べる』と回答した方の割合が 39.8%、『週に 4 日～5 日食べる』が 12.5%、『週に 2 日～3 日食べる』が 9.6%、『ほとんど食べない』が 37.6%となっている。

問６　あなたは、夕食を家族と一緒に食べることは週に何日ありますか。

		R5		【参考】R3
ア	ほぼ毎日	944人	67.3%	63.9%
イ	週に4日～5日食べる	199人	14.2%	14.8%
ウ	週に2日～3日食べる	179人	12.8%	14.1%
エ	ほとんど食べない	75人	5.3%	6.2%
	無回答	6人	0.4%	1.0%

『ほぼ毎日食べる』と回答した方の割合が 67.3%、『週に 4 日～5 日食べる』が 14.2%、『週に 2 日～3 日食べる』が 12.8%、『ほとんど食べない』が 5.3%となっている。

問 7　あなたは、主食（ごはん、パン、麺など）・主菜（肉・魚・卵・大豆製品などを使ったメインの料理）・副菜（野菜・きのこ・いも・海藻などを使った小鉢・小皿の料理）を3つそろえて食べることが1日に2回以上あるのは、週に何日ありますか。

		R5		【参考】R3
ア	ほぼ毎日	860人	61.3%	64.0%
イ	週に4日～5日	294人	21.0%	20.8%
ウ	週に2日～3日	146人	10.4%	9.1%
エ	ほとんどない	92人	6.6%	5.2%
	無回答	11人	0.8%	0.9%

『ほぼ毎日』と回答した方の割合が 61.3%、『週に 4 日～5 日』が 21.0%、『週に 2 日～3 日』が 10.4%、『ほとんどない』が 6.6%となっている。

問 8　あなたは、普段ゆっくりよく噛んで食べていますか。（1 つ選択）

		R5	
ア	ゆっくりよく噛んで食べている	285人	20.3%
イ	どちらかと言えば、ゆっくりよく噛んで食べている	572人	40.8%
ウ	どちらかと言えば、ゆっくりよく噛んで食べていない	443人	31.6%
エ	ゆっくりよく噛んで食べていない	95人	6.8%
	無回答	8人	0.6%

『よく噛んで食べている』と回答した方の割合が 61.1%（『ゆっくりよく噛んで食べている』20.3%＋『どちらかと言えば、ゆっくりよく噛んで食べている』40.8%）、『よく噛んで食べていない』と回答した方の割合が 38.4%（『どちらかと言えば、ゆっくりよく噛んで食べていない』31.6%＋『ゆっくりよく噛んで食べていない』6.8%）となっている。

問 9　あなたは、ご自宅で「家庭の味」は受け継がれていると思いますか。（1 つ選択）

		R5	
ア	受け継がれていると思う	514人	36.6%
イ	少しは受け継がれていると思う	470人	33.5%
ウ	受け継がれていないと思う	101人	7.2%
エ	分からない	293人	20.9%
	無回答	25人	1.8%

『受け継がれていると思う』と回答した方の割合が 70.1%（『受け継がれていると思う』36.6%＋『少しは受け継がれていると思う』33.5%）、『受け継がれていないと思う』と回答した方の割合が 7.2%となっている。

問 10　あなたは、ご自宅での食事は楽しいと感じますか。(1 つ選択)

		R5	
ア	とても楽しい	709人	50.5%
イ	まあまあ楽しい	487人	34.7%
ウ	楽しくない	63人	4.5%
エ	分からない	121人	8.6%
	無回答	23人	1.6%

『楽しい』と回答した方の割合が 85.2%(『とても楽しい』50.5%+『まあまあ楽しい』34.7%)、『楽しくない』と回答した方の割合が 4.5%となっている。

○今後の食生活について

問 11　あなたは、近い将来自立した食生活を送ることに関して心配していることはありますか。(すべて選択)

		R5	
ア	自分で調理(自炊)できるか分からない	591人	42.1%
イ	自分で買い物ができるか分からない	145人	10.3%
ウ	普段食べている食材が手に入るか分からない	90人	6.4%
エ	栄養バランスのとれた食事ができるか分からない	748人	53.3%
オ	何をどのくらい食べたら健康でいられるか分からない	311人	22.2%
カ	毎日3食きちんと食事がとれるか分からない	312人	22.2%
キ	その他	19人	1.4%
ク	特に心配していない	330人	23.5%
	無回答	25人	1.8%

『栄養バランスのとれた食事ができるか分からない』と回答した方の割合が 53.3%と最も高く、次いで、『自分で調理(自炊)できるか分からない』が 42.1%、『特に心配していない』が 23.5%の順となっている。

〇その他

問 12　上越市では、今夏の農地渇水と異常高温に伴い、水源のダムが枯渇するという水不足と猛暑日が当市の記録を更新するという厳しい環境の下にあったことから、農作物等に被害が発生しました。このような状況にあったことを知っていますか。（1 つ選択）

		R5	
ア	知っている	422人	30.1%
イ	少し知っている	280人	20.0%
ウ	あまり知らない	265人	18.9%
エ	知らない	407人	29.0%
	無回答	29人	2.1%

『知っている』と回答した方の割合が 50.1%(『知っている』30.1%＋『少し知っている』20.0%)、『知らない』と回答した方の割合が 47.9%(『あまり知らない』18.9%＋『知らない』29.0%)となっている。

資料３

R6年1月末現在

■第４次上越市食育推進計画指標項目の取組状況の推移

【基本方針１】生涯にわたり食を通じた心身の健康づくりを推進します

（１）一人一人の年齢や環境に応じた食習慣の確立

	指標項目		策定時（R3）	R4	R5	目標値（R8）	県（R1→R6）	国（R2→R7）
1	朝食を欠食する市民の割合（全く食べない+あまり食べない）	小学生	3.1%	3.1%	3.2%	0%	3.3%→0%	4.6%(R1)→0%
		中学生	5.2%	5.4%	6.5%	0%		
		高校生	5.2%	－	6.2%	3%		
		若い世代（20～39歳）	7.3%	－	11.3%	6%	19.8%→15%	21.5%→15%以下
2	虫歯のない児童・生徒の割合	3歳	96.3%	96.2%	－	95%	90.4%(H30)→95%	
		12歳	90.5%	91.4%	－	90%	84.4%→90%	
		17歳	79.6%	81.5%	－	80%	－	－
3	ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合		45.8%	－	47.9%	70%	－	47.3%→55%以上
4	適正体重を維持している市民の割合	20歳代～60歳代の男性	49.5%	48.7%	48.3%	50%	－	－
		20歳代～60歳代の女性	45.3%	44.9%	43.5%	45%	－	－
5	生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する市民の割合		57.0%	－	55.7%	72%	－	64.3%→75%以上

（２）家庭、学校、地域、その他あらゆる機会及び場所の活用

	指標項目		策定時（R3）	R4	R5	目標値（R8）	県（R1→R6）	国（R2→R7）
1	朝食または夕食を家族と一緒に食べる「共食」の週当たりの回数		平均9回	－	平均9.8回	平均11回以上	－	週9.6回→週11回以上
2	普段の食生活の中で食べることを楽しんでいる市民の割合		82.8%	－	85.9%	90%以上	－	－
3	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合	全世代	43.6%	－	39.7%	80%	44.6%→80%	36.4%→50%以上
		若い世代（20～39歳）	29.0%	－	25.2%	55%	32.2%→55%	27.4%→40%以上
4	地域等で共食したいと思う人が共食する割合		42.0%	－	60.1%	75%	－	70.7%→75%以上

【基本方針２】家庭、学校、地域、その他あらゆる機会及び場所の活用

	指標項目	策定時（R3）	R4	R5	目標値（R8）	県（R1→R6）	国（R2→R7）
1	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている市民の割合	~~67.3%~~ 48.0%	－	45.1%	変更前：75% 変更後：55%	－	50.4%→55%以上
2	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承している若い世代（20歳～39歳）の市民の割合	61.8%	－	64.2%	65%	－	－
3	郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている市民の割合	46.9%	－	49.5%	50%以上	－	44.6%→50%以上

【基本方針３】食育推進に向けた連携促進と情報共有できる環境づくりを推進します

	指標項目		策定時（R3）	R4	R5	目標値（R8）	県（R1→R6）	国（R2→R7）
1	食育に関心を持っている市民の割合		77.7%	－	70.8%	90%以上	56.6%→90%	83.2%→90%以上
2	食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合	全世代	69.0%	－	60.7%	90%	－	75.2%→80%以上
		若い世代（20～39歳）	63.7%	－	59.9%	70%	－	－

【基本方針４】食育活動の推進により上越の農林漁業への理解を促進します

	指標項目	策定時（R3）	R4	R5	目標値（R8）	県（R1→R6）	国（R2→R7）
1	学校給食で地場産物（青果物）を使用する割合	18.0%	12.58%	14.77%	20%	－	－
2	地域食材を積極的に活用する飲食店（地産地消推進の店）の認証店数	173軒	174軒	169軒	180軒以上	－	－
3	環境保全型農業に積極的に取り組む組織数及び取組面積	63組織 929ha	38組織 775ha	41組織 652ha	91組織 1,473ha	－	－
4	環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民の割合	58.0%	－	55.6%	75%以上	－	－
5	食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合	91.1%	－	90.5%	92%以上	R3把握→80%	76.5%→80%以上

資料４

令和5年度 上越市食育推進実施計画（アクションプラン）進捗管理一覧表【令和6年1月末現在】

基本方針	No.	事業名	5年度目標	R4目標達成状況	R5目標達成状況	担当課
生涯にわたる食を通じた心身の健康づくりの推進	1	妊産期の食育推進	低出生体重児の割合の減少	未達成	－	健康づくり推進課
	2-1	乳幼児期の食育推進	肥満、やせの子どもの減少	達成	－	健康づくり推進課
	2-2			－	－	幼児保育課
	2-3			概ね達成	概ね達成	学校教育課
	3-1	学童期・思春期の食育推進	保健指導により食の正しい知識を持つ児童・生徒の増加	概ね達成	概ね達成	健康づくり推進課、学校教育課
	3-2		食育に関する講義や調理実習を行う市内高等学校数	未達成	未達成	農政課
	4	青年期・壮年期の保健指導事業	特定保健指導実施率の増加	達成	－	健康づくり推進課
	5	高齢期の保健指導事業	適正体重の高齢者（65歳以上）の増加	概ね達成	概ね達成	健康づくり推進課
	6-1	健全な食習慣の推進	朝食を欠食する市民の減少	未達成	未達成	健康づくり推進課
	6-2			未達成	未達成	幼児保育課
	6-3			未達成	未達成	学校教育課
	7-1	歯科保健事業の推進	虫歯のない児童・生徒の割合の増加	達成	－	健康づくり推進課
			ゆっくりよく噛んで食べる市民の増加	－	未達成	
	7-2		虫歯のない児童・生徒の割合の増加	達成	－	幼児保育課
			ゆっくりよく噛んで食べる市民の増加	－	未達成	
	7-3		虫歯のない児童・生徒の割合の増加	達成	－	学校教育課
			ゆっくりよく噛んで食べる市民の増加	－	未達成	
	8	メタボリックシンドロームの予防・改善	メタボリックシンドローム該当者、予備群の割合の減少	概ね達成	－	健康づくり推進課
	9	適正体重維持の推進	適正体重を維持している市民の増加	未達成	未達成	健康づくり推進課
	10	生活習慣病の予防	適正体重や減塩等に気を付けた食生活を実践する市民の増加	－	未達成	健康づくり推進課
	11	身体活動や運動習慣の確立	30分以上の運動を週2回以上、1年以上実施している人の割合の増加	達成	達成	健康づくり推進課
	12-1	親子で参加・体験できるイベント等の実施	親子で参加できる食に関する体験の場の提供	達成	達成	農政課
	12-2		上越野菜のPRや親子のコミュニケーション等の機会の提供	達成	達成	農村振興課
	13	食生活の改善に必要な情報提供	「食育ガイド」を活用した食育推進の啓発回数	未達成	未達成	農政課
	14	家庭での共食についての啓発	朝食又は夕食を家族と食べる「共食」の回数	－	未達成	農政課
	15	在宅時間を有効に活用できる食育情報の提供	インターネットや紙媒体による在宅時間を活用できる食育情報の提供回数	達成	達成	農政課
	16	保育園での食の体験活動	体験活動により子どもたちの食に関する興味・関心を高める	達成	達成	幼児保育課
	17	幼稚園・小中学校での食の体験活動	市立幼稚園、小中学校での食に関する体験活動の実施	達成	達成	学校教育課
	18	学校における食育活動の充実	事業実施により食に対する正しい知識を持った児童生徒の増加	達成	達成	学校教育課
	19	家庭や地域とともに進める食に関する教育活動	児童・生徒の健全な食習慣を支援するよう家庭への啓発を図る	概ね達成	概ね達成	学校教育課
	20	小中学校における特色ある食に関する食育活動の推進	地域や学校の伝統・文化をいかした食育を実践する学校の増加	概ね達成	達成	学校教育課
	21	栄養バランスを意識した食生活の推進	主食・主菜・副菜が揃った食事を1日2回以上ほぼ毎日実践する市民の増加	－	未達成	健康づくり推進課
	22	日本型食生活の普及活動	日本型食生活を実践する市民の増加	－	達成	農政課
	23	地域や職場での共食の有効性の発信	地域等で共食したいと思う市民が共食する割合	－	達成	農政課
地域や家庭で受け継がれてきた食文化の継承	24	郷土料理、食文化の普及を推進する講座の実施	郷土料理や食文化の理解を深め、興味・関心を高めた参加者の割合	達成	達成	社会教育課
	25	謙信KIDSプロジェクト	上越の食について興味・関心を深めた参加者の割合	達成	達成	社会教育課
	26	「発酵のまち上越」の啓発活動	SNSにより上越は「発酵のまち」というイメージを持つ市民の増加	達成	未達成	上越ものづくり振興センター
	27	SNS等を活用した若い世代への郷土料理の継承	郷土料理や上越の旬の食材を使用したレシピの投稿回数	達成	達成	農政課
			郷土料理や伝統料理を月1回以上食べる市民の割合	－	達成	
	28	地場産食材、郷土料理を取りれた学校給食の推進	地場産食材や郷土料理を取り入れた給食の提供回数	達成	達成	教育総務課
食育推進に向けた連携促進と情報共有できる環境づくりの推進	29	食育関係団体の食育活動の集約と情報発信	食育情報集約体制の整備と集約した情報の発信回数	達成	達成	農政課
	30	健康づくり推進協議会の開催	健康づくり推進協議会の開催回数	達成	達成	健康づくり推進課
	31	食育に関する積極的な情報提供	食育情報の発信回数	達成	達成	農政課、関係課
	32	学校給食だよりの発行による情報提供	給食だよりの発行回数	達成	達成	教育総務課
	33	「食育月間」や「食育の日」を中心とした食育推進運動	「食育月間」及び「食育の日」の認知度の向上	－	未達成	農政課、関係課
	34	食育実践セミナーの開催	食育実践セミナーの開催回数	達成	達成	農政課、関係課
			食育に関心を持っている市民の割合	－	未達成	
	35	デジタル技術を活動を活用した食育情報の発信	市HP・SNSに食育情報を発信する回数	達成	達成	農政課
	36	食の安全に関する情報発信	食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合	－	未達成	健康づくり推進課
	37	農林水産物等の放射性物質等の情報発信		－	未達成	農村振興課、農林水産整備課
	38	食品表示に関する普及啓発		－	未達成	農村振興課
上越の農林漁業への理解の促進	39	地場産物（青果物）を使用した給食の提供	学校給食の地場産物（青果物）使用量の拡大	未達成	未達成	教育総務課、農政課
	40	上越産農産物等の情報発信	facebookでの情報発信の回数	達成	未達成	農村振興課
	41	地産地消推進の店認定事業	地域食材を積極的に活用する地産地消推進の店の増加	未達成	未達成	農政課
	42	農産物直売所と消費者のつながり強化	事業の参加者数	達成	達成	農村振興課
	43	農林漁業体験活動等の情報提供	市民が容易に農林漁業体験情報を入手できるようにする	達成	達成	農村振興課
	44	都市・農村交流促進	都市との交流体験者数	未達成	未達成	農村振興課
	45	環境保全型農業の推進	環境保全型農業の取組面積の維持、有機農業の取組面積の拡大	未達成	未達成	農政課
	46	環境と調和した方法で作られた農林水産物や食品の消費喚起	環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民の割合	－	未達成	農政課
	47	食品ロス削減に向けた取組の推進	「20・10運動」等の食品ロス削減に向けた取組の啓発回数	達成	達成	農政課
			食品ロス削減のために行動している市民の割合	－	未達成	

総括表

目標達成状況（61項目）	目標数	目標数
達成	27	24
概ね達成	6	4
未達成	11	25
―（評価困難）	17	8

資料５

令和５年度
上越市食育推進実施計画
（アクションプラン）
進捗管理表

（令和６年１月末現在）

上　　越　　市

■アクションプラン一覧

ページ	事業No.及び事業名	事業担当課
1	1 妊産期の食育推進	健康づくり推進課
2	2-1 乳幼児期の食育推進	健康づくり推進課
3	2-2 乳幼児期の食育推進	幼児保育課
4	2-3 乳幼児期の食育推進	学校教育課
5	3-1 学童期・思春期の食育推進	健康づくり推進課、学校教育課
6	3-2 学童期・思春期の食育推進	農政課
7	4 青年期・壮年期の保健指導事業	健康づくり推進課
8	5 高齢期の保健指導事業	健康づくり推進課
9	6-1 健全な食習慣の推進	健康づくり推進課
10	6-2 健全な食習慣の推進	幼児保育課
11	6-3 健全な食習慣の推進	学校教育課
12	7-1 歯科保健事業の推進	健康づくり推進課
13	7-2 歯科保健事業の推進	幼児保育課
14	7-3 歯科保健事業の推進	学校教育課
15	8 メタボリックシンドロームの予防・改善	健康づくり推進課
16	9 適正体重維持の推進	健康づくり推進課
17	10 生活習慣病の予防	健康づくり推進課
18	11 身体活動や運動習慣の確立	健康づくり推進課
19	12-1 親子で参加・体験できるイベント等の実施	農政課
20	12-2 親子で参加・体験できるイベント等の実施	農村振興課
21	13 食生活の改善に必要な情報提供	農政課
22	14 家庭での共食についての啓発	農政課
23	15 在宅時間を有効に活用できる食育情報の提供	農政課
24	16 保育園での食の体験活動	幼児保育課
25	17 幼稚園・小中学校での食の体験活動	学校教育課
26	18 学校における食育活動の充実	学校教育課
27	19 家庭や地域とともに進める食に関する教育活動	学校教育課
28	20 小中学校における特色ある食に関する食育活動の推進	学校教育課
29	21 栄養バランスを意識した食生活の推進	健康づくり推進課
30	22 日本型食生活の普及活動	農政課
31	23 地域や職場での共食の有効性の発信	農政課
32	24 郷土料理、食文化の普及を推進する講座の実施	社会教育課
33	25 謙信KIDSプロジェクト	社会教育課
34	26 「発酵のまち上越」の啓発活動	上越ものづくり振興センター
35	27 SNS等を活用した若い世代への郷土料理の継承	農政課
36	28 地場産食材、郷土料理を取りれた学校給食の推進	教育総務課
37	29 食育関係団体の食育活動の集約と情報発信	農政課
38	30 健康づくり推進協議会の開催	健康づくり推進課
39	31 食育に関する積極的な情報提供	農政課、関係課
40	32 学校給食だよりの発行による情報提供	教育総務課
41	33 「食育月間」や「食育の日」を中心とした食育推進運動	農政課、関係課
42	34 食育実践セミナーの開催	農政課、関係課
43	35 デジタル技術を活動を活用した食育情報の発信	農政課
44	36 食の安全に関する情報発信	健康づくり推進課
45	37 農林水産物等の放射性物質等の情報発信	農村振興課、農林水産整備課
46	38 食品表示に関する普及啓発	農村振興課
47	39 地場産物(青果物)を使用した給食の提供	教育総務課、農政課
48	40 上越産農産物等の情報発信	農村振興課
49	41 地産地消推進の店認定事業	農政課
50	42 農産物直売所と消費者のつながり強化	農村振興課
51	43 農林漁業体験活動等の情報提供	農村振興課
52	44 都市・農村交流促進	農村振興課
53	45 環境保全型農業の推進	農政課
54	46 環境と調和のとれた農林水産物や食品の消費喚起	農政課
55	47 食品ロス削減に向けた取組の推進	農政課

事業№及び事業名	1　妊産期の食育推進
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	妊婦が正常な妊娠の維持と出産ができるよう、また妊婦健診の結果に応じた生活がわかり、両親の将来の生活習慣病予防につながる食に関する知識を提供する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	すくすく赤ちゃんセミナーを実施し、妊産婦等へ食育の啓発を行う。	→	→	→	→
目　　標	低出生体重児の割合の減少	→	→	→	→
目標に対する実績	低出生体重児の割合 9.7% (R5.7月現在市推計値)	※指標とする令和5年の報告値は、令和7年3月に公表（県母子保健の現況）			
目標達成状況	未達成	－			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	・すくすく赤ちゃんセミナーにおいて、妊娠や出産、育児の正しい知識を学び、妊娠期から子どもの成長や発達・育児について考える機会を持ち、子どもが健やかに育つことができるよう支援した。あわせて、妊婦とその家族に対し、食生活の重要性を理解し、生活の中で取り組めるよう支援した。 ・事業実施後のアンケートから、「食生活の見直しができた」「普段の食事を意識して、一工夫してみようと思った」等、生活と食べ方を結びつけた感想が聞かれた。 ・低出生体重児の割合 R2年 10.1% R3年　8.4% R4年（市推計値）9.7% ※指標とする令和4年の報告値は、令和6年3月に公表（県母子保健の現況）	・すくすく赤ちゃんセミナーにおいて、妊娠や出産、育児の正しい知識を学び、妊娠期から子どもの成長や発達・育児について考える機会を持ち、子どもが健やかに育つことができるよう支援している。あわせて、妊婦とその家族に対し、食生活の重要性を理解し、生活の中で取り組めるよう支援している。 ・低出生体重児の割合 R2年 10.1% R3年　8.4% R4年（市推計値）9.7%
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 ・低出生体重児の割合は令和3年度と比較し、市推計値では増加している。	【評価】 ・低出生体重児の割合は令和3年度と比較し、市推計値では増加している。
	【課題】 ・妊娠期において食生活の重要性を理解することは、妊婦とその家族だけでなく、出産後の子どもの生涯を通じた健康づくりにも影響を与えることから、引き続き、食生活や生活リズム等の生活習慣の重要性について、理解を深める支援を継続していく必要がある。	【課題】 ・妊娠期において食生活の重要性を理解することは、妊婦とその家族だけでなく、出産後の子どもの生涯を通じた健康づくりにも影響を与えることから、引き続き、食生活や生活リズム等の生活習慣の重要性について、理解を深める支援を継続していく必要がある。

事業№及び事業名	２－１　乳幼児期の食育推進
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	子どもの成長・発達に応じた食生活についての正しい知識や生活リズムに配慮した健全な食生活について啓発を行う。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	乳幼児健診、離乳食相談会、訪問等を実施し、健全な食生活の啓発を行う。	→	→	→	→
目　　標	【2-1、2-2、2-3共通】 肥満、やせの子どもを減らす	→	→	→	→
目標に対する実績	肥満児の割合　5.4% やせの割合　0.2%	※指標とする報告値は、令和6年5月に公表			
目標達成状況	達成	－			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	・離乳食相談会や乳幼児健康診査において、子どもの発育発達にあった食生活や3歳までの適正な体重の伸びについて、健康教育を実施した。また、必要に応じて、個別相談や家庭訪問により保護者への支援を実施した。 ・肥満傾向児の割合を減らすため、すべての乳幼児健康診査において、肥満度の算出及び成長曲線への記録を行い、保護者自らが子どもの体重の伸びを視覚的に確認できるように支援した。また、1歳児健康診査以降の全ての幼児健康診査において、個別の栄養相談による支援を行った。 ・3歳児健康診査における状況 肥満傾向児の割合 令和3年度 6.6%→令和4年度 5.4% やせの割合 令和3年度 0.4%→令和4年度 0.2%	・離乳食相談会や乳幼児健康診査において、子どもの発育発達にあった食生活や3歳までの適正な体重の伸びについて、健康教育を実施している。また、必要に応じて、個別相談や家庭訪問により保護者への支援を実施している。 ・肥満傾向児の割合を減らすため、すべての乳幼児健康診査において、肥満度の算出及び成長曲線への記録を行い、保護者自らが子どもの体重の伸びを視覚的に確認するとともに、成長曲線の状況により個別の栄養相談を行っている。また、1歳児健康診査以降の全ての幼児健康診査において、個別の栄養相談による支援を行っている。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 R3年度と比較し、3歳児健診における肥満傾向及びやせの児の割合は減少してきている。	【評価】 R3年度と比較し、3歳児健診における肥満傾向及びやせの児の割合は減少してきている。
	【課題】 ・幼児期の肥満が学童期の肥満につながっていくことから、引き続き、3歳児健康診査までの各健診において、生活リズムや成長発達にあわせた食生活について保健指導を実施していく必要がある。 ・「成長曲線」を活用して保護者自らが子どもの体重の伸びを確認できるよう支援していく必要がある。	【課題】 ・幼児期の肥満が学童期の肥満につながっていくことから、引き続き、3歳児健康診査までの各健診において、生活リズムや成長発達にあわせた食生活について保健指導を実施していく必要がある。 ・「成長曲線」を活用して保護者自らが子どもの体重の伸びを確認できるよう支援していく必要がある。 ・肥満の改善や生活習慣病予防に向けて、園や学校と課題を共有し、継続して支援していく必要がある。

事業№及び事業名	２－２　乳幼児期の食育推進
事業担当課	幼児保育課
取組の概要	子どもの成長・発達に応じた食生活についての正しい知識や生活リズムに配慮した健全な食生活について啓発を行う。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	・保育園及び認定こども園において、保護者が子の発育状態を視覚的に確認するため、「成長曲線」を活用した取組を行う。 ・肥満傾向の園児には保護者面談等の支援を行う。	→	→	→	→
目　　標	【2-1、2-2、2-3共通】 肥満、やせの子どもを減らす	→	→	→	→
目標に対する実績	3歳以上児 肥満の割合 男　3.74% 女　5.86% やせの割合 男　1.2% 女　1.5% ※R4.6月調査値 公立保育園（34園）	3歳以上児 肥満の割合 男　5.4% 女　4.7% やせの割合 男　1.0% 女　1.7% ※R5.6調査値 公私立保育園、認定こども園（65園）			
目標達成状況	―	―			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	・保育園及び認定こども園において、成長曲線を活用し、保護者が園児の身長・体重を自ら記入し、発育状況と肥満度の確認を実施することを促した。 ・肥満傾向の園児には保育園と地区担当保健師・栄養士が連携し、保護者面談等で幼児期の成長特性を考慮し、生活リズムや食の支援を実施した。	・保育園及び認定こども園において、成長曲線を活用し、保護者が園児の身長・体重を自ら記入し、発育状況と肥満度の確認を実施することを促している。 ・肥満傾向の園児には保育園と地区担当保健師・栄養士が連携し、保護者面談等で幼児期の成長特性を考慮し、生活リズムや食の支援を実施している。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 今年度、公立から民営化された4園分がデータに入らないため、昨年度とのデータの対比は困難と思われる。（母数で500人減） 参考：令和3年度 肥満の割合　男　5.23%　女　5.73% やせの割合　男　1.07%　女　1.37%	今年度から公立・私立・認定こども園全園で調査したため、昨年度とのデータの対比は困難と思われる。（母数で2,300人増）
	【課題】 ・肥満度が上昇するほど、改善が困難であることから、予防の観点から1～2歳児からの早期介入及び継続的な支援が必要である。 ・肥満、やせの減少に向けて成長曲線を活用しながら適切な時期に保護者と保育園が連携し、園児の生活リズムや食事、運動遊びの支援を充実させる必要がある。	・肥満度が上昇するほど、改善が困難であることから、予防の観点から1～2歳児からの早期介入及び継続的な支援が必要である。 ・肥満、やせの減少に向けて成長曲線を活用しながら適切な時期に保護者と保育園が連携し、園児の生活リズムや食事、運動遊びの支援を充実させる必要がある。

事業№及び事業名	２－３　乳幼児期の食育推進
事業担当課	学校教育課
取組の概要	子どもの成長・発達に応じた食生活についての正しい知識や生活リズムに配慮した健全な食生活について啓発を行う。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	・市立幼稚園において、日常的に紙芝居や絵本などを用いて望ましい食習慣が身に付くよう指導する。 ・「成長曲線」を活用し、肥満傾向にある園児について、保護者と面談して栄養指導等を実施する。	→	→	→	→
目　　標	【2-1、2-2、2-3共通】 肥満、やせの子どもを減らす	→	→	→	→
目標に対する実績	3歳以上児 肥満・やせの割合：前年度からの増加なし ※R4.6月調査値 市立幼稚園（1園）	3歳以上児 肥満・やせの割合：前年度からの増加なし ※R5.6月調査値 市立幼稚園（1園）			
目標達成状況	概ね達成	概ね達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	・市立幼稚園において、成長曲線を活用し、肥満傾向にある幼児の経過観察を行った。 ・肥満傾向の園児には担任と養護教諭が連携し、保護者面談等で幼児期の成長特性を考慮した生活リズムや望ましい食生活について啓発した。	・市立幼稚園において、成長曲線を活用し、肥満傾向の園児を把握するとともに、その園児に対しては担任と養護教諭が連携し、保護者面談等で生活リズムや望ましい食生活について啓発した。 ・園生活の中で、食育や運動遊びに留意した活動を取り入れた。 ・掲示物や保健だよりなどを通じて、健全な食生活を啓発した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 肥満・やせの割合の増加は見られなかった。 ※対象者が少なく個人が特定されるおそれがあるため、数値の公表はしない。	【評価】 肥満・やせの割合の増加は見られなかった。 ※対象者が少なく個人が特定されるおそれがあるため、数値の公表はしない。
	【課題】 ・成長曲線を活用し、保護者と連携を図りながら、園児の健やかな発育を支援する。予防的な観点も踏まえて、園児の望ましい生活リズムや食事、運動遊びの啓発を継続する必要がある。	・成長曲線を活用し、日常的な保護者と連携を図りながら、園児の健やかな発育を支援する。予防的な観点も踏まえて、園生活を工夫するとともに、園児の望ましい生活リズムや食事、運動遊びの啓発を継続する必要がある。

事業№及び事業名	３－１　学童期・思春期の食育推進
事業担当課	健康づくり推進課、学校教育課
取組の概要	学校保健委員会や授業の一環として、自分の体に合わせた食事のとり方等の保健指導を行い、心身の成長や健全な生活習慣を確立するための支援を行う。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	学校保健委員会や授業の中で身体の成長や発達にあわせた食事のとり方等について保健指導を行う。	→	→	→	→
目　　標	保健指導により、食に関する正しい知識を持った児童・生徒を増やす	→	→	→	→
目標に対する実績	生活習慣病予防講座実施校　6校 食に関する保健指導の実施　延べ100校	生活習慣病予防講座実施校　8校 食に関する保健指導の実施　延べ81校			
目標達成状況	概ね達成	概ね達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	＜健康づくり推進課＞ 思春期に関しては、生活習慣病予防に関する健康講座を希望した有恒高校、南城高校、高田特別支援学校、吉川高等特別支援学校、高田高校、上越総合技術高校の6校で実施した。講座の内容は養護教諭等と連携し、各学校の生徒の実態にあわせたものとした。 R3年度実施校　4校 R4年度実施校　6校 ＜学校教育課＞ ・健康づくり推進課と連携し、血液検査事業の一環である血液検査事前指導や事後指導による保健指導を通じて身体の成長や発達にあわせた食事のとり方等の保健指導を行い、心身の成長や健全な生活習慣を確立するための支援を行った。 ・学校保健委員会や授業の中で、身体の成長や発達にあわせた食事のとり方等について保健指導を行った。	＜健康づくり推進課＞ 思春期に関しては、生活習慣病予防に関する健康講座を希望した有恒高校、南城高校、高田特別支援学校、吉川高等特別支援学校、高田高校安塚分校、上越総合技術高校、上越特別支援学校、高田商業高校の８校で実施した。講座の内容は養護教諭等と連携し、各学校の生徒の実態にあわせたものを実施した。 ＜学校教育課＞ ・健康づくり推進課と連携し、血液検査事業の一環である血液検査事前指導や事後指導による保健指導を通じて身体の成長や発達にあわせた食事の摂り方等の保健指導を行い、心身の成長や健全な生活習慣を確立するための支援を行った。 ・学校保健委員会や授業の中で、身体の成長や発達にあわせた食事の摂り方等について保健指導を行った。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 ＜健康づくり推進課＞ 昨年度より2校多く、生活習慣病予防講座を実施することができた。 ＜学校教育課＞ 保健指導を通じて、食に関する正しい知識を持った児童生徒が増えた。	【評価】 ＜健康づくり推進課＞ 昨年度より2校多く、生活習慣病予防講座を実施することができ、年々、実施校が増えてきた。 ＜学校教育課＞ 保健指導を通じて、食に関する正しい知識を持った児童生徒が増えた。
	【課題】 ＜健康づくり推進課＞ 各学校生徒の実態や課題を養護教諭等と確認しながら、就職や進学等により自立した生活に向かう時期に、将来の見通しを立てながら、自らの生活を振り返り、体の状態にあわせた食の選択力や実践力をつけていく取組を継続していく。また、未実施校に向けて、取り組んでもらえるよう働きかけを行う必要がある。 ＜学校教育課＞ 保健指導について、他の教育活動において関連付けを図るとより効果的である。	【課題】 ＜健康づくり推進課＞ 各学校生徒の実態や課題を養護教諭等と確認しながら、就職や進学等により自立した生活に向かう時期に、将来の見通しを立てながら、自らの生活を振り返り、体の状態にあわせた食の選択力や実践力をつけていく取組を継続していく。また、未実施校や継続実施をされない学校に向けて、取り組んでもらえるよう働きかけを行う。 ＜学校教育課＞ 血液検査をきっかけに他の教育活動の関連付けを図りながら、児童生徒の生活習慣病予防教育を行うよう働きかけを行う。

事業№及び事業名	３－２　学童期・思春期の食育推進
事業担当課	農政課
取組の概要	高校生の食に対する意識向上を図るため、高等学校の要望に沿った講師を派遣し、部活動やクラス活動、授業等の時間を活用して食育に関する講義や調理実習を行う。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	市内高等学校において、高校生の食に対する意識の向上を図る食育に関する講義や調理実習を行う。	→	→	→	→
目　　標	食育に関する講義や調理実習を行う市内高等学校数　3校以上	→	→	→	→
目標に対する実績	食育に関する授業を行った高等学校数 1校	食育に関する授業を行った高等学校数 1校			
目標達成状況	未達成	未達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	＜高等学校における食育授業＞ ・開催日：5月12日（木） ・対　象：県立高田農業高等学校生物資源科森林資源コース 2年生　20人 ・内　容：課外授業として、上越地域の山菜の活用や郷土の食文化について理解を深めるため、桑取地区でウドの採取と手入れ体験を行ったほか、地域の方から山菜や山菜料理の講話を聞き、試食を行った。	＜高等学校における食育実践事業＞ 【実施校1校】 ・開催日：7月24日（月） ・場　所：高田城址公園オーレンプラザ調理実習室 ・対　象：県立高田南城高等学校3年生21人 ・講　師：NPO法人食の工房ネットワーク齊京氏 ・内　容：上越地域に伝わる郷土料理（押し寿司）の調理実習（※卒業後の一人暮らしに向けて、自分で調理する力を身に付けられるような内容）
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 コロナ禍において、これまで通り課外授業をすることが難しい状況の中、桑取の自然を感じながら上越の山菜を採取するところから食すところまでを高校生に体験してもらい、山菜の活用方法やおいしさ、上越の食文化を知ってもらう機会とすることができた。	【評価】 ・実施した1校については、学校側の要望に応じ、上越地域に伝わる郷土料理（押し寿司）をテーマに食育実践事業を活用いただき、高校生の食に対する意識向上の場を提供することができた。
	【課題】 ・事業の周知不足により、希望する高校が1校のみとなった。 ・事業については、市ホームページで周知するなど、年間を通じた事業周知を行うとともに、高校の授業以外のクラブ活動などでも活用してもらえるよう、魅力ある事業内容の検討が必要である。	【課題】 ・1校のみの実施にとどまったことから、クラブ活動などでも利用してもらえるよう、事業の周知方法等を検討する必要がある。

事業№及び事業名	４　青年期・壮年期の保健指導事業
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	自身の食習慣と身体の状況を考え合わせながら、適正な食事量の摂取を心掛け、生活習慣病の予防を啓発する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	健診結果説明会や健康講座、個別訪問など様々な場面で適正な食事量の摂取、生活習慣病予防を働き掛ける。	→	→	→	→
目　　標	特定保健指導実施率の増加	→	→	→	→
目標に対する実績	令和3年度　63.3% 令和4年度　69.6% ※指標とする法定報告値は、翌年12月に公表	※指標とする法定報告値は、翌年12月に公表			
目標達成状況	達成	－			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	・健診結果説明会や健康講座、個別訪問など様々な場面で適正な食事量の摂取、生活習慣病予防を働き掛けた。 ・健診結果説明会 令和3年度　271回　参加者数4,704人 令和4年度　271回　参加者数4,829人 ・健康講座 令和3年度　191回　参加者数5,405人 令和4年度　236回　参加者数6,521人 ・生活習慣病予防の訪問、個別保健指導 令和3年度　延べ8,260人 令和4年度　延べ9,228人	・健診結果説明会や健康講座、個別訪問など様々な場面で適正な食事量の摂取、生活習慣病予防を働き掛けた。 ・健診結果説明会 令和4年度　271回　参加者数4,829人 令和5年度　234回　参加者数3,975人 ・健康講座 令和4年度　236回　参加者数6,521人 令和5年度　338回　参加者数7,085人 ・生活習慣病予防の訪問、個別保健指導 令和4年度　延べ9,228人 令和5年度　延べ8,363人
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 健康講座の実施回数、参加者数が増加した。各事業の保健指導により、生活習慣病予防のために、適正な体重や食事量等の必要性について働き掛けることができた。 【課題】 対象者が具体的な生活改善を考えていくには、自分の身体の状態を理解することが必要なため、健診受診についての啓発を継続し個別保健指導につなげていく必要がある。	【評価】 健康講座の実施回数、参加者数が増加した。各事業の保健指導により、生活習慣病予防のために、適正な体重や食事量等の必要性について働き掛けることができた。 【課題】 対象者が具体的な生活改善を考えていくには、自分の身体の状態を理解することが必要なため、健診受診についての啓発を継続し個別保健指導につなげていく必要がある。

事業№及び事業名	５　高齢期の保健指導事業
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	高齢期の心身の変化を踏まえ、自身の食習慣と身体の状況を考え合わせながら、健康維持・生活習慣病の重症化予防のために必要な適正な食事量の摂取について啓発する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	健診結果説明会や健康講座、個別訪問など様々な場面で、高齢期における適正な食事量の摂取、生活習慣病予防を働き掛ける。	→	→	→	→
目　　標	適正体重（日本人食事摂取基準：BMI21.5～24.9）の高齢者（65歳以上）を増やす	→	→	→	→
目標に対する実績	令和3年度　41.3% 令和4年度　41.2%	令和4年度　41.2% 令和5年度　41.0%			
目標達成状況	概ね達成	概ね達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	・健診結果説明会や健康講座、個別訪問など様々な場面で適正な食事量の摂取、生活習慣病予防を働き掛けた。 ・高齢者を対象とした健康講座 令和3年度　62回　参加者数　742人 令和4年度 100回　参加者数 1,234人 ・後期高齢者の生活習慣病重症化予防対象者（高血圧、糖尿病、心房細動）への保健指導 令和3年度　延べ585人 令和4年度　延べ838人	・健診結果説明会や健康講座、個別訪問など様々な場面で適正な食事量の摂取、生活習慣病予防を働き掛けた。 ・高齢者を対象とした健康講座 令和4年度 100回　参加者数 1,234人 令和5年度　81回　参加者数 1,292人 ・後期高齢者の生活習慣病重症化予防対象者（高血圧、糖尿病、心房細動）への保健指導 令和4年度　延べ838人 令和5年度　延べ832人
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 健康講座参加者、保健指導実施者数が増加した。各事業の保健指導により、生活習慣病予防のために、適正な体重や食事量等の必要性について働き掛けることができた。 【課題】 生活習慣病の重症化予防、介護予防のため、青年期・壮年期と同様に高齢期においても健診受診や保健指導の取組を継続していく必要がある。	【評価】 健康講座参加者、保健指導実施者数が増加した。各事業の保健指導により、生活習慣病予防のために、適正な体重や食事量等の必要性について働き掛けることができた。 【課題】 生活習慣病の重症化予防、介護予防のため、青年期・壮年期と同様に高齢期においても健診受診や保健指導の取組を継続していく必要がある。

事業№及び事業名	６－１　健全な食生活の推進
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	各ライフステージの様々な場面で生活リズムに配慮した健全な食生活について啓発する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	各ライフステージで行われる健康教育の中で、朝食をきちんととることの必要性を啓発する。	→	→	→	→
目　　標	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす 小学生　0% 中学生　0% 若い世代　－	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす 小学生　0% 中学生　0% 若い世代　6.8%	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす 小学生　0% 中学生　0% 若い世代　－	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす 小学生　0% 中学生　0% 若い世代　6.2%	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす 小学生　0% 中学生　0% 若い世代　－
目標に対する実績	朝食を欠食する市民の割合 小学生　3.1% 中学生　5.4% 若い世代　－	朝食を欠食する市民を減らす 小学生　3.2% 中学生　6.5% 若い世代　11.3%			
目標達成状況	未達成	未達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	妊娠期（すくすく赤ちゃんセミナー）、乳幼児期（各乳幼児健康診査、相談会）、学童期（小中学校血液検査事業、学校保健委員会等）、思春期（高校健康講座）、成人期・高齢期（企業での健康教育、各地区健康講座等）において、各ライフステージの特性を踏まえ、体のリズムと朝食を摂ることの必要性に関する健康教育を実施した。	妊娠期（すくすく赤ちゃんセミナー）、乳幼児期（各乳幼児健康診査、相談会）、学童期（小中学校血液検査事業、学校保健委員会等）、思春期（高校健康講座）、成人期・高齢期（企業での健康教育、各地区健康講座等）において、各ライフステージの特性を踏まえ、体のリズムと朝食を摂ることの必要性に関する健康教育を実施している。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 すくすく赤ちゃんセミナー参加者等の食生活実態調査から、若い世代に朝食欠食の傾向が見られる。	【評価】 すくすく赤ちゃんセミナー参加者等の食生活実態調査から、若い世代に朝食欠食の傾向が見られる。
	【課題】 乳幼児期からの肥満や生活習慣病の発症が懸念されることや、低栄養による要介護状態も懸念されることから、各ライフステージの特性を踏まえ、様々な場面を通じて健全な食生活についての健康教育を継続して実施する必要がある。	【課題】 乳幼児期からの肥満や生活習慣病の発症が懸念されることや、低栄養による要介護状態も懸念されることから、各ライフステージの特性を踏まえ、様々な場面を通じて健全な食生活についての健康教育を継続して実施する必要がある。

事業№及び事業名	６－２　健全な食生活の推進
事業担当課	幼児保育課
取組の概要	保育園での様々な場面で生活リズムに配慮した健全な食生活について啓発する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	保育園で行う「健康教育講座」や「家庭用給食だより」、「食育集会」等の中で、朝食をきちんととることの必要性を啓発する。	→	→	→	→
目　　標	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす 小学生　0% 中学生　0% 若い世代　－	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす 小学生　0% 中学生　0% 若い世代　6.8%	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす 小学生　0% 中学生　0% 若い世代　－	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす 小学生　0% 中学生　0% 若い世代　6.2%	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす 小学生　0% 中学生　0% 若い世代　－
目標に対する実績	朝食を欠食する市民の割合 小学生　3.1% 中学生　5.4% 若い世代　－	朝食を欠食する市民を減らす 小学生　3.2% 中学生　6.5% 若い世代　11.3%			
目標達成状況	未達成	未達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	・公立保育園において地区担当保健師・栄養士が保護者や祖父母を対象に園児の生活リズムや食生活に関する健康教育講座を年１回実施した。また各園で実施される「食育集会」では園児に朝食をとることの必要性の啓発を実施した。 ・家庭配布用給食だよりや各園で作成される食育だよりで朝食をとることの必要性に関する内容についても啓発を実施した。	・公立保育園において地区担当保健師・栄養士が保護者や祖父母を対象に園児の生活リズムや食生活に関する健康教育講座を年１回実施している。また各園で実施される「食育集会」では園児に朝食をとることの必要性の啓発を実施している。 ・家庭配布用給食だよりや各園で作成する食育だよりで朝食をとることの必要性に関する内容について啓発を実施している。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 目標に対する実績測定値がないため評価不可	【評価】 目標に対する実績測定値がないため評価不可
	【課題】 ・朝食に菓子パン、菓子、ふりかけご飯等の単品のみ食べて登園する園児がいることから、今後は「朝食の質の向上」に向けて食品の選択や組み合わせについて啓発していく必要がある。 ・引き続き、園児・保護者・祖父母に向けた健康教育講座や食育集会の取組を継続し、朝食摂取の必要性について啓発を継続的に実施する必要がある。	【課題】 ・朝食に菓子パン、菓子、ふりかけご飯等の単品のみ食べて登園する園児がいることから、今後は「朝食の質の向上」に向けて食品の選択や組み合わせについて啓発していく必要がある。 ・引き続き、園児・保護者・祖父母に向けた健康教育講座や食育集会の取組を継続し、朝食摂取の必要性について啓発を継続的に実施する必要がある。

事業№及び事業名	６－３　健全な食生活の推進
事業担当課	学校教育課
取組の概要	全ての小中学校の様々な場面で生活リズムに配慮した健全な食生活について啓発する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	全ての小中学校で行う「給食時の放送」や「給食だより」等の中で、朝食をきちんととることの必要性を啓発する。	→	→	→	→
目　　標	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす。 小学生　0% 中学生　0% 若い世代　－	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす。 小学生　0% 中学生　0% 若い世代　6.8%	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす。 小学生　0% 中学生　0% 若い世代　－	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす。 小学生　0% 中学生　0% 若い世代　6.2%	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす。 小学生　0% 中学生　0% 若い世代　－
目標に対する実績	朝食を欠食する市民の割合 小学生　3.1% 中学生　5.4% 若い世代　－	朝食を欠食する市民を減らす 小学生　3.2% 中学生　6.5% 若い世代　11.3%			
目標達成状況	未達成	未達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	全ての小中学校で行う「給食時の放送」や「給食だより」等の中で、朝食をきちんととることの必要性を啓発した。 また、一部学校において個別の保健指導や食に関する指導を実施した。	全ての小中学校で行う「給食時の放送」や「給食だより」等の中で、朝食の大切さを啓発した。 必要に応じて個別の保健指導や食に関する指導を実施した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 R3年度との比較としては、小学生増減なし、中学生0.2%増であり、一定数の割合に朝食欠食が見られる。 参考：令和3年度 朝食を欠食する割合 小学生　3.1% 中学生　5.2% 若い世代　7.3%［食育市民アンケート結果］	令和5年度の結果 朝食を欠食する割合（全く食べない+あまり食べない） 小学生　3.2% 中学生　6.5% 令和4年度との比較としては、小学生0.1%増、中学生1.1%増であり、一定数の割合に朝食欠食が見られる。
	【課題】 児童生徒の朝食欠食について改善を図るため、継続して朝食をきちんととることの必要性について啓発を実施する必要がある。	児童生徒の朝食欠食の改善を図るため、朝食を欠食してしまう背景を探りつつ、朝食をきちんととることの大切さを引き続き啓発していく必要がある。

事業№及び事業名	７－１　歯科保健事業の推進
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	各ライフステージの様々な場面でよく噛んで食べる習慣について啓発する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	各ライフステージで行われる歯科保健教育の中で、よく噛んで食べることの重要性を啓発する。	→	→	→	→
目　　標	【7-1、7-2、7-3共通】 虫歯のない児童・生徒の割合を増やす。 3歳：95%以上 12歳：90%以上 17歳：80%以上	→	→	→	→
目標に対する実績	虫歯のない児童・生徒の割合 3歳：96.2% 12歳：91.4% 17歳：81.5%	※指標とする報告値は、3歳は6月、12歳と17歳は9月に公表			
目標達成状況	達成	―			
目　　標	【7-1、7-2、7-3共通】 ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 （食育市民アンケート結果） ―	【7-1、7-2、7-3共通】 ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 （食育市民アンケート結果） 55%	【7-1、7-2、7-3共通】 ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 （食育市民アンケート結果） ―	【7-1、7-2、7-3共通】 ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 （食育市民アンケート結果） 65%	【7-1、7-2、7-3共通】 ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 （食育市民アンケート結果） 70%
目標に対する実績	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可	ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合 （食育市民アンケート結果） 47.9%			
目標達成状況	―	未達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	・乳幼児健診等において、オーラルトレーニングや生活リズムと食習慣の形成について啓発を行った。また、歯科健診と個別ブラッシング指導、希望者へのフッ化物塗布を実施した。 ・高等学校における歯肉炎予防講座において、定期的な歯科健診や歯間部清掃のすすめ、ブラッシング指導を実施した。 ・成人歯科健康診査において、歯科健診と口腔ケアについて指導を行った。 ・保育園や地域における歯周病予防講座において、年代に応じた歯周病の発症予防やオーラルフレイについて啓発を行った。	・乳幼児健診等において、オーラルトレーニングや生活リズムと食習慣の形成について啓発。また、歯科健診と個別ブラッシング指導、希望者へのフッ化物塗布を実施。 ・高等学校における歯肉炎予防講座において、定期的な歯科健診や歯間部清掃のすすめ、ブラッシング指導を実施予定。 ・成人歯科健康診査において、歯科健診と口腔ケアについて指導。 ・保育園や地域における歯周病予防講座において、年代に応じた歯周病の発症予防やオーラルフレイについて啓発。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 虫歯のない児童・生徒の割合は増加傾向である。	【評価】 虫歯のない児童・生徒の割合は増加傾向である。
	【課題】 歯や口腔の健康を守るための生活リズム及び食習慣が乱れてきていることから、歯周病の発症が低年齢化している。引き続き、関係機関と課題の共有を図り、連携してライブサイクルに応じた保健指導の実施と定期的な歯科受診の必要性等について啓発を行っていく。	【課題】 乳幼児健診や離乳食相談会における相談では、「野菜を食べない」や「噛まずに丸飲みをしてしまう」という内容が多く、口腔機能の獲得に必要な食習慣の形成が重要である。歯と口腔の健康を守るため、引き続き関係機関と連携を図り、ライフコースごとの課題に応じた保健指導や、定期的な歯科受診の必要性等の啓発を行う。

事業No.及び事業名	７－２　歯科保健事業の推進
事業担当課	幼児保育課
取組の概要	保育園の様々な場面でよく噛んで食べる習慣について啓発する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	・保育園及び認定こども園に歯科衛生士等を派遣し、よく噛んで食べることの重要性を啓発する。 ・給食の時間において、園児がよく噛んで食べることができるよう支援する。	→	→	→	→
目　　標	【7-1、7-2、7-3共通】 虫歯のない児童・生徒の割合を増やす。 3歳：95%以上 12歳：90%以上 17歳：80%以上	→	→	→	→
目標に対する実績	虫歯のない児童・生徒の割合 3歳：96.2% 12歳：91.4% 17歳：81.5%	※指標とする報告値は、3歳は6月、12歳と17歳は9月に公表			
目標達成状況	達成	－			
目　　標	【7-1、7-2、7-3共通】 ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 （食育市民アンケート結果） ―	【7-1、7-2、7-3共通】 ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 （食育市民アンケート結果） 55%	【7-1、7-2、7-3共通】 ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 （食育市民アンケート結果） ―	【7-1、7-2、7-3共通】 ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 （食育市民アンケート結果） 65%	【7-1、7-2、7-3共通】 ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 （食育市民アンケート結果） 70%
目標に対する実績	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可	ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合 （食育市民アンケート結果） 47.9%			
目標達成状況	－	未達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	保育園及び認定こども園に歯科衛生士等を派遣し、園児と保護者に歯の大切さの講話とブラッシング指導を実施した。	保育園及び認定こども園に歯科衛生士等を派遣し、園児と保護者に歯の大切さの講話とブラッシング指導を実施している。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 概ね計画通り実施した。	【評価】 概ね計画通り実施した。
	【課題】 引き続き、保育園及び認定こども園での取組を継続していく。	【課題】 引き続き、保育園及び認定こども園での取組を継続していく。

事業No.及び事業名	７－３　歯科保健事業の推進
事業担当課	学校教育課
取組の概要	市立幼稚園、小中学校の様々な場面でよく噛んで食べる習慣について啓発する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	・市立幼稚園、小中学校に歯科衛生士等を派遣し、ブラッシング指導や健康な歯を保つための取組を行う。 ・給食の時間において、園児及び児童・生徒がよく噛んで食べることができるよう指導する。	→	→	→	→
目　　標	【7-1、7-2、7-3共通】 虫歯のない児童・生徒の割合を増やす。 3歳：95%以上 12歳：90%以上 17歳：80%以上	→	→	→	→
目標に対する実績	虫歯のない児童・生徒の割合 3歳：96.2% 12歳：91.4% 17歳：81.5%	※指標とする報告値は、3歳は6月、12歳と17歳は9月に公表			
目標達成状況	達成	－			
目　　標	【7-1、7-2、7-3共通】 ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 （食育市民アンケート結果） ―	【7-1、7-2、7-3共通】 ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 （食育市民アンケート結果） 55%	【7-1、7-2、7-3共通】 ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 （食育市民アンケート結果） ―	【7-1、7-2、7-3共通】 ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 （食育市民アンケート結果） 65%	【7-1、7-2、7-3共通】 ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 （食育市民アンケート結果） 70%
目標に対する実績	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可	ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合 （食育市民アンケート結果） 47.9%			
目標達成状況	－	未達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	・市立幼稚園、小中学校に歯科衛生士等を派遣し、歯の大切さの講話とブラッシング指導を実施した。 ・給食の時間において、園児及び児童・生徒がよく噛んで食べることの指導を実施した。 ・市立幼稚園においては、「にいがた健口文化推進月間」に合わせ、よくかんで食べることについて、集会における指導や掲示物による啓発を行った。	・市立幼稚園、小・中学校に歯科衛生士等を派遣し、口の中の健康に係わる講話とブラッシング指導を実施した。 ・園児及び児童・生徒の給食の時間において、よく噛んで食べることの大切さについて指導した。 ・市立幼稚園においては、「にいがた健口文化推進月間」に合わせ、よくかんで食べることについて、集会における指導や掲示物による啓発を行った。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 全ての市立幼稚園、小中学校で事業を実施した。 参考：12歳むし歯有病者率　R4　9.4%（R3 11.2%）	すべての市立幼稚園及び小・中学校において、歯科衛生士派遣事業を実施した。 参考：12歳のむし歯有病者率　R5 10.1% （R4 市9.4% 県11.0%）
	【課題】 引き続き、市立幼稚園、小中学校での取組を継続していく必要がある。	引き続き、市立幼稚園、小・中学校における歯科保健の取組を継続していく必要がある。

事業№及び事業名	８　メタボリックシンドロームの予防・改善
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	メタボリックシンドロームにより引き起こされる可能性が高まる様々な病気やその原因と予防、改善について啓発する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	健診結果説明会や健康講座等でメタボリックシンドロームの予防・改善方法について啓発する。	→	→	→	→
目　　標	メタボリックシンドローム該当者、予備群の割合の減少	→	→	→	→
目標に対する実績	・メタボリックシンドローム該当者の割合 16.5% ・メタボリックシンドローム予備群の割合 7.6% ※上越市第2次健康増進計画資料	※指標とする法定報告値は、翌年12月に公表			
目標達成状況	概ね達成	－			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	健診結果説明会、生活習慣病予防講座等でメタボリックシンドロームのメカニズムについて説明し、予防や改善について啓発を行った。 ・メタボリックシンドローム該当者の割合 R3年度　16.7%　→　R4年度　16.5% ・メタボリックシンドローム予備群の割合 R3年度　7.9%　→　R4年度　7.6% ＜メタボリックシンドロームに関連する健診項目結果＞ ・高血圧Ⅱ度以上者 R3年度　65.2%　→　R4年度　62.9% ・HbA1c6.5%以上者 R3年度　42.4%　→　R4年度　43.5% ・LDLコレステロール140mg/dl以上者 R3年度　53.3%　→　R4年度　53.5%	健診結果説明会等でメタボリックシンドロームのメカニズムについて説明し、予防や改善について啓発を行っている。 ＜メタボリックシンドロームに関連する健診項目結果＞ ・高血圧Ⅱ度以上者 令和5年度　61.9% ・HbA1c6.5%以上者 令和5年度　37.6% ・LDLコレステロール140mg/dl以上者 令和5年度　43.9%
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合は横ばいであった。また、関連する健診結果の基準値以上の検査数値の改善割合は、高血圧Ⅱ度以上者は若干の減少となり、他の項目の改善割合は昨年度と同様に約半数であった。	【評価】 メタボリックシンドロームに関連する健診結果の基準値以上の検査数値の改善割合は高血圧Ⅱ度以上者は横ばいの状況であるが、他の項目のHbA1cは5.9ポイント、LDLコレステロールは9.6ポイントの減少となった。
	【課題】 今後も引き続き、訪問や健診結果説明会などで保健指導を実施し、有所見者の生活習慣改善や医療機関への受診勧奨を促す。	【課題】 今後も引き続き、訪問や健診結果説明会などで保健指導を実施し、有所見者の生活習慣改善や医療機関への受診勧奨を促す。

事業No.及び事業名	９　適正体重維持の推進
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	肥満や痩せすぎにより引き起こされる可能性が高まる様々な病気やその原因と予防、改善について啓発する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	健診結果説明会や健康講座等で肥満の予防・改善方法について啓発する。	→	→	→	→
目　　標	適正体重を維持している市民を増やす 男性 50% 女性 45%	→	→	→	→
目標に対する実績	適正体重を維持している市民を増やす 男性 48.7% 女性 44.9%	適正体重を維持している市民を増やす 男性 48.3% 女性 43.5%			
目標達成状況	未達成	未達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	健診結果説明会や生活習慣病予防講座等で、1日の食品基準量の展示を行い、基準量以上の飲食や摂取する食品の種類に偏りがないかなど食生活を振り返り、肥満の予防・改善についての啓発を行った。 ＜適正体重を維持している人の割合＞ ・20歳代～60歳代の男性 令和3年度　49.5%　→ 令和4年度 48.7% ・20歳代～60歳代の女性 令和3年度　45.3%　→ 令和4年度 44.9%	健診結果説明会等で、1日の食品基準量の展示を行い、基準量以上の飲食や摂取する食品の種類に偏りがないかなど食生活を振り返り、肥満の予防・改善についての啓発を行っている。 ＜適正体重を維持している人の割合＞ ・20歳代～60歳代の男性 令和5年度 48.3% ・20歳代～60歳代の女性 令和5年度 43.5%
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 ・適正体重を維持している人の割合は、昨年度と同水準であり、改善が見られなかった。 ・令和2年4月から「日本人の食事摂取基準」に高齢者の低栄養予防・フレイル予防が加わり、65歳以上のＢＭＩ下限が引き上げられ、各年代の目標とするＢＭＩの範囲が示されたため新基準で記載をする。 ＜令和3年度のＢＭＩ値以降＞ 20歳～60歳代＝18.5～24.9 20歳～49歳＝18.5～24.9 50歳～64歳＝20.0～24.9 65歳～69歳＝21.5～24.9	【評価】 ・適正体重を維持している人の割合は、昨年度と同水準であり、横ばいの状態である。 ・令和2年4月から「日本人の食事摂取基準」に高齢者の低栄養予防・フレイル予防が加わり、65歳以上のＢＭＩ下限が引き上げられ、各年代の目標とするＢＭＩの範囲が示されたため新基準で記載をする。 ＜令和3年度以降のＢＭＩ値＞ 20歳～60歳代＝18.5～24.9 20歳～49歳＝18.5～24.9 50歳～64歳＝20.0～24.9 65歳～69歳＝21.5～24.9
	【課題】 ・男性の肥満の割合が多い。 ・肥満者の中には、食事以外の嗜好品の摂取状況にも課題があることから、菓子や清涼飲料水、酒類などの嗜好品等の摂取状況を確認し食習慣の改善に結びつくように支援していく。	【課題】 ・男性の肥満の割合が多い。 ・男性の20歳から64歳の働き盛り世代の適正体重の割合が、減少傾向にある。 ・肥満者の中には、食事以外の嗜好品の摂取状況にも課題があることから、菓子や清涼飲料水、酒類などの嗜好品等の摂取状況を確認し食習慣の改善に結びつくように支援していく。

事業№及び事業名	１０　生活習慣病の予防
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	健診結果から対象者を特定し、各種教室を開催することにより、生活習慣病の予防の普及・啓発を行う。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	各種教室を開催し、生活習慣病の予防について普及・啓発する。	→	→	→	→
目　　標	生活習慣病の予防や改善のためにふだんから適正体重や減塩等に気を付けた食生活を実践している市民を増やす （食育市民アンケート結果） ―	生活習慣病の予防や改善のためにふだんから適正体重や減塩等に気を付けた食生活を実践している市民を増やす （食育市民アンケート結果） 60%以上	生活習慣病の予防や改善のためにふだんから適正体重や減塩等に気を付けた食生活を実践している市民を増やす （食育市民アンケート結果） ―	生活習慣病の予防や改善のためにふだんから適正体重や減塩等に気を付けた食生活を実践している市民を増やす （食育市民アンケート結果） 64%以上	生活習慣病の予防や改善のためにふだんから適正体重や減塩等に気を付けた食生活を実践している市民を増やす （食育市民アンケート結果） 66%以上
目標に対する実績	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可	生活習慣病の予防や改善のためにふだんから適正体重や減塩等に気を付けた食生活を実践している市民を増やす （食育市民アンケート結果） 55.7%			
目標達成状況	―	未達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	・動脈硬化の危険因子を持つ特定保健指導該当者等に、糖負荷検査を3コース（1コース2回）、頸動脈エコー・尿中アルブミン検査を随時実施。 令和4年度検査実施者数：57人 ・妊婦健診結果から将来の血管や臓器の障害を予防するため、個別訪問等を実施。 令和4年度訪問・面談数： 面談数24件・面談後の訪問数4件（対象者数24件）	・動脈硬化の危険因子を持つ特定保健指導該当者等に、糖負荷検査を3コース（1コース2回）、頸動脈エコー・尿中アルブミン検査を随時実施している。 令和5年度検査申込者数：66人 ・妊婦健診結果から将来の血管や臓器の障害を予防するため、個別訪問等を実施。 令和5年度訪問・面談数： 面談数26件・面談後の訪問数2件（対象者数26件）
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 生活習慣病予防講座に参加した人に対しては、個々の健診結果に合わせて、食生活などの生活習慣の見直しに繋がる丁寧な保健指導を実施した。	【評価】 ・生活習慣病予防講座に参加した人に対しては、個々の健診結果に合わせて、食生活などの生活習慣の見直しに繋がる丁寧な保健指導を実施した。 ・妊婦健診結果からの妊婦への生活習慣病予防では、面談や訪問を通して保健指導を実施した。
	【課題】 生活習慣病予防や改善のために、各ライフステージの様々な機会を通して、生活習慣病予防の啓発を継続していく必要がある。	【課題】 生活習慣病予防や改善のために、各年代の様々な機会を通して、妊娠（胎児）期から高齢期までの生涯を通じた（ライフコースアプローチ）生活習慣病予防のために、減塩や適正体重のための食事量等を継続して啓発していく必要がある。

事業№及び事業名	１１　身体活動や運動習慣の確立
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	各ライフステージの様々な場面で運動習慣の確立を働き掛ける。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	各ライフステージで行われる健康教育の中で、運動習慣の確立を働き掛ける。	→	→	→	→
目　　標	健診訪問項目で30分以上の運動を週2回以上、1年以上実施している人の割合を増やす。 28%	健診訪問項目で30分以上の運動を週2回以上、1年以上実施している人の割合を増やす。 28%	健診訪問項目で30分以上の運動を週2回以上、1年以上実施している人の割合を増やす。 29%	健診訪問項目で30分以上の運動を週2回以上、1年以上実施している人の割合を増やす。 29%	健診訪問項目で30分以上の運動を週2回以上、1年以上実施している人の割合を増やす。 30%
目標に対する実績	健診訪問項目で30分以上の運動を週2回以上、1年以上実施している人の割合 20～64歳　27.3% 65～74歳　38.4% 20～74歳　35.5%	健診訪問項目で30分以上の運動を週2回以上、1年以上実施している人の割合 20～64歳　25.1% 65～74歳　37.5% 20～74歳　31.3%			
目標達成状況	達成	達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	市健康増進計画を踏まえ、事業を上越市運動普及推進協議会に委託し、広く市民に身体活動・運動習慣の定着につながるよう支援した。 ＜令和４年度＞ 委託事業（運動普及事業・体力測定事業）：145回　3,093人 自主活動：294回　3,128人 ・健診問診項目で「30分以上の運動を週2回以上、1年以上実施している人」の割合 20～64歳：27.3%（前年度比3.0ポイント増） 65～74歳：38.4%（前年度比5.9ポイント増） ・健診問診項目（後期）「ウォーキング等の運動を週に1回以上している人」の割合 75歳以上：49.4%（前年比1.5ポイント増）	市健康増進計画を踏まえ、事業を上越市運動普及推進員協議会に委託し、広く市民に身体活動・運動習慣の定着につながるよう支援している。 ＜令和5年度＞ 委託事業（運動普及活動・体力測定活動） ：161回　3,634人 自主活動：250回　4,072人 ・健診問診項目で「30分以上の運動を週2回以上、1年以上実施している人」の割合 20～64歳：25.1%（前年比2.2ポイント減） 65～74際：37.5%（前年比0.9ポイント減） ・健診問診項目（後期）「ウォーキング等の運動を週に1回以上している人」の割合 75歳以上：49.4%（前年と同数）
今後の課題・反省点	【評価】 どの年代も継続的に運動を実施している人の割合が増加した。	【評価】 目標値は達成できているが、全年代で継続的に運動を実施している人の割合が減少した。
	【課題】 20～64歳と65歳以上を比較すると、若い世代・働き盛り世代の「継続的な運動実施割合」が低く、身体活動・運動習慣の普及啓発を継続して実施する必要がある。	【課題】 20～64歳と65歳以上を比較すると、若い世代・働き盛り世代の「継続的な運動実施割合」が低く、身体活動・運動習慣の普及啓発を継続して実施する必要がある。

事業№及び事業名	１２－１　親子で参加・体験できるイベント等の実施
事業担当課	農政課
取組の概要	親子で参加できる食に関する体験活動を実施し、親と子が食への関心を高め、理解を深める機会を提供する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	食育フェアや食育実践セミナーにおいて、親子で参加できる食に関する体験の機会を設ける。	→	→	→	→
目　　標	親子で参加できる食に関する体験の場の提供 年2回以上	→	→	→	→
目標に対する実績	親子で参加できる食に関する体験の場の提供 年2回	親子で参加できる食に関する体験の場の提供 年2回			
目標達成状況	達成	達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	6月開催の「もぐもぐジョッピーの食育フェア」及び10月開催の「食育実践セミナー」において、親子で参加できる食に関する体験の機会を設けた。 ＜もぐもぐジョッピーの食育フェア＞ ・「みそまる」づくり体験 ・災害や減塩に役立つパッククッキングのデモンストレーション ・主食・主菜・副菜探しクイズ（会場内にある料理のイラストから主食・主菜・副菜を探すクイズ） ＜食育実践セミナー＞ ・我が家の食料自給率チェック ・栄養成分クイズ ・食べ物の重さ当てクイズ （秤を使用せずに目測で重さが分かる）	・6月の食育月間にあわせ、6月17日（土）に高田城址公園オーレンプラザを会場に食育実践セミナーを開催し、親子で参加できる食に関する体験の機会を設けた。 ＜食育実践セミナー＞ ・「みそまる」作り体験 ・米粉料理教室 ・栄養成分表示クイズ ・握力測定 ・かむかむガムチェック（咀嚼力チェック） ・食育絵本のおはなし会 ・折り紙でしおりづくり ・もぐもぐジョッピーのぬりえ ・保育園給食のひとくち試食 ・フードドライブ　など ・10月28日（土）に直江津屋台会館で開催した上越市農林水産フェスティバルにおいて、親子で参加できる食に関するクイズラリーを実施した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 ・これまで大きなイベントを行うことができなかったが、今年度に入り、体験を伴うイベントを開催することができた。 ・クイズなどは、子どもだけで考えることが難しいものもあるため、親子で体験してもらうことで、「食」に関する知識が共有され、家庭での実践につながる機会とすることができた。	【評価】 ・6月の食育月間にあわせて開催した食育実践セミナーや10月に開催した上越市農林水産フェスティバルにおいて、親子で参加できる食に関する体験活動を実施し、食への関心を高め、理解を深める機会を提供することができた。
	【課題】 今回の体験では、料理のデモンストレーションを見る、クイズで体験するなど、実際に作って食べるところまでは行うことができなかった。「食」に関する体験は、作ったり食べたりすることで、「食」への興味が湧くことから、社会情勢の変化にあわせ、実施方法を検討していく必要がある。	【課題】 ・様々な団体と協力し連携するとともに、食育推進活動に興味や関心を持ってもらえるよう、さらに充実したイベント内容となるよう検討する必要がある。

事業№及び事業名	１２－２　親子で参加・体験できるイベント等の実施
事業担当課	農村振興課
取組の概要	「上越野菜」振興協議会主催による親子食農体験教室を開催し、上越野菜のPRのほか、親子のコミュニケーション、食への関心・理解を深める機会を提供する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	「上越野菜」振興協議会主催による親子食農体験教室を開催する。	→	→	→	→
目　　標	上越野菜のＰＲのほか、親子のコミュニケーション、食への関心・理解を深める機会の提供 年2回以上	→	→	→	→
目標に対する実績	上越野菜のＰＲのほか、親子のコミュニケーション、食への関心・理解を深める機会の提供 年2回	上越野菜のＰＲのほか、親子のコミュニケーション、食への関心・理解を深める機会の提供 年4回			
目標達成状況	達成	達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	「上越野菜」振興協議会主催で親子食農体験教室を開催した。「上越野菜」の丸えんぴつなす、ひとくちまくわの収穫体験と料理体験を行った。 ＜開催日＞ 令和4年8月6日（土）　午前と午後に分けて、計2回開催 ＜参加者数＞ 午前：親子10組 20人 午後：親子 7組 17人	「上越野菜」振興協議会主催で親子食農体験教室を開催した。「上越野菜」の丸えんぴつなす、ひとくちまくわ、えだまめの収穫体験と料理体験を行った。 ＜開催日＞ 令和5年7月30日（日）午前、午後 2回開催 令和5年8月26日（土）午前、午後 2回開催 合計 4回開催 ＜参加者数＞ 7月30日　22組　49人 8月26日　10組　25人 合計　32組　74人
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 「上越野菜」の収穫と「上越野菜」を用いた料理体験をすることで、「上越野菜」の認知度向上と親子のコミュニケーション、食への関心・理解を深めることができた。	【評価】 ・親子食農体験教室を4回開催し、目標を達成することができた。 ・「上越野菜」の収穫と「上越野菜」を用いた料理体験をすることで、「上越野菜」の認知度向上と親子のコミュニケーション、食への関心・理解を深めることができた。
	【課題】 より多くの親子から参加いただくため、開催日や収穫・調理する上越野菜、周知方法など、検討する必要がある。	【課題】 引く続き、より多くの親子から参加いただくため、開催日や収穫・調理する上越野菜、周知方法など、検討する必要がある。

事業№及び事業名	１３　食生活の改善に必要な情報提供
事業担当課	農政課
取組の概要	市民一人一人の日常生活の中で食育の実践が定着するよう、国が定めた「食生活指針」や「食育ガイド」により、具体的な取組例を示す。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	「食育ガイド」を定期的に学校関係者や食育イベント、食に関連した集会等で配布し市民に啓発する。	→	→	→	→
目　　標	「食育ガイド」を活用した食育推進の啓発回数 年3回以上	→	→	→	→
目標に対する実績	「食育ガイド」を活用した食育推進啓発回数 年2回	「食育ガイド」を活用した食育推進啓発回数 年2回			
目標達成状況	未達成	未達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	・食育推進活動に役立ててもらうため、6月の食育月間に市内の保育園、幼稚園、小中学校に国が示す「食育ガイド」や新たに策定した第4次上越市食育推進計画の概要版、授業や食育活動で使用できるデジタルコンテンツを紹介した。 ・6月開催の食育フェアにおいて、来場者が自由に持ち帰り、家庭で活用できるよう「食育ガイド」を配置した。	・食育推進活動に役立ててもらうため、6月の食育月間に市内の保育園、幼稚園、小中学校に国が示す「食育ガイド」や第4次上越市食育推進計画の概要版、授業や食育活動で使用できるデジタルコンテンツを紹介した。 ・6月開催の食育実践セミナーにおいて、来場者が自由に持ち帰り、家庭で活用できるよう「食育ガイド」を配置した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 ・6月の食育月間を中心とした啓発のみとなったため、啓発回数の目標を達成することができなかった。 ・啓発内容としては、食育の指導に役立てていただくため、保育園、幼稚園、小中学校に紹介したことで、指導の参考にしていただけたものと考えている。	【評価】 ・6月の食育月間を中心とした啓発のみとなったため、目標を達成することができなかった。 ・啓発内容としては、食育の指導に役立てていただくため、保育園、幼稚園、小中学校に紹介したことで、指導の参考にしていただけたものと考えている。
	【課題】 ・現在、6月の食育月間にのみ「食育ガイド」を活用した周知を行っている状況にある。多岐にわたる食育の内容を分かりやすく説明している資料であることから、年間を通じた活用方法を検討する必要がある。	【課題】 ・6月の食育月間にのみ「食育ガイド」を活用した周知を行っている状況にある。多岐にわたる食育の内容を分かりやすく説明している資料であることから、年間を通じた活用方法を検討する必要がある。

事業№及び事業名	１４　家庭での共食についての啓発
事業担当課	農政課
取組の概要	家族と一緒に食事をとることは、家族のコミュニケーションの場であるとともに、箸使いなど食事作法やしつけの重要な場であることを啓発し、家庭での共食を推進する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	市ホームページや食育イベント等において、家族が一緒に食事をとることの有効性を啓発し、家庭での共食を推進する。	→	→	→	→
目　　標	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の週当たりの回数 （食育市民アンケート結果） ―	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の週当たりの回数 （食育市民アンケート結果） 週11回以上	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の週当たりの回数 （食育市民アンケート結果） ―	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の週当たりの回数 （食育市民アンケート結果） 週11回以上	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の週当たりの回数 （食育市民アンケート結果） 週11回以上
目標に対する実績	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の週当たりの回数 （食育市民アンケート結果） 週9.8回			
目標達成状況	―	未達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	市ホームページ「上越の食育」において、食事の作法やマナー、食文化を含む望ましい食習慣や知識が習得できるよう、家族揃って食卓を囲むなどの食を通じたコミュニケーションを大切にするよう啓発している。	・年間を通じて、市ホームページ「上越の食育」で、食事の作法やマナー、食文化を含む望ましい食習慣や知識が習得できるよう、家族揃って食卓を囲むなどの食を通じたコミュニケーションを大切にするよう啓発した。 ・6月に開催した食育実践セミナーにおいて、共食に関するパネル展示を実施した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 現在の市ホームページでの周知は、年間を通じた固定化されたページでの周知であり、「家庭での共食」に特化した啓発ができていない現状がある。	【評価】 ・市ホームページや食育実践セミナーを通じて、家族と会話を楽しみながら食べる共食の大切さを啓発することができた。
	【課題】 「家庭での共食」に特化した啓発を行うタイミングが難しいと感じている。食事の作法やマナー、食習慣は、家庭での食事の場において学ぶことが多いことから、友好的に啓発するための対象や場の検討が必要である。	【課題】 ・共食についての啓発方法を改めて検討するとともに、市ホームページでの掲載情報を充実させる必要がある。 ・食育に関するイベントを通じて、共食することの良さや大切さを継続して啓発していく必要がある。

事業No.及び事業名	１５　★在宅時間を有効に活用できる食育情報の提供
事業担当課	農政課
取組の概要	家族との共食の有効性や栄養バランスがとれた食事の実践方法、上越の食文化の紹介など、在宅時間に家庭で取り組むことができる食育情報を発信する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	・家庭においても手軽に食育情報が入手できるよう、市ホームページやSNSにより食育情報を提供する。 ・インターネットの利用環境にない市民に向け、紙媒体においても食育情報を提供する。	→	→	→	→
目　　標	インターネット及び紙媒体による在宅時間を有効に活用できる食育情報の提供回数。 年3回以上	→	→	→	→
目標に対する実績	・クックパッドでのレシピ配信 月1回 ・食育実践セミナー（WEB版）の配信 1回	・クックパッドでのレシピ配信 月1回 ・食育実践セミナー（WEB版）の配信 1回			
目標達成状況	達成	達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	＜郷土料理や旬の地域食材を使用した料理のレシピの配信＞ 家庭での料理の一助とするため、料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式ページに月に1回のペースで掲載している。 ＜食育実践セミナー（WEB版）の配信＞ 家庭においても食について学べるよう、令和3年度及び4年度の食育実践セミナーの内容を市ホームページに掲載している。 ＜紙媒体による食育情報の発信＞ インターネットの環境にない市民に向け、紙媒体による食育情報の発信は行うことができなかった。	・料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式ページにおいて、郷土料理や旬の地域食材を使用した料理レシピを毎月配信したほか、市農林水産部インスタグラムを活用し、動画による料理レシピを年3回配信した。 ・6月に開催した食育実践セミナーの内容をWEB版として市ホームページに掲載した。 ・区総合事務所や南北出張所、公民館等の窓口で「みんなの食育活動掲示板」を紙媒体で配置した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 ・月に1回のクックパッドにおいて料理レシピの配信、食育実践セミナー（WEB版）の配信により目標を達成することができた。 ・紙媒体による食育情報の発信については、対象と内容を絞ることができず、行うことができなかった。	【評価】 ・クックパッドでの料理レシピや市農林水産部インスタグラムでの動画レシピを配信したほか、食育実践セミナー（WEB版）を配信したことで、在宅時間における食育活動の実践に寄与した。 ・紙媒体による「みんなの食育活動掲示板」を毎月発行し、インターネットの利用環境にない市民等に食育情報を提供することができた。
	【課題】 ・在宅時間を有効に活用できる発信については、料理レシピの提供だけでなく、家庭での食育実践につながる内容を精査する必要がある。 ・紙媒体での食育情報の発信については、今年度対応できなかったことから、月に1度発行している「みんなの食育活動掲示板」の活動情報に加え、家庭で役立つ食育情報も掲載し改善する。	【課題】 ・在宅時間を有効に活用できる発信については、料理レシピの提供だけでなく、家庭での食育実践につながる内容を精査する必要がある。 ・「みんなの食育活動掲示板」の情報量が少ないことから、庁内食育関係課や食育関係団体等から情報提供を促すなど、掲載情報の充実を図る必要がある。

事業№及び事業名	１６　保育園での食の体験活動
事業担当課	幼児保育課
取組の概要	子どもたちの食に関する興味や関心が高まるよう、食に関する様々な体験活動を行う。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	体験活動を取り入れた食に関する活動を実施する。	→	→	→	→
目　　標	体験活動により、子どもたちの食に関する興味・関心を高める （子どもの食への興味・関心の向上）	→	→	→	→
目標に対する実績	体験活動により、子どもの食への興味・関心が向上	体験活動により、子どもの食への興味・関心が向上			
目標達成状況	達成	達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	・各園で畑やプランターでの野菜作りを行い、給食食材としての活用、クッキング活動、遊び（スタンピングや重量あてクイズ等）等を実施した。 ・各園で絵本を通じて園児の食への関心を深めるため高田図書館と協働し「おはなしランチ」を実施した。	・各園で畑やプランターでの野菜作りを行い、給食食材としての活用、クッキング活動、遊び（スタンピングや重量あてクイズ等）等を実施している。 ・園児の食への関心を深めるため、各園で食に関する絵本の読み聞かせを実施している。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 様々な体験活動を行うことにより、食への興味・関心を向上させることができた。	【評価】 様々な体験活動を行うことにより、食への興味・関心を向上させることができた。
	【課題】 食に関する興味、関心につなげるため、園児の月齢に合わせた体験活動を継続実施する必要がある。	【課題】 食に関する興味、関心につなげるため、園児の月齢に合わせた体験活動を継続実施する必要がある。

事業№及び事業名	１７　幼稚園・小中学校での食の体験活動
事業担当課	学校教育課
取組の概要	子どもたちの食に関する興味や関心が高まるよう、食に関する様々な体験活動を行う。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	体験活動を取り入れた食に関する活動を実施する。	→	→	→	→
目　　標	市立幼稚園、小中学校で体験活動を取り入れた食に関する活動を実施する （食に関する活動の実施）	→	→	→	→
目標に対する実績	市立幼稚園、小中学校で体験活動を取り入れた食に関する活動を実施した	市立幼稚園、小中学校で体験活動を取り入れた食に関する活動を実施した			
目標達成状況	達成	達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	・市立幼稚園においては、育てたい野菜の苗の購入、畑の世話、収穫などの体験などの食に関する活動を実施した。 ・小中学校では、生活科や総合的な学習の時間において、野菜や米を育て、食べることや売ること、料理を作って食べるなどの体験等を伴う食に関する活動を実施した。	・市立幼稚園においては、育てたい野菜の苗の購入、畑の世話、収穫といった一連の体験や収穫物の家庭への持ち帰りや給食への活用を行い、食に関する活動を実施した。 ・小・中学校では、生活科や総合的な学習の時間において、野菜や米を育て、食べることや売ること、料理を作って食べること等の体験を伴う食に関する活動を実施した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 市立幼稚園、小中学校で体験活動を取り入れた食に関する活動を実施できた。	【評価】 市立幼稚園、小中学校で体験活動を取り入れた食に関する活動を実施できた。
	【課題】 新型コロナウイルス感染症の影響で、育てたものをその場で食べる活動がなかなか実現できなかったため、食べる体験活動については、育てた野菜や米を持ち帰った家庭と連携する必要がある。	【課題】 体験活動から得た学びは貴重であることから、今後もその活動を推進するよう働きかける。

事業№及び事業名	１８　学校における食育活動の充実
事業担当課	学校教育課
取組の概要	食に関する指導の全体計画に基づき、食に関する教育活動を行う。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	「給食だより」を毎月発行するとともに、栄養教諭や栄養職員と連携した給食指導を実施する。	→	→	→	→
目　　標	事業実施により、食に対する正しい知識を持った児童生徒を増やす （食の正しい知識を持った児童生徒の増加）	→	→	→	→
目標に対する実績	事業実施により、食に対する正しい知識を持った児童生徒が増加した	事業実施により、食に対する正しい知識を持った児童生徒が増加した			
目標達成状況	達成	達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	食に関する指導の全体計画に基づき、食に関する教育活動を実施した。	食に関する指導の全体計画に基づき、食に関する教育活動を実施した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 発達段階に合わせた内容で計画的に食に関する指導を実施した。	【評価】 発達段階に合わせた内容で計画的に食に関する指導を実施した。
	【課題】 計画的な指導を継続していく必要がある。	【課題】 栄養教諭の勤務が月1回の学校においては、食育推進の難しさを抱え、指導体制の整備に課題を感じている学校がある。

事業№及び事業名	１９　家庭や地域とともに進める食に関する教育活動
事業担当課	学校教育課
取組の概要	学校・家庭・地域が連携し、児童生徒が自ら健全な食習慣を実践できるよう教育活動を行う。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	全ての小中学校で家庭や地域と連携する取組を実施する。（給食試食会や食に関する学校保健委員会など）	小中学校で家庭や地域と連携する取組を実施する。（給食試食会や食に関する学校保健委員会など）	→	→	→
目　　標	児童・生徒が栄養バランスのとれた食事や健全な食習慣について理解を深め実践する （児童・生徒が健全な食習慣の理解を深め実践する。）	児童・生徒の栄養バランスのとれた食事や健全な食習慣を支援するよう家庭への啓発を図る。 （児童・生徒の健全な食習慣を支援するよう家庭への啓発を図る。）	→	→	→
目標に対する実績	食習慣の形成を目指す取組実施により、児童・生徒が栄養バランスのとれた食事や健全な食習慣についての理解を深めることができた	健全な食習慣の形成を目指す取組実施により、児童・生徒が栄養バランスのとれた食事や健全な食習慣について理解を深めることができた			
目標達成状況	概ね達成	概ね達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	給食試食会や食に関する学校保健委員会などを実施し、児童生徒の健全な食生活のために家庭や地域と連携する取組を実施した。	・小中学校で実施する給食試食会や学校保健委員会などを通じ、児童・生徒の健全な食習慣を支援するよう家庭への啓発を図った。 ・地産地消の推進に取り組み、子どもたちの地域食材への関心や健全な食に対する意識が高まった。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 給食の時間を中心に、学校・家庭・地域の連携をもとに望ましい食習慣の形成を目指す取組を実施できた。	【評価】 家庭・地域・関係機関等との連携により食育を推進した。　市立小・中学校　67校/69校
	【課題】 新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の方々との活動を控えた学校もあったため、給食のおける地場産食材を通じた意識付けなど食習慣に関する地域との連携を児童生徒に啓発していく必要がある。	【課題】 給食における地場産食材を通じて食への関心を高め、健全な食生活への意識付けを図ることができることから、食材等を通じて地域との連携を図るよう今後も継続して働きかける。

事業№及び事業名	２０　小中学校における特色ある食に関する食育活動の推進
事業担当課	学校教育課
取組の概要	それぞれの地域や学校の伝統・文化等の特色をいかした食育推進を支援する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	小中学校において充実した食育活動を推進するための情報提供等を行う。	→	→	→	→
目　　標	地域や学校の伝統・文化等の特色をいかした食育を実践している学校を増やす （特色をいかした食育を実践している学校の増加）	→	→	→	→
目標に対する実績	特色をいかした食育を実践した小・中学校数 42校	特色をいかした食育を実践した小・中学校数 67校			
目標達成状況	概ね達成	達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	・それぞれの地域や学校の伝統・文化等の特色をいかした食育推進を支援した。 ・給食週間において、生産者や調理員など給食に携わる方々との交流や給食メニューに地域の偉人と縁のある給食を提供し、小中学生が地域の食を楽しむ機会を設定した（一部の学校）。 ・小学校において、生活科や総合的な活動の時間において栽培活動を行う際に、地域の方に協力を得て教育活動を推進する中で、地域や学校の伝統・文化などの特色を理解しながらすすめた（一部の学校）。	・それぞれの地域や学校の伝統・文化等の特色をいかした食育を推進した。 ・地域の方を講師として、地域の伝統食を調理し会食する活動を行った。（一部の学校） ・小学校において、生活科や総合的な活動の時間において栽培活動を行う際に、地域の方に協力を得て教育活動を推進する中で、地域や学校の伝統・文化などの特色を理解しながら進めた。（一部の学校）
目標達成状況を踏まえた評価・課題	・それぞれの地域や学校の伝統・文化等の特色をいかした食育推進を支援した。	【評価】 ・それぞれの地域や学校の伝統・文化等の特色をいかした食育推進を支援した。
	【課題】 ・栄養教諭の勤務が月1回の学校においては、食育推進の難しさを抱え、指導体制の整備に課題を感じている学校がある。	【課題】 ・それぞれの地域や学校の伝統・文化等の特色をいかした食育を工夫し実施するよう働きかける。

事業№及び事業名	２１　栄養バランスを意識した食生活の促進
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	各ライフステージの様々な事業で食品の基準量の普及・啓発を通じて、バランスのとれた食生活を推進する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	各ライフステージで行われる健康教育の中で、バランスのとれた食事をとることの重要性を啓発する。	→	→	→	→
目　　標	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日実践している市民を増やす （食育市民アンケート結果） ――	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日実践している市民を増やす （食育市民アンケート結果） 全世代　60% 若い世代　45%	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日実践している市民を増やす （食育市民アンケート結果） ――	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日実践している市民を増やす （食育市民アンケート結果） 全世代　60% 若い世代　45%	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日実践している市民を増やす （食育市民アンケート結果） 全世代　60% 若い世代　45%
目標に対する実績	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可	全世代　39.7% 若い世代　25.2%			
目標達成状況	―	未達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	妊娠期（すくすく赤ちゃんセミナー）、乳幼児期（各乳児検診、相談会）、学童期（小中学校血液事後、学校保健委員会等）、思春期（高校健康教育）、成人期・高齢期（健診時、健診結果説明会、企業での健康教育、地区健康講座等）において、各ライフステージの特性を踏まえ、バランスのとれた食事をとることの必要性について、健康教育を実施した。	妊娠期（すくすく赤ちゃんセミナー）、乳幼児期（各乳児検診、相談会）、学童期（小中学校血液事後、学校保健委員会等）、思春期（高校健康教育）、成人期・高齢期（健診時、健診結果説明会、企業での健康教育、地区健康講座等）において、各ライフステージの特性を踏まえ、バランスのとれた食事をとることの必要性について、健康教育を実施している。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 すくすく赤ちゃんセミナー参加者の食事記録や乳幼児健診参加者等の若い世代から食生活の乱れが伺える。	【評価】 すくすく赤ちゃんセミナー参加者の食事記録や乳幼児健診参加者等の若い世代から食生活の乱れが伺える。
	【課題】 今後も引き続き、各ライフステージにおいて様々な場面でバランスのとれた食生活について健康教育の実施が必要である。	【課題】 今後も引き続き、各ライフステージにおいて様々な場面でバランスのとれた食生活について健康教育の実施が必要である。

事業No.及び事業名	２２　日本型食生活の普及活動
事業担当課	農政課
取組の概要	米を中心に多様な農林水産物を食材とした副食で構成され、栄養バランスに優れた「日本型食生活」を推進するため、市ホームページやSNS、イベント等での配布物などを通じてその普及を図る。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	市ホームページやSNS、イベント等での配布物により、日本型食生活のメリットや実践例を紹介し、市民の実践につなげる。	→	→	→	→
目　　標	日本型食生活を実践している市民を増やす （食育市民アンケート結果） ―	日本型食生活を実践している市民を増やす （食育市民アンケート結果） 74.1%以上 （R3アンケート結果比較）	日本型食生活を実践している市民を増やす （食育市民アンケート結果） ―	日本型食生活を実践している市民を増やす （食育市民アンケート結果） R5アンケート結果以上の値	日本型食生活を実践している市民を増やす （食育市民アンケート結果） R7アンケート結果以上の値
目標に対する実績	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可	日本型食生活を実践している市民を増やす （食育市民アンケート結果） 75.4%			
目標達成状況	―	達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	・10月29日（土）開催の食育実践セミナーにおいて、栄養バランスのとれた食事の摂取、日本型食生活のすすめ、お米を食べることのメリットなどの内容を盛り込んだ食育講演会を開催した。 演題：おいしく食べてみんな元気！ ～食事は楽しくバランスよく～ 講師：高橋 典子 氏（料理研究家/おから料理研究家） ・当日の食育実践セミナーの講演会の内容を市ホームページに掲載し、広く市民に啓発している。 ・令和3年度に実施した食育実践セミナー（WEB版）の食育インタビューを市ホームページに継続的に掲載し、スポーツや勉強時において「お米」を食べることのメリットについて啓発している。	・10月に開催した上越市農林水産フェスティバルにおいて、日本型食生活に関するパネル展示を行った。 ・年間を通じて、市ホームページ「上越の食育」において、ごはんを中心とした日本型食生活の良さを継続して情報発信した。 ・NPO法人上越地域学校教育支援センターが発行する「地域教育往来」に「日本型食生活のススメ」の記事を掲載した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 食育実践セミナーの講演会では、栄養バランスが整いやすい日本型食生活の紹介や、栄養バランスのよい食習慣を無理なく続けられるコツ、お米の栄養価についてのお話をいただき、米どころ上越のお米の美味しさを再認識し、家庭での日本型食生活の実践につながる内容を提供することができた。 【課題】 日本型食生活の言葉自体、認知度が低いことから、継続的に周知するとともに、家庭での実践に結び付けるため、日本型食生活の具体的な実践例を交えて周知する必要がある。	【評価】 ・上越市農林水産フェスティバルや市ホームページ等を通じて、栄養バランスに優れた日本型食生活の良さをＰＲすることができた。 【課題】 ・日本型食生活についての啓発方法を改めて検討するとともに、市ホームページでの掲載情報を充実させる必要がある。 ・食育に関するイベントを通じて、日本型食生活のメリットなどを継続して啓発していく必要がある。

事業№及び事業名	２３　地域や職場での共食の有効性の発信
事業担当課	農政課
取組の概要	孤食が多い人が様々な人たちと食事をする機会を増やすため、市ホームページやSNS、イベント等での配布物などを通じて、地域での共食の有効性を紹介し、「新しい生活様式」に対応した地域での共食につなげる。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	市ホームページやSNS、イベント等での配布物により、地域での共食の有効性を紹介し、市民の実践につなげる。	→	→	→	→
目　　標	地域等で共食したいと思う市民が共食する割合（食育市民アンケート結果） ―	地域等で共食したいと思う市民が共食する割合（食育市民アンケート結果） 55%以上	地域等で共食したいと思う市民が共食する割合（食育市民アンケート結果） ―	地域等で共食したいと思う市民が共食する割合（食育市民アンケート結果） 68%以上	地域等で共食したいと思う市民が共食する割合（食育市民アンケート結果） 75%以上
目標に対する実績	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可	地域等で共食したいと思う市民が共食する割合（食育市民アンケート結果） 60.1%			
目標達成状況	―	達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	新型コロナウイルス感染症拡大に考慮し、イベントや市の広報媒体において、積極的な啓発を行うことができなかった。	・6月に開催した食育実践セミナーにおいて、共食に関するパネル展示を実施した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 徐々に緩和してきてはいるが、まだまだ地域や職場において共食することが難しい状況にあることから、啓発のタイミングが難しい状況にある。 【課題】 孤食により、栄養バランスの偏りや食習慣の乱れなどが報告されていることから、孤食にならない共食のメリットを伝え、社会情勢も考慮し、今できる共食の方法を提案していく必要がある。	【評価】 ・食育実践セミナーを通じて、仲間との共食の大切さを啓発することができた。 【課題】 ・孤食により、栄養バランスの偏りや食習慣の乱れなどが報告されていることから、食育実践セミナーなどでの啓発活動を継続するほか、市ホームページやＳＮＳなどで共食のメリットを積極的に発信する必要がある。

事業No.及び事業名	２４　郷土料理、食文化の普及を推進する講座の実施
事業担当課	社会教育課
取組の概要	地域資源の活用や地域住民のニーズの精査を行い、料理教室や食をテーマとする体験講座を実施することで、郷土料理や食文化の関心を高め、普及・継承につなげる。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	公民館事業で、郷土料理や食文化をテーマとする講座を実施する。	→	→	→	→
目　　標	郷土料理や食文化について理解を深め、興味・関心を高めた参加者の割合 80%以上	→	→	→	→
目標に対する実績	郷土料理や食文化について理解を深め、興味・関心を高めた参加者の割合 95.6%	郷土料理や食文化について理解を深め、興味・関心を高めた参加者の割合 97.8%			
目標達成状況	達成	達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	【実施済】 安塚地区公民館 ・小中学生食育講座 1回 柿崎地区公民館 黒川分館 ・きのこ学習会 1回 三和地区公民館 ・さんわ楽活塾「美味健康の世界」（発酵食品）2回 金谷地区公民館 ・伝統保存食づくり 2回 ・みんなの料理教室 3回 吉川地区公民館 ・郷土料理教室 3回 頸城地区公民館 明治分館 ・ふるさと体験講座（郷土料理・餅つき）各１回 頸城地区公民館 大坂井分館 ・新蕎麦手打ち教室 1回 ・地域交流活動（餅つき）1回 板倉地区公民館 ・地域おこし協力隊と巡るいたくら歴史散歩～食欲の秋～ 1回 大島地区公民館　菖蒲分館 ・キノコ料理実践講座　１回 清里地区公民館 ・親子料理体験 1回 郷土料理や食文化について理解を深め、その継承や実践について興味・関心を持った参加者の割合 実施済講座のアンケート結果：95.6%	【実施済：各地区公民館】 高田　・笹寿司とそば打ち体験　2回 金谷　・地域に伝わる郷土料理作り　2回 ・棚田米でおにぎり作り　1回 ・スキー汁づくり　1回 春日　・上越野菜を使った料理教室　1回 直江津・上越産野菜の調理、味噌の健康効果を学ぶ　2回 八千浦・発酵食作り　1回 北諏訪・食から学ぶSDGs（環境に優しい料理）3回 保倉　・発酵を学び、発酵調理実習　2回 ・郷土料理体験、地域交流活動（ちまき作り）　2回 谷桑　・そば打ち、ピザ作り　2回 安塚　・小中学生食育講座　1回 牧　・地域交流活動（ちまき作り）1回 ・伝承料理体験（料理を作り昔の行事を語り合う）1回 柿崎（分館活動を含む） ・柿崎産の野菜・魚の種類と料理方法、地産地消について考える　1回 ・きのこ学習会　1回 大潟　・かんたん朝ごはん作り　1回 頸城（分館活動を含む） ・そば打ち教室　1回 ・地域交流活動（餅つき）　1回 ・親子郷土料理教室　1回 吉川　・旬野菜の料理教室　1回 中郷　・郷土料理を食べながら「孤食」を考える1回 ※郷土料理や食文化について理解を深め、興味・関心を高めた参加者の割合 実施済のアンケート結果：97.8%
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 公民館講座における調理実習や会食を伴う体験活動は、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し実施していたため、活動内容に一定の制約が生じたが、多くの参加者から興味や関心を高めていただくことができ、郷土料理や食文化の普及に寄与できたものと考える。	【評価】 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、公民館講座における調理実習や会食を伴う体験活動を制約なく実施できるようになり、より多くの市民から郷土料理や食文化について学んでいただくことができた。
	【課題】 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症に移行したことから、飲食を伴う講座の実施を可能とした。試食をし参加者同氏が意見を交わすことで、より食への理解や興味・関心が深まると考えられることから、今後も安全・健康を第一をしながら、最も効果的な内容・方法等を検討していきたい。	【課題】 引き続き基本的な感染対策に配慮しながら、幅広い世代に向けて食育講座を実施することにより、豊かな地域づくりへの一助としていきたい。

事業№及び事業名	２５　謙信KIDSプロジェクト
事業担当課	社会教育課
取組の概要	小学生にふるさと上越の魅力ある食材を紹介し、各種活動を通じてその魅力を体験させることで、郷土への愛着の育成を図る。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	謙信KIDSプロジェクトで実施する講座に、上越の食をテーマとする講座を設ける。	→	→	→	→
目　　標	講座のテーマである上越の食について、興味・関心を深めた参加者の割合を90%以上とする	→	→	→	→
目標に対する実績	講座のテーマである上越の食について、興味・関心を深めた参加者の割合 97.3%	講座のテーマである上越の食について、興味・関心を深めた参加者の割合 97.3%			
目標達成状況	達成	達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	＜「しょく」の講座（小学1～3年生対象、全3回）＞ 上越野菜について学ぶ 1回目：なす・ひとくちまくわの収穫体験、青果市場の見学 2回目：枝豆の収穫と選別作業の体験 3回目：収穫体験した上越野菜を使った調理実習 ＜「食」の講座（小学4～6年生対象、全3回）＞ 発酵について学ぶ 1回目：発酵のしくみとみそづくりついて学び、みその仕込みを体験 2回目：醤油について学び、醤油を使った料理体験 3回目：1回目で仕込んだみそを使った調理実習 講座のテーマである上越の食について、興味・関心を深めた参加者の割合 講座アンケート結果　97.3%	＜「しょく」の講座（小学1～3年生対象、全3回）＞ 上越野菜について学ぶ 1回目：なす・ひとくちまくわの収穫体験、青果市場の見学（7/29　19人参加） 2回目：枝豆の収穫と選別作業の体験（8/19　18人参加） 3回目：収穫体験した上越野菜を使った調理実習（9/9　19人参加） ＜「食」の講座（小学4～6年生対象、全3回）＞ 発酵について学ぶ 1回目：発酵のしくみとみそづくりついて学び、みその仕込みを体験（6/4　19人参加） 2回目：醤油について学び、醤油を使った料理体験（8/27　19人参加） 3回目：1回目で仕込んだみそを使った調理実習（12/2　17人参加） 講座のテーマである上越の食について、興味・関心を深めた参加者の割合 講座アンケート結果　97.3%
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 調理体験を楽しみにしていた参加者が多く、積極的に取り組んでおり、上越の食について実体験を通して楽しみながら学ぶことができた。また、保護者からのアンケート結果では、子供にとって良い経験ができたと答えた割合が100%と保護者からも高評価だった。	【評価】 ・実体験を通して楽しみながら学ぶことができた。 ・自分たちで調理することで、今まで苦手だった食材を食べることができた子どももいた。 ・今年度も保護者からのアンケート結果では、子どもにとって良い経験ができたと答えた割合が100%と保護者からも高評価だった。
	【課題】 今後も参加者の安心・安全に配慮しながら、収穫体験や調理実習などの実体験を伴った講座に取り組んでいく必要がある。	【課題】 今後も参加者の安心・安全に配慮しながら、収穫体験や調理実習などの実体験を伴った講座に取り組んでいく必要がある。

事業No.及び事業名	２６　「発酵のまち上越」の啓発活動
事業担当課	上越ものづくり振興センター
取組の概要	「発酵のまち上越」を情報発信するとともに、古くから根付き受け継がれてきた発酵食品文化を次世代へ継承する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	上越の発酵食品をホームページやイベント等で広く発信するとともに、発酵食品文化を次世代へ継承する。	→	→	→	→
目　　標	SNSでの情報発信により、上越は「発酵のまち」というイメージを持つ市民を増加させる 情報発信回数：月1回	→	→	→	→
目標に対する実績	SNSでの情報発信回数 月1.6回	SNSでの情報発信回数 月0.6回			
目標達成状況	達成	未達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	＜情報発信＞ SNSで「発酵のまち上越」をPRした。 ＜講演・講座・学習会等＞ ・市内小学校と連携し、上越の発酵食品に関する校外学習を実施するとともに、子ども達から味噌の新しい食べ方を考案してもらい味噌の消費拡大を図った。 ・謙信KIDSプロジェクト「食」の講座において、小学生向けに味噌の仕込み体験や味噌、醤油を使った調理実習などを行い、次世代に発酵食品の魅力をPRした。 ・大潟地区公民館事業において、発酵のまち上越の取組についての学習会及び、全国の味噌の味比べを実施した。 ・上越教育大学と連携し、東京農業大学の小泉武夫先生を招き、発酵食をテーマとしたフォーラムを開催した。（2/23実施） ＜イベント＞ ・食育月間1DAYにおいて、みそまる作り体験を実施することで、発酵食品文化の啓発に努めた。 ・越後・謙信SAKEまつりに合わせ、高田まちかど交流館にて上越産酒粕を使った「さかきん発酵鍋」と「雪むろ酒かすラーメン」を販売し発酵のまち上越の新名物としてPRした。	＜情報発信＞ ・SNSで「発酵のまち上越」をPRした。 ・広報Jステーションで「発酵のまち上越」をPRした（1月10日）。 ＜講演・講座・学習会等＞ ・謙信KIDSプロジェクト「食」の講座において、小学生向けに味噌の仕込み体験や味噌、醤油を使った調理実習などを行い、次世代に発酵食品の魅力をPRした（6月4日、8月27日、12月2日）。 ・春日小学校の総合学習で市内の発酵食品について学習している児童へ授業を行った（11月27日）。 ＜イベント＞ ・食育実践セミナーにおいて、みそまる作り体験を実施することで、発酵食品文化の啓発に努めた。 ・越後・謙信SAKEまつりに合わせ、高田まちかど交流館にて上越の発酵に関するパネル展示を行う。また、市内の発酵食品関連事業者の支援を通して発酵食品のPRを行う。（10月20日、21日）
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 ・SNSでの情報発信を月に1回以上行うことができた。 ・学習会などを通して、市民や次世代の子ども達に対し、上越の発酵食文化について興味関心を深めてもらうことができた。 ・SAKEまつりでは、市外からの来場者に対しても「発酵のまち上越」ならではの新名物をPRすることができた。	【評価】 ・SNSでの情報発信を月に1回行うことができなかった（2月に1回程度）。 ・食育実践セミナーや謙信KIDSプロジェクト、総合学習などを通して、市民や次世代の子ども達に対し、上越の発酵食文化について興味関心を深めてもらうことができた。 ・SAKEまつりでは、市外からの来場者に対しても「発酵のまち上越」をPRすることができた。
	【課題】 ・感染対策の観点からその場での試食などまだ制限のある状況だが、引き続き感染対策を取りながらPRに努めていきたい。	【課題】 ・発酵食品を製造、販売する個々の事業者ではそれぞれ活動しているが、まとまって活動することが少ないのが現状である。活動の方向性について検討しながらPRに努めていきたい。

事業No.及び事業名	２７　SNS等を活用した若い世代への郷土料理の継承
事業担当課	農政課
取組の概要	郷土料理になじみの薄い若い世代に向け、SNS等にレシピや由来を掲載し、郷土料理の継承につなげる。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	料理レシピ検索サイトに上越の郷土料理や上越の旬の食材を使用したレシピや由来を掲載する。	→	→	→	→
目　　標	郷土料理や上越の旬の食材を使用したレシピの投稿回数 月1回	→	→	→	→
目標に対する実績	郷土料理や上越の旬の食材を使用したレシピの投稿回数 概ね月1回	郷土料理や上越の旬の食材を使用したレシピの投稿回数 月1回			
目標達成状況	達成	達成			
目　　標	郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている市民の割合 （食育市民アンケート結果） ―	郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている市民の割合 （食育市民アンケート結果） 48%	郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている市民の割合 （食育市民アンケート結果） ―	郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている市民の割合 （食育市民アンケート結果） 49%	郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている市民の割合 （食育市民アンケート結果） 50%以上
目標に対する実績	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可	郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている市民の割合 （食育市民アンケート結果） 49.5%			
目標達成状況	―	達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	＜料理レシピサイト「クックパッド」のレシピ投稿＞ NPO法人食の工房ネットワークと連携してサイトを運営し、郷土料理や旬の地域食材を使用した料理のレシピを投稿した。 〈投稿したレシピ〉 ・新じゃがいもとアスパラガスのカレー炒め（4月） ・根曲がり竹の瓶詰（5月） ・ブロッコリーのチリ風炒め（6月） ・赤しそジュース（7月） ・麻婆風 夕顔のあんかけ（8月） ・新米をおいしく食べよう！けんさ焼き（10月） ・しっとり！米粉のお好み焼き（12月） ・大根と肉団子のみぞれかけ（12月） ・野沢菜と酒粕のお味噌汁（1月） ・春色あざやか♪赤かぶのポタージュ（2月） ・のっぺ（3月） ※サイトフォロワー数：182件 ※R4.4月～R5.3月の総アクセス数：106,436件 （月平均8,870件、日平均292件）	・料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式ページにおいて、郷土料理や旬の地域食材を使用した料理レシピを毎月配信したほか、市農林水産部インスタグラムを活用し、令和5年度から料理レシピの動画を3本配信した。 ※参考 ＜クックパッド＞ ・フォロワー数：193件 ・R5.4～R6.1のアクセス数：87,620件 （月平均8,762件、日平均286件） ＜インスタグラム＞ ・フォロワー数：184件 ・レシピ動画アクセス数：848件 （283件/本）
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 ・NPO法人食の工房ネットワークと連携することで、旬の食材を逃すことなく、手軽な料理レシピを紹介することができている。 ・郷土料理については、特に年末年始にアクセス数が格段に増えることから、一定の需要があるものと感じている。	【評価】 ・NPO法人食の工房ネットワークと連携し、旬の食材を逃すことなく、手軽な料理レシピを紹介することができた。 ・郷土料理については、特に年末年始にアクセス数が格段に増えることから、一定の需要があるものと感じている。
	【課題】 当ページのアクセスランキングでは、郷土料理が上位を占めている。現在、一般的な上越の郷土料理レシピの投稿は、概ね掲載を終えていることから、一般的な上越の郷土料理のほか、各地域で伝わっている郷土料理などの掲載も検討していきたい。	【課題】 ・クックパッドにおいて、一般的な上越の郷土料理レシピは概ね掲載を終えており、現在、旬の食材や上越野菜を使用したレシピが主であることから、各地域で伝わっている郷土料理などの掲載も検討したい。

事業№及び事業名	２８　地場産食材、郷土料理を取り入れた学校給食の推進
事業担当課	教育総務課
取組の概要	給食献立において、地場産食材、郷土料理を取り入れるなど、「上越の食」について考える取組を行う。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	毎月、地場産食材や郷土料理を取り入れた学校給食を提供する。	→	→	→	→
目　　標	地場産食材や郷土料理を取り入れた給食献立の提供回数 月1回	→	→	→	→
目標に対する実績	地場産食材や郷土料理を取り入れた給食献立の提供回数 月1回	地場産食材や郷土料理を取り入れた給食献立の提供回数 月1回			
目標達成状況	達成	達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	○今年度は、地場産食材や郷土料理を通じて、上越市の自然・食文化・産物についての理解を深めることを目的に、市立小中学校（69校）において、毎月「ふるさと献立」を実施した。 ○地場産食材を活用した「ふるさと献立」の一例 ・上越ならではの魚を使用 「めぎすの粒マスタード焼き」「めぎすのつみれ汁」 「さめのごまケチャップソースかけ」「さめの竜田揚げ」 ・上越の特産物を使用 「車麩のみそ汁」「鶏肉と車麩の揚げ煮」 ・上越野菜を使用 「なますかぼちゃの炒め物」「ゆで枝豆」 「(越の丸)なすと豚肉の揚げ煮」 ・発酵食品を使用 「鮭の塩こうじ焼き」「塩こうじスープ」 「鶏肉の甘みそ焼き」「粕汁」 ・新潟の郷土料理 「春ののっぺい汁」「夏ののっぺい汁」「煮なます」 ・地域に伝わる保存食 「打ち豆入り豚汁」「豚肉の名立産梅ソースがけ」 「いもがらのみそ汁」	○地場産食材や郷土料理を通じて、上越市の自然・食文化・産物についての理解を深めることを目的に、市立小中学校（69校）において、毎月「ふるさと献立」を実施する。 ○地場産食材を活用した「ふるさと献立」の一例 ・上越ならではの魚を使用 「めぎすの米粉揚げ」「めぎすのつみれ汁」 「さめフライのごまケチャップソース」 ・上越の特産物を使用 「車麩のみそ汁」「姫竹汁」 ・上越野菜を使用 「キャベツのみそ汁」「枝豆サラダ」 ・発酵食品を使用 「マスの塩こうじ焼き」「鶏肉のみそ焼き」 ・新潟の郷土料理 「春ののっぺい汁」
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 ・地場産食材や郷土料理を取り入れた給食献立の提供を月1回提供できた。 ・学校栄養教諭がふるさと献立の提供前までに、可能な範囲で生産者へ取材し、地場産食材に関する資料や動画を作成、給食指導に活用した中で、食べるまでに関わる工程や生産者の直接の声に、興味深く反応する児童生徒の様子もみられた。また、今年度初めて実施したゆで枝豆の提供時には、さやから出して食べるという食べ方が分からない児童もいて、食体験としても効果があった。	【評価】 ・地場産食材や郷土料理を取り入れた給食献立の提供を月1回提供できた。 ・学校栄養教諭がふるさと献立の提供前までに、可能な範囲で生産者へ取材し、地場産食材に関する資料や動画を作成、給食指導に活用した中で、食べるまでに関わる工程や生産者の直接の声に、興味深く反応する児童生徒の様子もみられた。また、今年度初めて実施したゆで枝豆の提供時には、さやから出して食べるという食べ方が分からない児童もいて、食体験としても効果があった。 ・保護者からも、家庭では普段食べることのない食材やメニューが給食で出ることに関して感謝の言葉をいただいている。
	【課題】 引き続き、学校給食に提供可能な地場産食材や郷土料理を取り入れながら、「食」について考える取組を推進することが必要である。	【課題】 引き続き、学校給食に提供可能な地場産食材や郷土料理を取り入れながら、「食」について考える取組を推進することが必要である。

事業№及び事業名	２９　★食育関係団体の食育活動の集約と情報発信
事業担当課	農政課
取組の概要	市内で行われる食育に関するイベントや教室、体験活動等を集約し、市ホームページ等で市民に広く周知する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	市内で行われる食育に関するイベントや教室、体験活動等を集約する体制を整備し、集約した食育情報は時宜を捉えて市民へ発信する。	→	→	→	→
目　　標	食育情報集約体制の整備集約した市内の食育情報の発信回数 月1回以上	→	→	→	→
目標に対する実績	市内で行われる食育に関するイベント等の情報発信回数 月1回	市内で行われる食育に関するイベント等の情報発信回数 月1回			
目標達成状況	達成	達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	・「みんなの食育活動掲示板」のページを市ホームページに立ち上げ、1か月ごとに市内で行われる食育に関連するイベントや教室等の情報を発信している。あわせて、食育に関連するイベント情報も募集している。 ・ホームページを閲覧できない市民もあることから、区総合事務所、南北出張所、公民館などに紙媒体での情報を設置し、情報を発信している。	・市内で行われる食育に関連するイベントや教室等を情報収集し、「みんなの食育活動掲示板」として市ホームページに毎月掲載した。 ・区総合事務所や南北出張所、公民館等の窓口において、紙媒体による「みんなの食育活動掲示板」を配置した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 ・今年度からの新しい取組であり、毎月継続的に情報を発信することができている。 ・掲載内容は、行政で行う事業を多く掲載しており、市民が行う事業を掲載することができていない状況にある。	【評価】 ・「みんなの食育活動掲示板」を市ホームページに毎月掲載し、食育に関するイベントや教室、体験活動などの情報を広く周知した。 ・紙媒体による「みんなの食育活動掲示板」を毎月発行し、インターネットの利用環境にない市民等に食育情報を提供することができた。
	【課題】 情報発信当初は、いくつかの団体や機関の情報を発信していたが、最近では情報が固定化していることから、主催者側、利用者側それぞれに有効な取組となるよう、「みんなの食育活動掲示板」の周知を進めるとともに、情報収集を行う必要がある。	・「みんなの食育活動掲示板」の情報量が少ないことから、庁内食育関係課や食育関係団体等から情報提供を促すなど、掲載情報の充実を図る必要がある。

事業№及び事業名	３０　健康づくり推進協議会の開催
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	医療機関等の関係機関と連携し、健康や医療の最新状況について情報交換、意識の共有を図り、食育推進施策にいかす。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	健康づくり推進協議会を開催し、医療機関等の関係機関との協議から得た知見を、食育推進施策に活用する。	→	→	→	→
目　　標	健康づくり推進協議会の開催回数 年2回	→	→	→	→
目標に対する実績	健康づくり推進協議会の開催回数 年2回	健康づくり推進協議会の開催回数 年5回			
目標達成状況	達成	達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	・健康づくり推進協議会を年2回開催し、市の乳幼児期・学童期～高齢期までの健康課題や健康づくり活動等から得られた食生活を含む生活習慣の実態や医療費分析等について、医療機関や大学等関係機関等と情報を共有及び今後の活動の方向性について協議した。 ・平成30年3月に策定した「上越市健康増進計画改定版」を健康づくりの指針として、食育推進施策に活用している。	・上越市第2次健康増進計画（案）（計画期間：令和6年度～令和17年度）を策定するため、健康づくり推進協議会を年5回開催した。市の健康増進に係る施策の方針を協議するとともに、現行の上越市健康増進計画の評価を行い、次期計画の方針や重点的に取り組む健康課題等を協議した。 ※上越市第2次健康増進計画（案）は、今後3月25日からのパブリックコメント結果公表を経て正式に策定となる。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 医療、教育、介護等の関係者と当市の健康課題から見えてきた今後の保健活動の方向性について情報共有することができた。	【評価】 医療、教育、介護等の関係者と当市の健康課題から見えてきた今後12年間の計画の基本方針や目標、重点取組等を協議し、上越市第2次健康増進計画（案）を策定することができた。
	【課題】 引き続き、医療機関や大学等関係機関等と市の健康実態や重症化・介護予防について情報提供するとともに、対応等の協議を行い、その中から得た知見を食育関係施策においても活用できるよう検討していく必要がある。	【課題】 上越市第2次健康増進計画（案）に示した「栄養・食生活」領域の目標や施策等の進捗状況について協議会委員に情報提供を行い、医療機関等の関係機関との協議から得た知見を、食育推進施策に活用する。

事業No.及び事業名	３１　食育に関する積極的な情報提供
事業担当課	農政課、関係課
取組の概要	市ホームページ「上越の食育」や広報上越、メディア等を活用し、市内の食育活動やイベント、食育に関する啓発事項等を積極的にPRする。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	市ホームページやSNS、広報上越、メディア等を通じて、市民へ食育情報を定期的に発信する。	→	→	→	→
目　　標	食育情報の発信回数 月4回以上	→	→	→	→
目標に対する実績	食育情報の発信回数 月4回	食育情報の発信回数 月4回			
目標達成状況	達成	達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	＜もぐもぐジョッピーの食育気まぐれ日記＞ 上越市食育推進キャラクター「もぐもぐジョッピー」が、市内の食育情報や食育に関する話などを日記にし、市ホームページ「上越の食育」と料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式ページを通じて市民に伝えている。 ＜小中学校給食献立表＞ 教育総務課と連携し、市ホームページに毎月掲載している。 ＜郷土料理や旬の地域食材を使用した料理のレシピ＞ 料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式ページに月に1回のペースで掲載している。 ＜市内の食育イベント等の情報＞ 「みんなの食育活動掲示板」として、市内で行われる食育情報を月ごとにまとめ、市ホームページに掲載しているほか、総合事務所、南・北出張所、公民館等において、紙媒体で情報を発信している。 その他、市ホームページ内の「上越の食育」ページや令和4年度よりスタートした農林水産部のインスタグラムを活用し、食や農林水産業についての情報を発信している。	＜もぐもぐジョッピーの食育気まぐれ日記＞ ・市ホームページ「上越の食育」において、市内の食育情報や食育に関する話題などを「もぐもぐジョッピーの食育気まぐれ日記」として毎月掲載し、広く情報発信した。 ＜小中学校給食献立表＞ ・教育総務課と連携し、市ホームページに小中学校給食献立表を毎月掲載した。 ＜郷土料理や旬の地域食材を使用した料理のレシピ＞ ・料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式ページにおいて、郷土料理や旬の地域食材を使用した料理レシピを毎月配信したほか、市農林水産部インスタグラムを活用し、令和5年度から料理レシピの動画を3本配信した。 ＜市内の食育イベント等の情報＞ ・市内で行われる食育に関連するイベントや教室等を情報収集し、「みんなの食育活動掲示板」として市ホームページに毎月掲載した。 ・インターネットの利用環境にない市民に対応するため、区総合事務所や南北出張所、公民館等の窓口で「みんなの食育活動掲示板」を紙媒体で配置した。 ・その他、市ホームページ内の「上越の食育」ページや農林水産部のインスタグラムを活用し、食や農林水産業の魅力について情報発信した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 ・定期的に月4回以上の食育情報を発信することができた。 ・情報を発信する媒体は、市ホームページを中心としているが、今年度から農林水産部のインスタグラムを開設したことから、今後も様々な媒体を活用して情報発信していく。	【評価】 ・関係課と連携し、市ホームページやＳＮＳ等を通じて、食育に関する様々な情報を定期的に発信することができた。
	【課題】 定期的に食育情報を発信しているが、発信が主になっているため、情報が市民に確実に届くよう、市ホームページやインスタグラム自体の周知が必要である。	【課題】 ・定期的に発信している食育関連情報が市民に確実に届くよう、食育イベント等を通じて、市ホームページで食育情報を発信していることやインスタグラムを開設していることを積極的に周知する必要がある。

事業№及び事業名	３２　学校給食だよりの発行による情報提供
事業担当課	教育総務課
取組の概要	毎月、学校給食だよりを発行し、給食献立や旬の食材、地域の食材の紹介などを通して「食」への関心や知識を高める。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	学校給食だよりを作成し、保護者へ提供する。	→	→	→	→
目　　標	給食だよりの発行回数 月1回	→	→	→	→
目標に対する実績	給食だよりの発行回数 月1回	給食だよりの発行回数 月1回			
目標達成状況	達成	達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	・児童生徒やその保護者に対し、毎月の給食だより等を通じて、給食に関する情報（レシピや旬の食材、地域の伝統的な献立等）を継続的に提供した。 ・市ホームページにおいて、給食だよりを掲載した。 ・地元のケーブルテレビ局へ給食だよりを情報提供した。	・児童生徒やその保護者に対し、毎月の給食だより等を通じて、給食に関する情報（レシピや旬の食材、地域の伝統的な献立等）を継続的に提供した。 ・市ホームページにおいて、給食だよりを掲載した。 ・地元のケーブルテレビ局へ給食だよりを情報提供した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 児童生徒やその保護者、並びに広く市民に学校給食について情報提供を行うことができた。 【課題】 今後も継続して給食だより等を通じて「学校給食情報」を発信し、「食」への関心や知識を高める必要がある。	【評価】 児童生徒やその保護者、並びに広く市民に学校給食について情報提供を行うことができている。 【課題】 今後も継続して給食だより等を通じて「学校給食情報」を発信し、「食」への関心や知識を高める必要がある。

事業No.及び事業名	３３　「食育月間」や「食育の日」を中心とした食育推進運動
事業担当課	農政課、関係課
取組の概要	6月の「食育月間」や毎月19日の「食育の日」を中心に、市民向けのイベントを開催するほか、市ホームページや広報上越等を通じた食育の実践の定着につながる情報を発信する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	・6月の食育月間に「食育フェア」を開催するとともに、食育の実践につながる食育情報を保育園、学校等に配布し啓発する。 ・毎月19日の食育の日に「もぐもぐジョッピーの食育気まぐれ日記」を市ホームページ、SNSに掲載する。 ・市ホームページや広報上越を通じて、定期的に食育情報を発信する。	→	→	→	→
目　　標	「食育月間」及び「食育の日」の認知度の向上 （食育市民アンケート結果） —	「食育月間」及び「食育の日」の認知度の向上 （食育市民アンケート結果） 24.3%以上 （R3アンケート結果比較）	「食育月間」及び「食育の日」の認知度の向上 （食育市民アンケート結果） —	「食育月間」及び「食育の日」の認知度の向上 （食育市民アンケート結果） R5アンケート結果以上の値	「食育月間」及び「食育の日」の認知度の向上 （食育市民アンケート結果） R7アンケート結果以上の値
目標に対する実績	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可	「食育月間」及び「食育の日」の認知度の向上 （食育市民アンケート結果） 19.0%			
目標達成状況	ー	未達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	＜6月の食育月間における啓発＞ ・「もぐもぐジョッピーの食育フェア」の開催 （6月18日（土）、無印良品直江津） 自分の食生活を考え、食育の実践の環を広げる場を提供した。 〈内容〉・「みそまる」づくり体験 ・パッククッキングデモ ・食べ物マジックショー ・けしごむはんこ教室 ・その他、減塩や朝食の摂取、保育園の給食等のパネル展示 ・市内の保育園、幼稚園、小中学校へ新たに策定した第4次上越市食育推進計画の概要版や国が発行している「食育ガイド」を配布したほか、授業や活動で使用できるデジタルコンテンツを紹介した。 ＜毎月19日の食育の日＞ ・学校給食において、19日を目安に「食育の日献立」や「ふるさと献立」を提供し、食を考える機会とした。 ・公立保育園では、毎月19日を目安に食育集会を実施し、食について学ぶ機会とした。	＜6月の食育月間における啓発＞ ・食育実践セミナーの開催 開催日：6月17日（土） 場　所：高田城址公園オーレンプラザ 内　容：調理体験、健康コーナー、こどもコーナー、食育パネル展示等 参加者：308人 ・市内の保育園、幼稚園、小中学校へ第4次上越市食育推進計画の概要版や国が発行している「食育ガイド」を配布したほか、授業や活動で使用できるデジタルコンテンツを紹介した。 ＜毎月19日の食育の日＞ ・毎月19日を目安に「もぐもぐジョッピーの食育気まぐれ日記」を市ホームページや市農林水産部インスタグラムで情報発信した。 ・学校給食において、19日を目安に「食育の日献立」や「ふるさと献立」を提供し、食を考える機会とした。 ・公立保育園では、毎月19日を目安に食育集会を実施し、食について学ぶ機会とした。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 ・「もぐもぐジョッピーの食育フェア」では、来場のきっかけとして、マジックショーやけしごむはんこ体験を取り入れたことで、多くの方から来場いただき、食育啓発の展示も合わせて見てもらうことができた。 ・保育園での食育集会や学校給食の取組は、定着し継続的に実施している。	【評価】 ・6月の食育月間にあわせ、関係課や食育関連団体等と連携して食育実践セミナーを開催し、食育活動の実践につながる機会を提供することができた。 ・毎月19日の食育の日を目安に実施する食育関連事業を通じて、児童や生徒などから食育に関心を持ってもらえるような機会を提供することができた。
	【課題】 ・引き続き、6月の食育月間、毎月19日の食育の日を中心に、保育園、幼稚園、学校、地域へ食育情報を発信し、全市民運動として食育の推進に取り組むとともに、6月の食育月間は特に力を入れて食育推進に向けた啓発を行う必要がある。	【課題】 ・6月の食育月間にあわせて食育に関するイベントを開催するほか、毎月19日の食育の日を中心に、保育園や幼稚園、学校、地域へ食育情報を発信し、全市民的な運動として食育に関する取組を継続的に行っていく必要がある。

事業No.及び事業名	３４　食育実践セミナーの開催
事業担当課	農政課、関係課
取組の概要	食に関する講演会や食体験を通じて、市民の食への関心を高めるとともに、家族や自らの食生活を考え、食育の実践の定着につながる機会とする「食育実践セミナー」を開催する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	市内の食育関係団体や庁内食育推進関係課と連携して、食育実践セミナーを開催する。	→	→	→	→
目　　標	食育実践セミナーの開催回数 年1回	→	→	→	→
目標に対する実績	食育実践セミナーの開催回数 年1回（10月29日）	食育実践セミナーの開催回数 年1回（6月17日）			
目標達成状況	達成	達成			
目　　標	食育に関心を持っている市民の割合 ―	食育に関心を持っている市民の割合 82.5%	食育に関心を持っている市民の割合 ―	食育に関心を持っている市民の割合 87.5%	食育に関心を持っている市民の割合 90%以上
実　　績	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可	食育に関心を持っている市民の割合 70.8%			
目標達成状況	―	未達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	市民全世代が食への関心を高め、自分や家族の食生活を考える食育の実践の環を広げる機会となる場を提供するため、関係機関と連携し、食育実践セミナーを開催した。 ・開催日：10月29日（土）※農林水産フェスティバルと同時開催 ・会　場：上越文化会館 ・内　容： ①食育講演会「おいしく食べてみんな元気！ ～食事は楽しく、バランスよく～」 講師：高橋典子 氏（料理研究家/おから料理研究家） ②食育啓発の展示 朝食を食べることの啓発 市立保育園の給食についての展示 栄養成分表示クイズ 我が家の食料自給率チェック 上越の食（発酵のまち上越、上越野菜）の紹介 ・連携機関：JAえちご上越、上越地域振興局健康福祉環境部、食生活改善推進員、新潟県栄養士会上越支部 その他、食育実践セミナーの内容を「食育実践セミナー（WEB版）」として、市ホームページで広く公開した。	・市民全世代が食への関心を高め、自分や家族の食生活を考える食育の実践の環を広げるため、食育実践セミナーを開催した。 ＜食育実践セミナー＞ ・開催日：6月17日（土） ・場　所：高田城址公園オーレンプラザ ・内　容：調理体験、健康コーナー、こどもコーナー、食育パネル展示等 ・参加者：308人 ＜食育実践セミナー（WEB版）の配信＞ ・家庭においても食について学べるよう、食育実践セミナーの内容をWEB版として市ホームページで広く公開した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 ・食育実践セミナーの開催が農林水産フェスティバルと同時開催となり、イベント全体の来場者数は約1,000人であったが、午後からの食育講演会への来場者が少なく、周知に課題を残した結果となった。 ・イベント全体としては、食育実践セミナーの内容のほか、農業機械の展示や上越市の農林水産業についての展示を行い、「食べる」だけでなく、生産についての理解を深めてもらう機会となった。	【評価】 ・食育実践セミナーを通じて、食育に関する様々な体験や展示を行い、食育の実践につながるよう啓発活動を行うことができた。
	【課題】 食育講演会については、若い子育て世代にも聞いてもらえるよう、テーマを絞ったが、来場者が少ない状況にあった。講演会の形式にとらわれず、楽しみながら、食について考え、学べる内容の検討が必要である。	【課題】 ・様々な団体と協力し連携するとともに、食育推進活動に興味や関心を持ってもらえるよう、さらに充実したイベント内容となるよう検討する必要がある。

事業No.及び事業名	３５　★デジタル技術を活用した食育情報の発信
事業担当課	農政課
取組の概要	市民がいつでも手軽に食育情報が入手できるよう、市ホームページやSNSを活用して食育情報を発信する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	市ホームページ及びSNSから食育情報を随時発信する。	→	→	→	→
目　　標	市ホームページ及びSNSに食育情報（食育関係情報全て）を発信する回数 月3回以上	→	→	→	→
目標に対する実績	市ホームページ及びSNSに食育情報（食育関係情報全て）を発信する回数 月4回	市ホームページ及びSNSに食育情報（食育関係情報全て）を発信する回数 月4回			
目標達成状況	達成	達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	※31 食育に関する積極的な情報提供の再掲 ＜もぐもぐジョッピーの食育気まぐれ日記＞ 上越市食育推進キャラクター「もぐもぐジョッピー」が、市内の食育情報や食育に関する話などを日記にし、市ホームページ「上越の食育」と料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式ページを通じて市民に伝えている。 ＜小中学校給食献立表＞ 教育総務課と連携し、市ホームページに毎月掲載している。 ＜郷土料理や旬の地域食材を使用した料理のレシピ＞ 料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式ページに月に1回のペースで掲載している。 ＜市内の食育イベント等の情報＞ 「みんなの食育活動掲示板」として、市内で行われる食育情報を月ごとにまとめ、市ホームページに掲載している。 その他、市ホームページ内の「上越の食育」ページや今年度よりスタートした農林水産部のインスタグラムを活用し、食や農林水産業についての情報を発信している。	※31 食育に関する積極的な情報提供の再掲 ＜もぐもぐジョッピーの食育気まぐれ日記＞ ・市ホームページ「上越の食育」において、市内の食育情報や食育に関する話題などを「もぐもぐジョッピーの食育気まぐれ日記」として、広く情報発信した。 ＜小中学校給食献立表＞ ・教育総務課と連携し、市ホームページに小中学校給食献立表を毎月掲載した。 ＜郷土料理や旬の地域食材を使用した料理のレシピ＞ ・料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式ページにおいて、郷土料理や旬の地域食材を使用した料理レシピを毎月配信したほか、市農林水産部インスタグラムを活用し、令和5年度から料理レシピの動画を3回配信した。 ＜市内の食育イベント等の情報＞ ・市内で行われる食育に関連するイベントや教室等を情報収集し、「みんなの食育活動掲示板」として市ホームページに毎月掲載した。 ・インターネットの利用環境にない市民に対応するため、区総合事務所や南北出張所、公民館等の窓口で「みんなの食育活動掲示板」を紙媒体で配置した。 ・その他、市ホームページ内の「上越の食育」ページや農林水産部のインスタグラムを活用し、食や農林水産業の魅力について情報発信した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 ※31 食育に関する積極的な情報提供の再掲 ・定期的に月4回以上の食育情報を発信することができた。 ・情報を発信する媒体は、市ホームページを中心としているが、今年度から農林水産部のインスタグラムを開設したことから、今後も様々な媒体を活用して情報発信していく。	【評価】 ※31 食育に関する積極的な情報提供の再掲 ・関係課と連携し、市ホームページやＳＮＳ等を通じて、食育に関する様々な情報を定期的に発信することができた。
	【課題】 ※31 食育に関する積極的な情報提供の再掲 ・定期的に食育情報を発信しているが、発信が主になっているため、情報が市民に確実に届くよう、市ホームページやインスタグラム自体の周知が必要である。	【課題】 ※31 食育に関する積極的な情報提供の再掲 ・定期的に発信している食育関連情報が市民に確実に届くよう、食育イベント等を通じて、市ホームページで食育情報を発信していることやインスタグラムを開設していることを積極的に周知する必要がある。

事業№及び事業名	３６　食の安全に関する情報発信
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	国、県からの食の安全に関する健康被害情報を市ホームページや広報紙を活用して情報提供する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	県からの食の安全に関する健康被害情報等を市ホームページや広報紙などを活用し、情報提供する。	→	→	→	→
目　　標	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 （食育市民アンケート結果） ―	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 （食育市民アンケート結果） 全世代　77% 若い世代　66%	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 （食育市民アンケート結果） ―	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 （食育市民アンケート結果） 全世代　85% 若い世代　69%	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 （食育市民アンケート結果） 全世代　90% 若い世代　70%
目標に対する実績	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可	食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 （食育市民アンケート結果） 全世代　60.7% 若い世代　59.9%			
目標達成状況	―	未達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	市ホームページに食中毒の予防等「食の安全」に関する情報提供を行った。	広報上越7月号と上越タイムス「上越市民の窓」（6月23日付）に食中毒の予防等「食の安全」に関する情報提供を行った。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 市ホームページに食中毒予防等「食の安全」に関する情報を掲載することで、市民に情報発信することができた。	【評価】 市ホームページに食中毒予防等「食の安全」に関する情報を掲載することで、市民に情報発信することができた。
	【課題】 今後も継続して「食の安全」に関する情報を市民に発信していく。	【課題】 今後も継続して「食の安全」に関する情報を市民に発信していく。

事業№及び事業名	３７　農林水産物等の放射性物質検査等の情報発信
事業担当課	農村振興課、農林水産整備課
取組の概要	消費者の信頼に応えるため、新潟県等が実施する農林水産物等の放射性物質の検査結果や残留農薬検査結果などを市民に情報提供する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	必要に応じ、県からの農林水産物等の放射性物質の検査結果を市ホームページで周知する。	→	→	→	→
目　　標	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 （食育市民アンケート結果） ―	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 （食育市民アンケート結果） 全世代　77% 若い世代　66%	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 （食育市民アンケート結果） ―	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 （食育市民アンケート結果） 全世代　85% 若い世代　69%	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 （食育市民アンケート結果） 全世代　90% 若い世代　70%
目標に対する実績	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可	食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 （食育市民アンケート結果） 全世代　60.7% 若い世代　59.9%			
目標達成状況	―	未達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	＜農村振興課、農林水産整備課＞ ・上越市ホームページ「上越の食育」内の食の安全・安心情報ページで、新潟県等が実施する農林水産物等の放射性物質の検査結果や残留農薬検査結果などが掲載された「にいがた食の安全インフォメーション」の外部リンクを表示し、市民への周知を行った。 ・令和4年度は市内の検査で異常は確認されなかった。 ・今後、異常が確認された場合は、都度、市ホームページにて市民への周知を行う。	・上越市ホームページ「上越の食育」内の食の安全・安心情報ページで、新潟県等が実施する農林水産物等の放射性物質の検査結果や残留農薬検査結果などが掲載された「にいがた食の安全インフォメーション」の外部リンクを表示し、市民への周知を行っている。 ・令和6年1月末現在、市内の検査で異常は確認されていない。 ・今後、検査で異常が確認された場合は、都度、市ホームページで市民への周知を行う。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 ＜農村振興課、農林水産整備課＞ 市内での検査の時期や結果を適宜確認し、周知漏れがないよう努めた。	【評価】 ＜農村振興課、農林水産整備課＞ 市内での検査の時期や結果を適宜確認し、周知漏れがないよう努めた。
	【課題】 ＜農村振興課、農林水産整備課＞ 基準値以上の放射性物質が検出された場合には、市ホームページなどで市民に広く情報提供を行い、市民の不安解消に努める。	【課題】 ＜農村振興課、農林水産整備課＞ 基準値以上の放射性物質が検出された場合には、市ホームページなどで市民に広く情報提供を行い、市民の不安解消に努める。

事業№及び事業名	３８　食品表示に関する普及啓発
事業担当課	農村振興課
取組の概要	市民一人一人が安全で安心な食生活を送ることができるよう、食品表示に関する知識の普及を図る。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	県からの食品表示の情報について市ホームページや食育実践セミナーなどのイベントにおいて、情報提供する。	→	→	→	→
目　　標	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 （食育市民アンケート結果） —	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 （食育市民アンケート結果） 全世代　77% 若い世代　66%	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 （食育市民アンケート結果） —	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 （食育市民アンケート結果） 全世代　85% 若い世代　69%	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 （食育市民アンケート結果） 全世代　90% 若い世代　70%
目標に対する実績	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可	食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 （食育市民アンケート結果） 全世代　60.7% 若い世代　59.9%			
目標達成状況	ー	未達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	・上越市ホームページ「上越の食育」内の食の安全・安心情報ページで、食品表示に関する情報などが掲載された「にいがた食の安全インフォメーション」の外部リンクを表示し、市民への周知を行った。 ・「上越市農林水産フェスティバル」において、上越地域振興局健康福祉環境部の協力を得て、食品表示に関するパネルや食品サンプルを展示し、市民の意識啓発を行った。 開催日：令和4年10月29日（土） 会　場：上越文化会館	・上越市ホームページ「上越の食育」内の食の安全・安心情報ページで、食品表示に関する情報などが掲載された「にいがた食の安全インフォメーション」の外部リンクを表示し、市民への周知を行っている。 ・「上越市食育実践セミナー」において、食品表示に関するパネルを展示し、市民の意識啓発を行った。 開催日：令和5年6月17日（土） 会　場：高田城址公園オーレンプラザ
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 農業者や子育て世代が多く参加した「上越市農林水産フェスティバル」で展示することで、広く市民に意識啓発を行うことができた。 【課題】 引き続き、食品表示に関する啓発を行い、食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断できる市民の増加に努める。	【評価】 親子や子育て世代が多く参加した「上越市食育実践セミナー」で展示することで、広く市民に意識啓発を行うことができた。 【課題】 引き続き、食品表示に関する啓発を行い、食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断できる市民の増加に努める。

事業№及び事業名	３９　地場産物（青果物）を使用した給食の提供
事業担当課	教育総務課、農政課
取組の概要	関係団体、生産者等と連携し、学校給食への地場産物（青果物）の利用促進を図る。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	関係団体等との連携を強化し、地場産物（青果物）の利用を促進する。	→	→	→	→
目　　標	学校給食の地場産物（青果物）の使用量の拡大 地場産物(青果物)の使用率 16%以上	学校給食の地場産物（青果物）の使用量の拡大 地場産物(青果物)の使用率 17%以上	学校給食の地場産物（青果物）の使用量の拡大 地場産物(青果物)の使用率 18%以上	学校給食の地場産物（青果物）の使用量の拡大 地場産物(青果物)の使用率 19%以上	学校給食の地場産物（青果物）の使用量の拡大 地場産物(青果物)の使用率 20%以上
目標に対する実績	地場産物(青果物）の使用率 12.58%	地場産物(青果物）の使用率 14.77%			
目標達成状況	未達成	未達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	＜教育総務課＞ ・関係団体や生産者等との連携により確立してきた地場産野菜の納入体制を基に、年間を通じて情報を共有しながら、給食に地場産野菜を取り入れるよう努めた。 ・全体の野菜使用量に対する地場産野菜使用率 12.58 % ＜農政課＞ ・地場産野菜の学校給食への利用拡大に向け、庁内関係課と情報交換を行った。 ・上越地域農業振興協議会園芸振興部会では、水田転換畑での園芸導入推進・生産安定を図るため、課題となっておりほ場の排水性向上に関する研修会等を行った。	＜教育総務課＞ ・関係団体や生産者等との連携により確立してきた地場産野菜の納入体制を基に、年間を通じて情報を共有しながら、給食に地場産野菜を取り入れるよう努める。 ・全体の野菜使用量に対する地場産野菜使用率目標：17 %以上（2学期末：14.77%） ＜農政課＞ ・7月6日に学校給食に野菜を提供する農業者をはじめ、JAえちご上越、上越青果などの流通関係者、行政が参集し、「意見交換会」を開催、課題を共有するとともに、引き続き検討していくことを確認した。 ・令和5年4月28日開催の上越地域農業振興協議会園芸振興部会では、令和5年度事業計画や園芸1億円産地計画等の検討を行った。令和6年2月28日に園芸1億円産地計画の取組結果や次年度の取組について検討を行う。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 ＜教育総務課＞ ・給食での青果物の必要量や地場産野菜の収穫時期について、関係団体等と共有し、献立に反映することができた。 ・地元商店の廃業等により、給食用の地場産野菜の確保が困難となった地区において、ＪＡや近隣地区の商店等の協力を得て、地場産野菜の使用につなげることができた。 ・天候の影響で長ねぎ、人参、大根、キャベツが生育不良や生育遅れとなり給食に使用できなかったため、地場産野菜の使用率が低下した。 ＜農政課＞ ・園芸作付面積は主にえだまめの作付けが拡大しているが、少量多品目の生産者が多く、年間を通じて学校給食に使用できる野菜の種類や数量が確保できていない。	【評価】 ＜教育総務課＞ ・給食での青果物の必要量や地場産野菜の収穫時期について、関係団体等と共有し、献立に反映することができている。 ・地元商店の廃業等により、給食用の地場産野菜の確保が困難となった地区において、ＪＡや近隣地区の商店等の協力を得て、地場産野菜の使用につなげることができている。 ＜農政課＞ ・学校給食における地場産野菜活用に関する意見交換会を開催したことで、生産者などから現状や課題、利用率向上に向けた取組などについて、率直な意見を聞くことができた。
	【課題】 ＜教育総務課＞ ・地元商店の廃業や生産者の減少等により、今後、地場産野菜の仕入れが難しくなることが想定されることから、必要量を確保し、安定した納入体制を維持するため、関係団体等との更なる連携強化を図る必要がある。 ・青果物は天候による影響を受けやすいため、地場産野菜の使用率に毎年変動が見られる。 ＜農政課＞ ・学校給食における地場産野菜の利用向上を図るため、生産者をはじめ、需給に携わる関係機関・団体と、生産や流通における現状と課題などを共有するとともに、今後の利用向上に向けた取組に関し、意見交換を行っていく必要がある。	【課題】 ＜教育総務課＞ ・地元商店の廃業や生産者の減少等により、今後、地場産野菜の仕入れが難しくなることが想定されることから、必要量を確保し、安定した納入体制を維持するため、関係団体等との更なる連携強化を図る必要がある。 ・青果物は天候による影響を受けやすいため、地場産野菜の使用率に毎年変動が見られる。 ＜農政課＞ ・園芸作付面積は主にえだまめの作付けが拡大しているが、少量多品目の生産者が多く、年間を通じて学校給食に使用できる野菜の種類や数量が確保できていない状況である。 ・引き続き、利用率向上に向けて、関係者と情報共有や意見交換を行っていく必要がある。

事業№及び事業名	４０　★上越産農産物等の情報発信
事業担当課	農村振興課
取組の概要	「上越野菜」を始めとした、上越産農産物等のPR、販売促進及び農産物直売所への誘客を図るため、上越産農産物等に関する情報を発信する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	「上越野菜」を始めとした上越産農産物等に関する情報発信を行う。	→	→	→	→
目　　標	facebookでの情報発信の回数 年24回	→	→	→	→
目標に対する実績	facebookでの情報発信の回数 年28回	facebookでの情報発信の回数 年19回（1月末）			
目標達成状況	達成	未達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	・上越産農産物等に関する情報を始め、販売促進に関する補助事業、農場見学ツアーや直売所を知るツアー、直売所のイベント情報などfacebookや市ホームページ、マスコミのほか、今年度新たにInstagramを活用し、情報発信を行った。 ・「上越野菜」を学校給食の食材として使用するとともに、「上越野菜」の生産者に関する情報を給食だより等で児童及び保護者に発信した。	・上越産農産物等に関する情報を始め、販売促進に関する補助事業、農場見学ツアーや直売所のイベント情報などfacebookや市ホームページ、マスコミのほか、Instagramを活用し、情報発信を行っている。 ・「上越野菜」を学校給食の食材として使用するとともに、「上越野菜」の生産者に関する情報を給食だより等で児童及び保護者に発信した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 facebookやInstagramを活用することで、上越産農産物等の情報を全国に即時発信することができた。	【評価】 ・令和5年度末には目標を達成する見込み。 ・facebookやInstagramを活用することで、上越産農産物等の情報を全国に即時発信することができた。
	【課題】 イベントの開催案内や開催結果のほか、「上越野菜」を始めとした上越産農産物等に関し、より多くの人から閲覧してもらえるように、掲載内容を工夫する必要がある。	【課題】 イベントの開催案内や開催結果のほか、「上越野菜」を始めとした上越産農産物等に関し、より多くの人から閲覧してもらえるように、引き続き掲載内容を工夫していく必要がある。

事業No.及び事業名	４１　地産地消推進の店認定事業
事業担当課	農政課
取組の概要	小売店や飲食店等に地域食材を積極的に活用するよう働き掛けるとともに、一定基準以上の地域食材を積極的に活用する店舗に対して認定を行う。 さらに「プレミアム認定店」を認定し、認定店から地産地消の情報発信を行うことで、地産地消の推進を図る。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	認定事業を周知し、地域食材を積極的に取り扱う市内の小売店、飲食店等を地産地消推進の店に認定する。	→	→	→	→
目　　標	認定事業の周知を行い、地域食材を積極的に活用する地産地消推進の店を増やす ・地産地消推進の店認定数：172軒 ・プレミアム認定店：18軒以上	認定事業の周知を行い、地域食材を積極的に活用する地産地消推進の店を増やす ・地産地消推進の店認定数：174軒	認定事業の周知を行い、地域食材を積極的に活用する地産地消推進の店を増やす ・地産地消推進の店認定数：176軒	認定事業の周知を行い、地域食材を積極的に活用する地産地消推進の店を増やす ・地産地消推進の店認定数：178軒	認定事業の周知を行い、地域食材を積極的に活用する地産地消推進の店を増やす ・地産地消推進の店認定数：180軒
目標に対する実績	・地産地消推進の店認定数：174軒 ・プレミアム認定店：16軒	地産地消推進の店認定数 168店舗			
目標達成状況	未達成	未達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	・認定店の募集、認定により、認定店数は令和5年3月末現在で174軒となり、目標を達成することができた。 ・地産地消の推進と地産地消推進の店の利用促進を目的に「地産地消推進キャンペーン」を10月15日（土）から11月30日（水）まで1か月半実施した。 （参加店舗数：38店舗　キャンペーン応募件数：2,791件） ・認定店のうち、地産地消の取組が一定基準以上あり、上越産品のおいしさや魅力を発信し、市民や観光客が上越産品に興味を持つ機会とする「プレミアム認定店」について、申請のあった店舗から16軒を認定、市民に周知を行い、利用促進を図った。	・令和6年1月末現在、地産地消推進の店の申請件数は0件。 ・地産地消の推進と地産地消推進の店の利用促進を目的に、10月15日（日）から11月30日（木）までの間で「地産地消推進キャンペーン」を実施した。（参加店舗数：42店舗、キャンペーン応募件数：2,062件） ・地産地消推進の店の認知度向上とデジタル化に対応するため、認定店のホームページや販売促進資材等で使用できるロゴマークを作成した。 ・プレミアム認定店の募集については、令和4年度第2回地産地消推進会議の意見を踏まえ、2年に1回募集することとした。（次回は令和6年度に募集・認定）
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 ・プレミアム認定店の認定制度について、地産地消推進会議において、時間をかけて審査を行ったことで、新たな基準で地産地消を盛り上げる事業を本格的にスタートさせることができた。 ・地産地消推進キャンペーンでは、昨年度より応募件数が約1,000件増え、参加店舗のご協力のもと、多くの市民や観光客からキャンペーンに参加していただくことができた。	【評価】 ・地産地消推進キャンペーンでは、昨年度よりも多い42店舗から参加いただいた。応募数は減少したが、多くの市民や観光客からキャンペーンに参加していただくことができた。 ・地産地消推進の店ロゴマークのデザイン募集や一般投票による選考の過程において、市民の皆さんが地産地消推進の取組に関心を持つ機会を提供することができた。
	【課題】 ・社会情勢や店舗の運営方針等の変更により、認定店を辞退する店舗があり、認定店数が減少する場合があるため、引き続き、地域食材を取り扱っている店舗に働き掛け、認定店数を増やすことで、地産地消の推進、郷土料理の普及に努める。 ・プレミアム認定店制度を新たにスタートさせたが、市民への周知がまだまだ弱いため、農林水産部のインスタグラムや市ホームページ等で継続的な周知を行い、新制度の認知度向上を図る必要がある。	【課題】 ・地産地消推進の店の申請件数は0件であるが、認定基準を満たすと思われる店舗へ申請を促すなど、認定店の増加に向けた取組を進める。 ・地産地消推進キャンペーンは、さらに多くの市民や観光客から参加していただけるよう広く周知する必要がある。 ・作成したロゴマークは、地産地消推進の店の新たなシンボルとして、認定店のホームページや店頭の販売促進資材などに活用いただけるよう促進する必要がある。

事業No.及び事業名	４２　農産物直売所と消費者のつながり強化
事業担当課	農村振興課
取組の概要	消費者に上越の食と農の魅力を知ってもらい、積極的に選んでもらえるよう、直売所と消費者がつながる機会を提供する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	消費者と直売所がつながる機会を提供する直売所を知るツアー等を開催する。	消費者と直売所がつながる機会を提供するイベントを開催する。	→	→	→
目　　標	事業の参加者数 10人	事業の参加者数 50人	→	→	→
目標に対する実績	事業の参加者数 33人	事業の参加者数 60人			
目標達成状況	達成	達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	・市民を対象とした「直売所を知るツアー」を開催し、市内3つの直売所のほか、直売所で販売している生産者の農場をめぐり、上越の食と農の魅力発信に努めた。 開催日：令和4年7月24日（日） 参加者数：7人（募集人数10人） ・7月23日(土)～9月30日(金)に「直売所祭り」と題して、市内直売所6店舗をめぐるスタンプラリーを開催した。 応募者数：26人 ・地元新聞に直売所のイベント等の情報掲載を依頼し、市民への周知を行った（年3回）ほか、市ホームページ、SNSで情報発信を行った。	・7月8日(土)～9月30日(土)まで「直売所祭り」と題して、市内7か所の直売所を巡り、一定金額以上の商品を購入しレシートを集めて応募すると豪華景品が当たるイベントを開催した。 応募者数：60人 ・地元報道機関に直売所のイベント等の情報掲載を依頼し、市民への周知を行った（年3回）ほか、市ホームページ、SNSで情報発信を行った。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 イベント開催や情報発信することで、市内直売所の利用促進と食と農の魅力を発信することができた。	【評価】 ・「直売所祭り」について、R4年度の反省を踏まえ、消費者がより参加しやすい応募方法に見直したほか、景品内容を見直したことにより、目標を達成することができた。 ・イベント開催や情報発信することで、市内直売所の利用促進と食と農の魅力を発信することができた。
	【課題】 ・R3年度の反省を踏まえ、R4年度のツアーを日曜日に開催したが、参加者数はR3年度と同数であったことから、直売所の利用促進に向け、より効果的な事業を検討する必要がある。	【課題】 ・直売所の利用促進に向け、引き続き「直売所祭り」を開催する。 ・より多くの消費者から参加いただけるよう、応募方法や景品、期間など事業内容を検討する必要がある。

事業№及び事業名	４３　農林漁業体験活動等の情報提供
事業担当課	農村振興課
取組の概要	市内で行われている農林漁業体験活動等の情報をとりまとめ、情報提供を行う。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	市ホームページや広報上越等による情報提供を行う。	→	→	→	→
目　　標	市民が容易に農林漁業体験に関する情報を入手できるようにする 情報の提供と更新	→	→	→	→
目標に対する実績	上越市ホームページと広報上越にて、情報の提供を行った。	上越市ホームページと広報上越にて、情報の提供を行った。			
目標達成状況	達成	達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	・上越市ホームページ「上越の食育」内の食育体験メニュー・指導者紹介ページで、グリーン・ツーリズムやNPO法人等による体験活動などの情報が掲載された外部リンクを表示し、市民への情報提供を行った。 ・また、市内のNPO法人等が実施する農林漁業体験イベントの情報を広報上越を通じて提供した。	・上越市ホームページ「上越の食育」内の食育体験メニュー・指導者紹介ページで、グリーン・ツーリズムやNPO法人等による体験活動などの情報が掲載された外部リンクを表示し、市民への情報提供を行っている。 ・また、市内のNPO法人等が実施する農林漁業体験イベントの情報を広報上越を通じて提供した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 ・上越市ホームページに農林漁業体験に関する外部リンクを表示することにより、市民が常時情報を把握できる環境を提供した。 ・農業体験イベントを広報上越に掲載することにより、多くの市民に情報発信することができた。	【評価】 ・上越市ホームページに農林漁業体験に関する外部リンクを表示することにより、市民が常時情報を把握できる環境を提供した。 ・農業体験イベントを広報上越に掲載することにより、多くの市民に情報発信することができた。
	【課題】 ・上越市ホームページに掲載する情報を適宜更新していく必要がある。 ・市内で行われている農林漁業体験活動等の情報をより広く把握し、情報提供する必要がある。	【課題】 ・上越市ホームページに掲載する情報を適宜更新していく必要がある。 ・市内で行われている農林漁業体験活動等の情報をより広く把握し、情報提供する必要がある。

事業№及び事業名	４４　都市・農村交流促進
事業担当課	農村振興課
取組の概要	こだわりを持った地域農産物の購入や市民農園等での農作業体験を楽しみとする都市住民に、食や農への認識を深める機会を広く提供し、都市と農村の交流活動を促進する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	農作業体験やオンライン等による都市との交流事業を実施する。	→	→	→	→
目　　標	都市との交流体験者数 330人	都市との交流体験者数 330人	都市との交流体験者数 350人	都市との交流体験者数 350人	都市との交流体験者数 350人
目標に対する実績	都市との交流体験者数 108人	都市との交流体験者数 324人			
目標達成状況	未達成	未達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	・都市生協パルシステム東京の組合員が当市を訪れての交流体験（稲刈り体験、大根掘り・梅の剪定体験、酒仕込み体験）を3回、東京に出向き棚田米の学習会を1回、オンライン交流会を3回開催し、パルシステム東京と取引のある商品のＰＲと販売促進を図るとともに当市の食と農に対する理解や関心を深めることができた。 交流人数：94人（生協パルシステム東京組合員） ・大島区の市民農園を契約している首都圏居住者：14人	・都市生協パルシステム東京の組合員が当市を訪れての交流体験（田植え体験、稲刈り体験、中山間スタディツアー、大根収穫体験、酒仕込み体験）を5回、東京に出向き体験交流（味噌作り体験、そば打ち体験、棚田米学習会）を5回、オンライン交流会を1回開催し、パルシステム東京と取引のある商品のＰＲと販売促進を図るとともに当市の食と農に対する理解や関心を深めることができた。 交流者数：285人（生協パルシステム東京組合員） ・大島ふるさと農園田植え・稲刈り体験参加者数：39人
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 交流体験事業やオンライン交流会を通して、組合員から産地の想いやこだわりをもった当市の農産物への理解を深めてもらうことで、当市のファンの獲得、上越産品の購入意欲の向上に繋がった。	【評価】 目標を達成することはできなかったが、産地交流事業の開催回数を増やすことができ、交流体験者数は大幅に増加した。 また、交流体験事業やオンライン交流会を通して、組合員から産地の想いやこだわりをもった当市の農産物への理解を深めてもらうことで、当市のファンの獲得、上越産品の購入意欲の向上に繋がった。
	【課題】 全国的にオンラインでの産地交流会が定着し、新たな生活様式に対応した交流人数を確保できた一方で、約3年ぶりに開催した当市での交流体験は、まだまだ新型コロナウイルス感染症の影響があり、参加者数が伸びなかった。子供から大人まで参加してみたいと思えるような魅力ある企画を検討する必要がある。	【課題】 引き続き、子供から大人まで参加をしてもらえるよう、交流会のスケジュールや体験内容の見直しなどを行い、魅力的な体験事業となるよう検討する必要がある。

事業№及び事業名	４５　環境保全型農業の推進
事業担当課	農政課
取組の概要	今後ニーズが見込まれる有機農産物に対応するため、有機農業に取り組んでいる農業者を講師に、有機農業の実情を学ぶ研修会を開催し、有機農業に取り組む農業者の裾野を拡大する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	食の安全や自然環境の保全につながる有機農産物の生産を推進するため、農業者に対し、環境保全型農業直接支払交付金を活用し支援する。	→	→	→	→
目　　標	環境保全型農業に取り組んでいる面積の維持と、有機農業に取り組んでいる面積の拡大 環境保全型農業に取り組んでいる面積：1,896ha うち、有機農業に取り組んでいる面積：75ha	環境保全型農業に取り組んでいる面積の維持と、有機農業に取り組んでいる面積の拡大 環境保全型農業に取り組んでいる面積：1,896ha うち、有機農業に取り組んでいる面積：75ha	環境保全型農業に取り組んでいる面積の維持と、有機農業に取り組んでいる面積の拡大 環境保全型農業に取り組んでいる面積：1,896ha うち、有機農業に取り組んでいる面積：80ha	環境保全型農業に取り組んでいる面積の維持と、有機農業に取り組んでいる面積の拡大 環境保全型農業に取り組んでいる面積：1,896ha うち、有機農業に取り組んでいる面積：85ha	環境保全型農業に取り組んでいる面積の維持と、有機農業に取り組んでいる面積の拡大 環境保全型農業に取り組んでいる面積：1,896ha うち、有機農業に取り組んでいる面積：90ha
目標に対する実績	環境保全型農業に取り組んでいる面積 1,513ha うち、有機農業に取り組んでいる面積 62ha	環境保全型農業に取り組んでいる面積 1,516ha うち、有機農業に取り組んでいる面積 62ha			
目標達成状況	未達成	未達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	＜R4年度環境保全型農業直接支払交付金取組＞ ・取組面積：759ha ・交付金額：42,405,480円 ・取組内容：堆肥の施用 カバークロップ 長期中干し 秋耕 有機農業 冬期湛水管理	＜R5年度環境保全型農業直接支払交付金取組（計画）＞ ・取組面積：652ha ・交付金額：36,848,000円 ・取組内容：堆肥の施用 カバークロップ 長期中干し 秋耕 有機農業 冬期湛水管理 ＩＰＭ（秋耕）
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 環境保全型農業を行っている農業者に対し、環境保全型農業直接支払交付金で支援を行ったが、目標の達成には至らなかった。 【課題】 R3年5月に策定された「みどりの食料システム戦略」では、化学肥料・化学合成農薬の低減や有機農業の拡大が掲げられており、今後、有機農業をはじめとする環境保全型農業の更なる推進を図る必要があるが、一方で農業者が高齢化しており、農業経営が困難になることが考えられる。	【評価】 ・夏の高温、渇水の影響により計画どおり取り組みを実施できないほ場があったことなどにより、目標の達成には至らなかった。 【課題】 ・農業者が高齢化しており、労働力不足が深刻化し、環境保全型農業の維持・拡大が困難になる見込みがあることから、今後も環境保全型農業に新たに取り組む農業者の確保などについて、「みどりの食料システム戦略」をはじめとした、他事業との連携も含め、検討を行う必要がある。

事業№及び事業名	４６　★環境と調和した方法で作られた農林水産物や食品の消費喚起
事業担当課	農政課
取組の概要	持続可能な農林水産業の発展につなげるため、市民に対し化学合成農薬や化学肥料の使用を控えた環境と調和した生産方法による農林水産物や食品を消費することの意義を伝え、市民の消費につなげる。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	環境と調和した生産方法による農林水産物の消費を推進するため、市民に対し、それらを消費することの意義を発信する。	→	→	→	→
目　　標	環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民の割合 （食育市民アンケート結果） ―	環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民の割合 （食育市民アンケート結果） 65%	環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民の割合 （食育市民アンケート結果） ―	環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民の割合 （食育市民アンケート結果） 72%	環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民の割合 （食育市民アンケート結果） 75%以上
目標に対する実績	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可	環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民の割合 （食育市民アンケート結果） 55.6%			
目標達成状況	―	未達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	＜にいがたオーガニックフェスタにおける有機農業の紹介＞ 11月6日（日）開催の「にいがたオーガニックフェスタ」（にいがたオーガニックフェスタ実行委員会主催）に共催し、市民に対し有機農業を紹介することで、環境と調和した農産物への理解を促進した。	＜にいがたオーガニックフェスタにおける有機農業の紹介＞ 10月29日（日）に開催した「にいがたオーガニックフェスタ」（にいがたオーガニックフェスタ実行委員会主催）を後援し、市民に対し有機農業を紹介することで、環境と調和した農産物への理解を促進した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 有機農業に関心のある、農業者・料理人・消費者・流通業者の4者間の交流を図り、有機農業及び消費者の普及を図り、本県農業の発展を期するイベントに参加し、上越市の有機農業を発信することができた。 【課題】 有機農産物に対しては、近年消費者の関心も高いことから、市民団体とも連携し、環境と調和のとれた生産方法で作られた農産物への理解を促進し、消費へつなげる方法を検討する必要がある。	【評価】 昨年度に引き続き、有機農業に関心のある農業者・料理人・消費者・流通業者の4者間の交流を図るイベントに参加し、環境に配慮した農業の取組をPRすることができた。 【課題】 オーガニックフェスタ等を通じ、有機農産物への関心は年々高まっていることから、継続してPRし消費を促すことで、生産者の拡大にもつなげていく必要がある。

事業No.及び事業名	４７　食品ロス削減に向けた取組の推進
事業担当課	農政課
取組の概要	食品ロスの削減は、資源の有効活用や環境負荷の低減はもとより、食の大切さを再認識することにもつながることから、家庭や外食時における食品ロス削減に向けた取組を啓発する。

★年度別計画

年　　度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	市ホームページやSNS、イベントにおいて食品ロスの現状や削減に向けた方策を周知する。	→	→	→	→
目　　標	宴会時の食べきり運動「食の宝庫上越 おいしく残さず食べきろう20・10運動」を始めとした食品ロス削減に向けた取組の啓発回数 年3回以上	→	→	→	→
目標に対する実績	・年3回 ・その他、市ホームページで継続的に啓発	・年3回 ・その他、市ホームページで継続的に啓発			
目標達成状況	達成	達成			
目　　標	食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合 （食育市民アンケート結果） —	食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合 （食育市民アンケート結果） 92%以上	食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合 （食育市民アンケート結果） —	食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合 （食育市民アンケート結果） 92%以上	食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合 （食育市民アンケート結果） 92%以上
目標に対する実績	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可	食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合 （食育市民アンケート結果） 90.5%			
目標達成状況	―	未達成			

★取組状況

	令和4年度	令和5年度（R6.1月末現在）
主な事業実績	・10月の「食品ロス削減月間」において、生活環境課と連携し、「広報上越」、上越タイムス「上越市民の窓」及び市ホームページで食品ロスの現状と削減に向けた対策について啓発した。 ・10月22・23日開催の「越後・謙信SAKEまつり2022」において、生活環境課、環境保全課と連携して、食品ロス削減の啓発チラシの入ったポケットティッシュを配布した。 ・コロナ禍においても、宴会時の食べ切りを呼びかけるため、「食の宝庫上越 おいしく残さず食べ切ろう 20・10運動」を市ホームページで紹介している（現在も継続中）。	・6月の「食育推進月間」にあわせて実施した食育実践セミナーにおいて、食品ロス削減に関するパネル展示を行ったほか、フードドライブを開設し食品の寄付を受け付けた。 ・10月の「食品ロス削減月間」にあわせ、広報上越（10月からの連載）を活用し、食品ロスの現状と削減に向けた対策等について啓発した。（記事は生活環境課が作成） ・10月開催の農林水産フェスティバルにおいて、食品ロス削減に関するパネル展示を行うとともに、フードドライブを開設し食品の寄付を受け付けた。 ・宴会時の食べ切りを呼びかけるため、「食の宝庫上越 おいしく残さず食べ切ろう 20・10運動」を市ホームページでの紹介を継続している。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 ・10月の「食品ロス削減月間」を中心に期間を絞って啓発したことで、市民に対し強く啓発できたものと感じている。	【評価】 ・各種取組を通じて、食品ロスの現状や削減に向けた対策等について啓発することができた。 ・食育実践セミナー及び上越市農林水産フェスティバルで開設したフードドライブにおいて、実際に家庭などで余っている食品を寄付いただいたことで、食品ロス対策の一助となった。
	【課題】 ・啓発は行ったものの、今年度は食育市民アンケートを実施せず、市民の家庭での実践度が把握できていない状況であるため、家庭での実践につながる具体的な方法等の継続的な啓発が必要である。	【課題】 ・食品ロス対策については、消費者への地道な啓発活動が重要であるため、食育に関するイベント等を通じて、継続的に啓発していく必要がある。

資料６

上越市食育推進実施計画
（アクションプラン）

（令和４年度～令和８年度）

（案）

令 和 ６ 年 度
上　　越　　市

目　　次

第１章　上越市食育推進実施計画（アクションプラン）の策定について
１　食育推進実施計画（アクションプラン）の目的　１
２　アクションプランに掲げる事業の進捗管理　１
３　アクションプランの推進に対する関係者の役割　２

第２章　食育の推進に関する具体的な事業
１　基本方針１に基づく事業（指標項目）　４
（１）一人一人の年齢や環境に応じた食習慣の確立　５
（２）「家庭、学校、地域、その他あらゆる機会及び場所の活用」に向けた取組　11
（Ⅰ）家庭における食育の推進　11
（Ⅱ）学校、保育園等における食育の充実　13
（Ⅲ）地域における食生活改善に向けた取組の推進　15

２　基本方針２に基づく事業（指標項目）　１７
（１）郷土の優れた食文化の継承　１９

３　基本方針３に基づく事業（指標項目）　２１
（１）食育推進に向けた連携促進　２１
（２）食育情報の発信と共有　２３
（３）食の安全性の確保　２５

４　基本方針４に基づく事業（指標項目）　２７
（１）地域内での自給を基本とした地産地消の推進　２７
（２）生産者と消費者の信頼関係の確立　２９
（３）環境と調和のとれた持続可能な農林漁業の発展　３１

第1章　上越市食育推進実施計画（アクションプラン）の策定について

１　食育推進実施計画（アクションプラン）の目的

上越市では、平成 18 年 6 月に上越市食育推進条例（以下「条例」という。）を制定し、この条例の基本理念を実現するため、上越市食育推進計画（平成 19 年 11 月策定、平成 24 年 4 月、平成 29 年 3 月改定）（以下「推進計画」という。）を策定して各種施策を推進することとしています。

この推進計画に基づいてより具体的な事業を規定し、施策の実効性を高めるため、上越市食育推進実施計画（アクションプラン）（以下「アクションプラン」という。）を策定し食育を推進しています。

アクションプランでは、今後 5 年間に上越市が重点的に行う取組を明確にし、アクションプランの具体的な実施に当たっては、市だけでなく関係団体が連携、協力しながら取り組んでいきます。

〇アクションプランの位置づけ

２　アクションプランに掲げる事業の進捗管理

アクションプランの実効性を高めるため、毎年度、各事業の実績や進捗状況を的確に把握・評価し、その成果や反省を次年度の事業にいかします。また、これらを的確に継続することで、今後、想定されている推進計画及びアクションプランの見直しに反映するものとします。

３　アクションプランの推進に対する関係者の役割

推進計画に基づくアクションプランは、下記の関係者が連携して事業を推進していくことが重要です。

（１）市民の役割

（第４次食育推進計画に定める役割）
全市民が自らの生涯を通じて、規則正しく健全な食生活を心掛けるとともに、食べ物や自然への感謝の念、食を通じたコミュニケーションなど、食の持つ多面的な機能を理解し、家庭や地域の実践主体として食育の推進に寄与することとします。

食育においては、食べ物の安全性や健康への効果を考えて、食を選びとっていく力を身に付けることが求められています。また、食べ物や自然、生産者に対して感謝の気持ちを感じること、食事を介して家族や友人などと楽しい時間を過ごすこと、郷土料理を始めとした伝統的な食文化を大切に継承することも重要です。

一人一人の市民が食に関連する様々な活動に関心を持って、自らの健全な食生活の実践に役立てていくこと、そして、地域の食育活動に積極的に参加していくことが望まれています。

また、市民同士が集まって、食についての情報交換や学習をすることも必要です。

（２）教育関係者等の役割

（第４次食育推進計画に定める役割）
教育や保育、介護、その他の社会福祉、医療、保健に関する職務の従事者やそれらの関係機関及び関係団体は、あらゆる機会や場所を捉えて積極的に食育を推進するとともに、他の関係者が行う食育推進活動に積極的に協力するよう努めるものとします。

食育は、あらゆる機会や場所を利用して、子どもからお年寄りまで全ての年代を対象に行われる必要があります。学校や保育園を始め、幼稚園、介護施設等の社会福祉施設、医療機関及び保健に関連する施設等の様々な場面で、食育に触れる機会がより多く提供されることで理解が促進されます。これらの仕事に従事される方々には、施設内での食育の推進と同時に、地域等で行われる食育推進活動へ積極的に参加していくことが望まれます。

（３）農林漁業者等の役割

（第４次食育推進計画に定める役割）
　農林漁業者及び農林漁業に関する団体は、体験活動等を通じて自然の恩恵と食に関わる人々の活動の重要性について、市民の理解促進を図るとともに、教育関係者等と相互に連携して、食育推進活動を行うこととします。

農林漁業者及び農林漁業に関する団体の皆さんは、食料が自然の恩恵によるものであること、食料の生産には多くの苦労を伴うことを誰よりもよく知っています。これらの皆さんには、市民が自然の恩恵や生産者の苦労に触れられる機会を多く得られるよう、食料生産に関する様々な体験活動等を実施していくことが望まれています。

（４）食品関連事業者等の役割

（第４次食育推進計画に定める役割）
　食品の製造、加工、流通、販売又は食事の提供を行う事業者及びこれらが組織する団体は、事業を行うに当たって積極的に食育の推進に努めるとともに、市が実施する食育の推進に関する施策や活動に協力するよう努めるものとします。

食品の製造、加工、流通、販売又は食事の提供を行う事業者及びこれらが組織する団体の皆さんには、食育の活動を意識して積極的にその推進に努めると同時に、様々な食育活動に協力することが望まれています。特に、地域内で生産される食材を積極的に利用する地産地消の取組や、消費者が健康に配慮しながら食を選ぶための情報を提供する取組などを積極的に行うことが求められています。

（５）食育関係団体等の役割

（第４次食育推進計画に定める役割）
　市内で数多く組織されている食育関係者による団体等は、食文化の継承や食生活の改善など様々な食育活動を地域全体で主体的に取り組むこととします。

食育を担う様々な関係団体の皆さんには、これまで培ってきた食育に関する知識を有効活用しながら主体的に活動を行うことで食育活動を地域全体へと広げ、市民運動として「食育」を進めていくことが期待されます。

（６）市の役割

（第４次食育推進計画に定める役割）
　食育に関する情報の収集・発信環境の整備を行うとともに、市民や教育関係者、保健、医療、福祉関係者、農林漁業者、食品関連事業者、食育関係者、市民など、あらゆる機関・団体などと連携を図りながら、総合的に本計画を推進します。

推進計画に基づいて事業を推進するため、関係者と連携して、情報の収集と啓発のための発信を行います。また、同時に食育活動を推進する様々な団体のつながりを強化し、情報共有と協力体制を確立します。さらに、市民団体などが独自に行う各種の食育活動に対して、推進計画に照らして必要な支援を行います。

第2章　食育の推進に関する具体的な事業

1　基本方針１に基づく事業

【基本方針１：生涯にわたり食を通じた心身の健康づくりを推進します】

＜指標項目＞

No.	指標項目		策定時（R3）	目標値（R8）	（参考）県 最新値（R1）→目標値（R6）	（参考）国 最新値（R2）→目標値（R7）
1	朝食を欠食する市民の割合（全く食べない＋あまり食べない）	小学生	3.1%	0%	3.3%→0%（小学６年生）	4.6%（R1）→0%（子ども）
		中学生	5.2%	0%	－	－
		高校生	5.2%	3%	－	－
		若い世代（20歳～39歳）	7.3%	6%	19.8%→15%	21.5%→15%以下
2	虫歯のない児童・生徒の割合	3歳	93.5%（R2）	95%	90.4%（H30）→95%	－
		12歳	88.3%（R2）	90%	84.4%→90%	－
		17歳	78.0%（R2）	80%	－	－
3	ゆっくりよく噛（か）んで食べる市民の割合		45.8%	70%	－	47.3%→55%以上
4	適正体重を維持している市民の割合	20歳代～60歳代の男性	49.5%	50%	－	－
		20歳代～60歳代の女性	45.3%	45%	－	－
5	生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気を付けた食生活を実践する市民の割合		57.0%	72%	－	64.3%→75%以上

※「適正体重を維持している市民の割合」の目標値は、R4年度数値（男性:48.1%、女性:43.8%）を基に設定している。

【ライフステージの解説】
乳：乳幼児期　学：学童期
思：思春期　青：青年期
壮：壮年期　高：高齢期
【実施主体の解説】
家：家庭　学：学校　地：地域
行：行政　事：事業者

（１） 一人一人の年齢や環境に応じた食習慣の確立

① 各ライフステージに応じた切れ目のない食育の推進

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ 実施主体	取組の概要
1	**妊産期の食育推進**	健康づくり推進課	乳 学 思 **青** 壮 高 **家** 学 地 **行** 事	妊婦が正常な妊娠の維持と出産ができるよう、また妊婦健診の結果に応じた生活がわかり、両親の将来の生活習慣病予防につながる食に関する知識を提供する。
2-1	**乳幼児期の食育推進**	健康づくり推進課	**乳** 学 思 **青** 壮 高 **家** 学 地 **行** 事	子どもの成長・発達に応じた食生活についての正しい知識や生活リズムに配慮した健全な食生活について啓発を行う。
2-2		幼児保育課	**乳** 学 思 **青** 壮 高 **家** **学** 地 行 事	
2-3		学校教育課	**乳** 学 思 **青** 壮 高 **家** **学** 地 行 事	
3-1	**学童期･思春期の食育推進**	健康づくり推進課 学校教育課	乳 **学** **思** 青 壮 高 家 **学** 地 **行** 事	学校保健委員会や授業の一環として、自分の体に合わせた食事のとり方等の保健指導を行い、心身の成長や健全な生活習慣を確立するための支援を行う。
3-2		農政課	乳 **学** **思** 青 壮 高 家 **学** 地 **行** 事	高校生の食に対する意識向上を図るため、高等学校の要望に沿った講師を派遣し、部活動やクラス活動、授業等の時間を活用して食育に関する講義や調理実習を行う。
4	**青年期･壮年期の保健指導事業**	健康づくり推進課	乳 学 思 **青** **壮** 高 **家** 学 地 **行** 事	自身の食習慣と身体の状況を考え合わせながら、適正な食事量の摂取を心掛け、生活習慣病の予防を啓発する。
5	**高齢期の保健指導事業**	健康づくり推進課	乳 学 思 青 壮 **高** **家** 学 地 **行** 事	高齢期の心身の変化を踏まえ、自身の食習慣と身体の状況を考え合わせながら、健康維持・生活習慣病の重症化予防のために必要な適正な食事量の摂取について啓発する。

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
1	【事業計画】 すくすく赤ちゃんセミナーを実施し、妊婦等への食育の啓発を行う。				
	【目標】 低出生体重児の割合の減少	低出生体重児の割合の減少	低出生体重児の割合の減少	低出生体重児の割合の減少	低出生体重児の割合の減少
2-1	【事業計画】 乳幼児健診、離乳食相談会、訪問等を実施し、健全な食生活の啓発を行う。				
2-2	【事業計画】 ・保育園及び認定こども園において、保護者が子の発育状態を視覚的に確認するため、「成長曲線」を活用した取組を行う。 ・肥満傾向の園児には保護者面談等の支援を行う。				
2-3	【事業計画】 ・市立幼稚園において、日常的に紙芝居や絵本などを用いて望ましい食習慣が身に付くよう指導する。 ・「成長曲線」を活用し、肥満傾向にある園児について、保護者と面談して栄養指導等を実施する。				
－	【2-1、2-2、2-3 共通目標】				
	肥満、やせの子どもを減らす	肥満、やせの子どもを減らす	肥満、やせの子どもを減らす	肥満、やせの子どもを減らす	肥満、やせの子どもを減らす
3-1	【事業計画】 学校保健委員会や授業の中で身体の成長や発達にあわせた食事のとり方等について保健指導を行う。				
	【目標】 保健指導により、食に関する正しい知識を持った児童・生徒を増やす。				
	食に関する正しい知識を持った児童・生徒の増加	食に関する正しい知識を持った児童･生徒の増加	食に関する正しい知識を持った児童・生徒の増加	食に関する正しい知識を持った児童・生徒の増加	食に関する正しい知識を持った児童・生徒の増加
3-2	【事業計画】 市内高等学校において、高校生の食に対する意識の向上を図る食育に関する講義や調理実習を行う。				
	【目標】 食育に関する講義や調理実習を行う市内高等学校数				
	3 校以上	3 校以上	3 校以上	3 校以上	3 校以上
4	【事業計画】 健診結果説明会や健康講座、個別訪問など様々な場面で適正な食事量の摂取、生活習慣病予防を働き掛ける。				
	【目標】 特定保健指導実施率が増加する。				
	特定保健指導実施率の増加	特定保健指導実施率の増加	特定保健指導実施率の増加	特定保健指導実施率の増加	特定保健指導実施率の増加
5	【事業計画】 健診結果説明会や健康講座、個別訪問など様々な場面で、高齢期における適正な食事量の摂取、生活習慣病予防を働き掛ける。				
	【目標】 適正体重（日本人食事摂取基準：BMI21.5～24.9）の高齢者（65 歳以上）を増やす。				
	適正体重の高齢者の増加	適正体重の高齢者の増加	適正体重の高齢者の増加	適正体重の高齢者の増加	適正体重の高齢者の増加

② 生活リズムの形成に向けた働き掛け（健全な食習慣の啓発）

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ 実施主体	取組の概要
6-1	健全な食習慣の推進	健康づくり推進課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	各ライフステージの様々な場面で生活リズムに配慮した健全な食生活について啓発する。
6-2		幼児保育課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	保育園での様々な場面で生活リズムに配慮した健全な食生活について啓発する。
6-3		学校教育課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	全ての小中学校の様々な場面で生活リズムに配慮した健全な食生活について啓発する。

③ 歯や口の健康の大切さの普及啓発（よく噛(か)んで食べること、歯や口の健康）

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ 実施主体	取組の概要
7-1	歯科保健事業の推進	健康づくり推進課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	各ライフステージの様々な場面でよく噛(か)んで食べる習慣について啓発する。
7-2		幼児保育課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	保育園の様々な場面でよく噛(か)んで食べる習慣について啓発する。
7-3		学校教育課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	市立幼稚園、小中学校の様々な場面でよく噛(か)んで食べる習慣について啓発する。

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
6-1	【事業計画】 各ライフステージで行われる健康教育の中で、朝食をきちんととることの必要性を啓発する。				
6-2	【事業計画】 保育園で行う「健康教育講座」や「家庭用給食だより」、「食育集会」等の中で、朝食をきちんととることの必要性を啓発する。				
6-3	【事業計画】 全ての小中学校で行う「給食時の放送」や「給食だより」等の中で、朝食をきちんととることの必要性を啓発する。				
	【6-1、6-2、6-3 の共通目標】朝食を欠食する市民を減らす。				
	小学生　0% 中学生　0% 若い世代　－	小学生　0% 中学生　0% 若い世代　6.8%	小学生　0% 中学生　0% 若い世代　－	小学生　0% 中学生　0% 若い世代　6.2%	小学生　0% 中学生　0% 若い世代　6%

※「若い世代」については、食育市民アンケートの実施年度に目標値を設定する。

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
7-1	【事業計画】 各ライフステージで行われる歯科保健教育の中で、よく噛(か)んで食べることの重要性を啓発する。				
7-2	【事業計画】 ・保育園及び認定こども園に歯科衛生士等を派遣し、よく噛(か)んで食べることの重要性を啓発する。 ・給食の時間において、園児がよく噛(か)んで食べることができるよう支援する。				
7-3	【事業計画】 ・市立幼稚園、小中学校に歯科衛生士等を派遣し、プラッシング指導や健康な歯を保つための取組を行う。 ・給食の時間において、園児及び児童・生徒がよく噛(か)んで食べることができるよう指導する。				
	【7-1、7-2、7-3 共通目標】 虫歯のない児童・生徒の割合を増やす。				
	3 歳：95%以上 12 歳：90%以上 17 歳：80%以上	3 歳：95%以上 12 歳：90%以上 17 歳：80%以上	3 歳：95%以上 12 歳：90%以上 17 歳：80%以上	3 歳：95%以上 12 歳：90%以上 17 歳：80%以上	3 歳：95%以上 12 歳：90%以上 17 歳：80%以上
	【7-1、7-2、7-3 共通目標】 ゆっくりよく噛(か)んで食べる市民を増やす。				
	―	55%	―	65%	70%

※食育市民アンケートの実施年度に目標値を設定する。

④ 生活習慣病の予防につながる食育の推進

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ 実施主体	取組の概要
8	**メタボリックシンドロームの予防・改善**	健康づくり推進課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	メタボリックシンドロームにより引き起こされる可能性が高まる様々な病気やその原因と予防、改善について啓発する。
9	**適正体重維持の推進**	健康づくり推進課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	肥満や痩せすぎにより引き起こされる可能性が高まる様々な病気やその原因と予防、改善について啓発する。
10	**生活習慣病の予防**	健康づくり推進課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	健診結果から対象者を特定し、各種教室を開催することにより、生活習慣病の予防の普及・啓発を行う。

⑤ 適度な運動の励行

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ 実施主体	取組の概要
11	**身体活動や運動習慣の確立**	健康づくり推進課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	各ライフステージの様々な場面で運動習慣の確立を働き掛ける。

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
8	【事業計画】 健診結果説明会や健康講座等でメタボリックシンドロームの予防・改善方法について啓発する。				
	【目標】 メタボリックシンドローム該当者及び予備軍の割合が減少する。				
	メタボリックシンドローム該当者、予備群の割合の減少	メタボリックシンドローム該当者、予備群の割合の減少	メタボリックシンドローム該当者、予備群の割合の減少	メタボリックシンドローム該当者、予備群の割合の減少	メタボリックシンドローム該当者、予備群の割合の減少
9	【事業計画】 健診結果説明会や健康講座等で肥満の予防・改善方法について啓発する。				
	【目標】 適正体重を維持している市民を増やす。				
	男性 50% 女性 45%	男性 50% 女性 45%	男性 50% 女性 45%	男性 50% 女性 45%	男性 50% 女性 45%
10	【事業計画】 各種教室を開催し、生活習慣病の予防について普及・啓発する。				
	【目標】 生活習慣病の予防や改善のためにふだんから適正体重や減塩等に気を付けた食生活を実践している市民を増やす。				
	―	60%以上	―	64%以上	66%以上

※食育市民アンケートの実施年度に目標値を設定する。

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
11	【事業計画】 各ライフステージで行われる健康教育の中で、運動習慣の確立を働き掛ける。				
	【目標】 健診訪問項目で 30 分以上の運動を週 2 回以上、1 年以上実施している人の割合を増やす。				
	28%	28%	29%	29%	30%

（２） 家庭、学校、地域、その他あらゆる機会及び場所の活用

＜指標項目＞

No.	指標項目		策定時（R3）	目標値（R8）	（参考）県 最新値（R1）→目標値（R6）	（参考）国 最新値（R2）→目標値（R7）
1	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の週当たりの回数		週９回	週 11 回以上	－	週 9.6 回→週 11 回以上
2	普段の食生活の中で食べることを楽しんでいる市民の割合		82.8%	90%以上	－	－
3	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を１日２回以上ほぼ毎日食べている市民の割合	全世代	43.6%	80%	44.6%→80%	36.4%→50%以上
		若い世代（20 歳～39 歳）	29.0%	55%	32.2%→55%	27.4%→40%以上
4	地域等で共食したいと思う人が共食する割合		42.0%	75%	－	70.7%→75%以上

（Ⅰ）家庭における食育の推進

① 親子で参加・体験できる機会の充実

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ／実施主体	取組の概要
12-1	**親子で参加・体験できるイベント等の実施**	農政課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	親子で参加できる食に関する体験活動を実施し、親と子が食への関心を高め、理解を深める機会を提供する。
12-2		農村振興課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	「上越野菜」振興協議会主催による親子食農体験教室を開催し、上越野菜の PR のほか、親子のコミュニケーション、食への関心・理解を深める機会を提供する。

② 食生活の改善に必要な情報の普及

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ／実施主体	取組の概要
13	**食生活の改善に必要な情報提供**	農政課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	市民一人一人の日常生活の中で食育の実践が定着するよう、国が定めた「食生活指針」や「食育ガイド」により、具体的な取組例を示す。

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
12-1	【事業計画】 食育フェアや食育実践セミナーにおいて、親子で参加できる食に関する体験の機会を設ける。				
	【目標】 親子で参加できる食に関する体験の場の提供				
	年２回以上	年２回以上	年２回以上	年２回以上	年２回以上
12-2	【事業計画】 「上越野菜」振興協議会主催による親子食農体験教室を開催する。				
	【目標】 上越野菜の PR のほか、親子のコミュニケーション、食への関心・理解を深める機会の提供				
	年２回以上	年２回以上	年２回以上	年２回以上	年２回以上

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
13	【事業計画】 「食育ガイド」を定期的に学校関係者や食育イベント、食に関連した集会等で配布し市民に啓発する。				
	【目標】 「食育ガイド」を活用した食育推進の啓発回数				
	年３回以上	年３回以上	年３回以上	年３回以上	年３回以上

③ 家族揃(そろ)って食事をとる共食の励行

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ 実施主体	取組の概要
14	**家庭での共食についての啓発**	農政課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	家族と一緒に食事をとることは、家族のコミュニケーションの場であるとともに、箸使いなど食事作法やしつけの重要な場であることを啓発し、家庭での共食を推進する。

④ 在宅時間を活用した食育の推進

■取組概要（★第４次計画で新たに取り組む事業）

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ 実施主体	取組の概要
15	**★在宅時間を有効に活用できる食育情報の提供**	農政課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	家族との共食の有効性や栄養バランスがとれた食事の実践方法、上越の食文化の紹介など、在宅時間に家庭で取り組むことができる食育情報を発信する。

（Ⅱ）学校、保育園等における食育の充実

① 食の体験活動の充実

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ 実施主体	取組の概要
16	**保育園での食の体験活動**	幼児保育課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	子どもたちの食に関する興味や関心が高まるよう、食に関する様々な体験活動を行う。
17	**幼稚園・小中学校での食の体験活動**	学校教育課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	
18	**学校における食育活動の充実**	学校教育課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	食に関する指導の全体計画に基づき、食に関する教育活動を行う。

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
14	【事業計画】 市ホームページや食育イベント等において、家族が一緒に食事をとることの有効性を啓発し、家庭での共食を推進する。				
	【目標】 朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の週当たりの回数				
	―	週 11 回以上	―	週 11 回以上	週 11 回以上

※食育市民アンケートの実施年度に目標値を設定する。

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
15	【事業計画】 ・家庭においても手軽に食育情報が入手できるよう、市ホームページや SNS により食育情報を提供する。 ・インターネットの利用環境にない市民に向け、紙媒体においても食育情報を提供する。				
	【目標】 インターネット及び紙媒体による在宅時間を有効に活用できる食育情報の提供回数				
	年 3 回以上	年 3 回以上	年 3 回以上	年 3 回以上	年 3 回以上

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
16	【事業計画】 体験活動を取り入れた食に関する活動を実施する。				
	【目標】 体験活動により、子どもたちの食に関する興味・関心を高める。				
	子どもの食への 興味・関心の向上	子どもの食への 興味・関心の向上	子どもの食への 興味・関心の向上	子どもの食への 興味・関心の向上	子どもの食への 興味・関心の向上
17	【事業計画】 体験活動を取り入れた食に関する活動を実施する。				
	【目標】 市立幼稚園、小中学校で体験活動を取り入れた食に関する活動を実施する。				
	食に関する活動の 実施	食に関する活動の 実施	食に関する活動の 実施	食に関する活動の 実施	食に関する活動の 実施
18	【事業計画】 「給食だより」を毎月発行するとともに、栄養教諭や栄養職員と連携した給食指導を実施する。				
	【目標】 事業実施により、食に対する正しい知識を持った児童生徒を増やす。				
	食の正しい知識を 持った児童生徒の 増加	食の正しい知識を 持った児童生徒の 増加	食の正しい知識を 持った児童生徒の 増加	食の正しい知識を 持った児童生徒の 増加	食の正しい知識を 持った児童生徒の 増加

② 食に関する実践的な教育活動の推進

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ 実施主体	取組の概要
19	家庭や地域とともに進める食に関する教育活動	学校教育課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	学校・家庭・地域が連携し、児童生徒が自ら健全な食習慣を実践できるよう教育活動を行う。

③ 特色ある食育推進に対する支援

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ 実施主体	取組の概要
20	小中学校における特色ある食に関する食育活動の推進	学校教育課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	それぞれの地域や学校の伝統・文化等の特色をいかした食育推進を支援する。

（Ⅲ）地域における食生活改善に向けた取組の推進

① 栄養バランスを意識した食生活の促進

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ 実施主体	取組の概要
21	栄養バランスを意識した食生活の促進	健康づくり推進課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	各ライフステージの様々な事業で食品の基準量の普及・啓発を通じて、バランスのとれた食生活を推進する。

② 栄養バランスに優れた日本型食生活の普及

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ 実施主体	取組の概要
22	日本型食生活の普及活動	農政課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	米を中心に多様な農林水産物を食材とした副食で構成され、栄養バランスに優れた「日本型食生活」を推進するため、市ホームページやSNS、イベント等での配布物などを通じてその普及を図る。

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
19	【事業計画】 小中学校で家庭や地域と連携する取組を実施する。（給食試食会や食に関する学校保健委員会など）				
	【目標】 児童・生徒の栄養バランスのとれた食事や健全な食習慣を支援するよう家庭への啓発を図る。				
	児童・生徒が健全な食習慣の理解を深め実践する。	児童・生徒の健全な食習慣を支援するよう家庭への啓発を図る。	児童・生徒の健全な食習慣を支援するよう家庭への啓発を図る。	児童・生徒の健全な食習慣を支援するよう家庭への啓発を図る。	児童・生徒の健全な食習慣を支援するよう家庭への啓発を図る。

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
20	【事業計画】 小中学校において充実した食育活動を推進するための情報提供等を行う。				
	【目標】 地域や学校の伝統・文化等の特色をいかした食育を実践している学校を増やす。				
	特色をいかした食育を実践している学校の増加	特色をいかした食育を実践している学校の増加	特色をいかした食育を実践している学校の増加	特色をいかした食育を実践している学校の増加	特色をいかした食育を実践している学校の増加

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
21	【事業計画】 各ライフステージで行われる健康教育の中で、バランスのとれた食事をとることの重要性を啓発する。				
	【目標】 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を１日２回以上ほぼ毎日実践している市民を増やす。				
	―	全世代　60% 若い世代　45%	―	全世代　75% 若い世代　55%	全世代　80% 若い世代　55%

※食育市民アンケートの実施年度に目標値を設定する。

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
22	【事業計画】 市ホームページやSNS、イベント等での配布物により、日本型食生活のメリットや実践例を紹介し、市民の実践につなげる。				
	【目標】 日本型食生活を実践している市民を増やす。				
	―	74.1%以上 (R3アンケート結果比較)	―	R5アンケート結果以上の値	R7アンケート結果以上の値

※食育市民アンケートの実施年度に目標値を設定する。

③ 地域での共食に対する支援

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ 実施主体	取組の概要
23	**地域や職場での共食の有効性の発信**	農政課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	孤食が多い人が様々な人たちと食事をする機会を増やすため、市ホームページやSNS、イベント等での配布物などを通じて、地域での共食の有効性を紹介し、「新しい生活様式」に対応した地域での共食につなげる。

２　基本方針２に基づく事業

【基本方針２：地域や家庭で受け継がれてきた食文化を継承します】

＜指標項目＞

	指標項目	策定時 (R3)	目標値 (R8)	(参考) 県 最新値（R1） →目標値（R6）	(参考) 国 最新値（R2） →目標値（R7）
1	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている市民の割合	~~67.3%~~ 48.0%	~~75%~~ 55%	―	50.4% →55%以上
2	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承している若い世代（20歳～39歳）の市民の割合	61.8%	65%	―	―
3	郷土料理や伝統料理を月 1 回以上食べている市民の割合	46.9%	50%以上	―	44.6% →50%以上

■年度別計画（事業計画及び目標）

<table>
<tr><th rowspan="2">No.</th><th colspan="5">年度別計画（事業計画及び目標）</th></tr>
<tr><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th><th>R8</th></tr>
<tr><td rowspan="3">23</td><td colspan="5">【事業計画】
市ホームページやSNS、イベント等での配布物により、地域での共食の有効性を紹介し、市民の実践につなげる。</td></tr>
<tr><td colspan="5">【目標】
地域等で共食したいと思う市民が共食する割合</td></tr>
<tr><td>―</td><td>55%以上</td><td>―</td><td>68%以上</td><td>75%以上</td></tr>
</table>

※食育市民アンケートの実施年度に目標値を設定する。

（１）郷土の優れた食文化の継承

① 郷土料理や行事食の継承と普及

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ 実施主体	取組の概要
24	**郷土料理、食文化の普及を推進する講座の実施**	社会教育課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	地域資源の活用や地域住民のニーズの精査を行い、料理教室や食をテーマとする体験講座を実施することで、郷土料理や食文化の関心を高め、普及・継承につなげる。
25	**謙信 KIDS プロジェクト**	社会教育課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	小学生にふるさと上越の魅力ある食材を紹介し、各種活動を通じてその魅力を体験させることで、郷土への愛着の育成を図る。
26	**「発酵のまち上越」の啓発活動**	上越ものづくり振興センター	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	「発酵のまち上越」を情報発信するとともに、古くから根付き受け継がれてきた発酵食品文化を次世代へ継承する。
27	**SNS 等を活用した若い世代への郷土料理の継承**	農政課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	郷土料理になじみの薄い若い世代に向け、SNS 等にレシピや由来を掲載し、郷土料理の継承につなげる。
28	**地場産食材、郷土料理を取り入れた学校給食の推進**	教育総務課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	給食献立において、地場産食材、郷土料理を取り入れるなど、「上越の食」について考える取組を行う。

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
24	【事業計画】 公民館事業で、郷土料理や食文化をテーマとする講座を実施する。				
	【目標】 郷土料理や食文化について理解を深め、興味・関心を高めた参加者の割合				
	80%以上	80%以上	80%以上	80%以上	80%以上
25	【事業計画】 謙信 KIDS プロジェクトで実施する講座に、上越の食をテーマとする講座を設ける。				
	【目標】 講座のテーマである上越の食について、興味・関心を深めた参加者の割合を 90%以上とする。				
	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上
26	【事業計画】 上越の発酵食品をホームページやイベント等で広く発信するとともに、発酵食品文化を次世代へ継承する。				
	【目標】 SNS での情報発信により、上越は「発酵のまち」というイメージを持つ市民を増加させる。				
	情報発信回数：月１回	情報発信回数：月１回	情報発信回数：月１回	情報発信回数：月１回	情報発信回数：月１回
27	【事業計画】 料理レシピ検索サイトに上越の郷土料理や上越の旬の食材を使用したレシピや由来を掲載する。				
	【目標】 郷土料理や上越の旬の食材を使用したレシピの投稿回数				
	月１回	月１回	月１回	月１回	月１回
	【目標】 郷土料理や伝統料理を月１回以上食べている市民の割合				
	― ※	48%	―	49%	50%以上
28	【事業計画】 毎月、地場産食材や郷土料理を取り入れた学校給食を提供する。				
	【目標】 地場産食材や郷土料理を取り入れた給食献立の提供回数				
	月１回	月１回	月１回	月１回	月１回

※食育市民アンケートの実施年度に目標値を設定する。

３　基本方針３に基づく事業

【基本方針３：食育推進に向けた連携促進と情報共有できる環境づくりを推進します】

＜指標項目＞

	指標項目		策定時（R3）	目標値（R8）	（参考）県 最新値（R1）→目標値（R6）	（参考）国 最新値（R2）→目標値（R7）
1	食育に関心を持っている市民の割合		77.7%	90%以上	56.6%→90%	83.2%→90%以上
2	食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合	全世代	69.0%	90%	－	75.2%→80%以上
		若い世代（20歳～39歳）	63.7%	70%	－	－

（１）食育推進に向けた連携促進

①　情報共有による食育関係団体の連携促進

■取組概要（★第４次計画で新たに取り組む事業）

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ／実施主体	取組の概要
29	**★食育関係団体の食育活動の集約と情報発信**	農政課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	市内で行われる食育に関するイベントや教室、体験活動等を集約し、市ホームページ等で市民に広く周知する。

② 医療機関や大学、研究機関等との連携

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ／実施主体	取組の概要
30	**健康づくり推進協議会の開催**	健康づくり推進課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	医療機関等の関係機関と連携し、健康や医療の最新状況について情報交換、意識の共有を図り、食育推進施策にいかす。

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
29	【事業計画】 市内で行われる食育に関するイベントや教室、体験活動等を集約する体制を整備し、集約した食育情報は時宜を捉えて市民へ発信する。				
	【目標】 食育情報集約体制の整備				
	集約した市内の食育情報の発信回数				
	月１回以上	月１回以上	月１回以上	月１回以上	月１回以上

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
30	【事業計画】 健康づくり推進協議会を開催し、医療機関等の関係機関との協議から得た知見を、食育推進施策に活用する。				
	【目標】 健康づくり推進協議会の開催回数				
	年２回	年２回	年２回	年２回	年２回

（２）食育情報の発信と共有

① 食育の実践につながる情報発信

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ 実施主体	取組の概要
31	食育に関する積極的な情報提供	農政課 関係課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	市ホームページ「上越の食育」や広報上越、メディア等を活用し、市内の食育活動やイベント、食育に関する啓発事項等を積極的に PR する。
32	学校給食だよりの発行による情報提供	教育総務課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	毎月、学校給食だよりを発行し、給食献立や旬の食材、地域の食材の紹介などを通して「食」への関心や知識を高める。
33	「食育月間」や「食育の日」を中心とした食育推進運動	農政課 関係課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	6 月の「食育月間」や毎月 19 日の「食育の日」を中心に、市民向けのイベントを開催するほか、市ホームページや広報上越等を通じた食育の実践の定着につながる情報を発信する。

② 食育の実践につながる体験の場の提供

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ 実施主体	取組の概要
34	食育実践セミナーの開催	農政課 関係課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	食に関する講演会や食体験を通じて、市民の食への関心を高めるとともに、家族や自らの食生活を考え、食育の実践の定着につながる機会とする「食育実践セミナー」を開催する。

③ 「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進

■取組概要（★第 4 次計画で新たに取り組む事業）

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ 実施主体	取組の概要
35	★デジタル技術を活用した食育情報の発信	農政課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	市民がいつでも手軽に食育情報が入手できるよう、市ホームページや SNS を活用して食育情報を発信する。

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
31	【事業計画】 市ホームページやSNS、広報上越、メディア等を通じて、市民へ食育情報を定期的に発信する。				
	【目標】 食育情報の発信回数				
	月４回以上	月４回以上	月４回以上	月４回以上	月４回以上
32	【事業計画】 ・学校給食だよりを作成し、保護者へ提供する。				
	【目標】 給食だよりの発行回数				
	月１回	月１回	月１回	月１回	月１回
33	【事業計画】 ・6月の食育月間に「食育フェア」を開催するとともに、食育の実践につながる食育情報を保育園、学校等に配布し啓発する。 ・毎月19日の食育の日に「もぐもぐジョッピーの食育気まぐれ日記」を市ホームページ、SNSに掲載する。 ・市ホームページや広報上越を通じて、定期的に食育情報を発信する。				
	【目標】 「食育月間」及び「食育の日」の認知度の向上				
	―	24.3%以上 (R3アンケート結果比較)	―	R5アンケート 結果以上の値	R7アンケート 結果以上の値

※食育市民アンケートの実施年度に目標値を設定する。

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
34	【事業計画】 市内の食育関係団体や庁内食育推進関係課と連携して、食育実践セミナーを開催する。				
	【目標】 食育実践セミナーの開催回数				
	年１回	年１回	年１回	年１回	年１回
	【目標】 食育に関心を持っている市民の割合				
	―	82.5%	―	87.5%	90%以上

※食育市民アンケートの実施年度に目標値を設定する。

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
35	【事業計画】 市ホームページ及びSNSから食育情報を随時発信する。				
	【目標】 市ホームページ及びSNSに食育情報（食育関係情報全て）を発信する回数				
	月３回以上	月３回以上	月３回以上	月３回以上	月３回以上

（３）食の安全性の確保

① 食の安全性に関する情報提供

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ 実施主体	取組の概要
36	**食の安全に関する情報発信**	健康づくり推進課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	国、県からの食の安全に関する健康被害情報を市ホームページや広報紙を活用して情報提供する。
37	**農林水産物等の放射性物質検査等の情報発信**	農村振興課 農林水産整備課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	消費者の信頼に応えるため、新潟県等が実施する農林水産物等の放射性物質の検査結果や残留農薬検査結果などを市民に情報提供する。

② 食品表示の理解促進

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ 実施主体	取組の概要
38	**食品表示に関する普及啓発**	農村振興課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	市民一人一人が安全で安心な食生活を送ることができるよう、食品表示に関する知識の普及を図る。

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
36	【事業計画】 県からの食の安全に関する健康被害情報等を市ホームページや広報紙などを活用し、情報提供する。				
37	【事業計画】 必要に応じ、県からの農林水産物等の放射性物質の検査結果を市ホームページで周知する。				

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
38	【事業計画】 県からの食品表示の情報について市ホームページや食育実践セミナーなどのイベントにおいて、情報提供する。				
	【36、37、38 共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合				
	―	全世代　77% 若い世代　66%	―	全世代　85% 若い世代　69%	全世代　90% 若い世代　70%

※食育市民アンケートの実施年度に目標値を設定する。

４　基本方針４に基づく事業

【基本方針４：上越の農林漁業への理解を促進します】

＜指標項目＞

No.	指標項目	策定時（R3）	目標値（R8）	（参考）	
				県 最新値（R1）→目標値（R6）	国 最新値（R2）→目標値（R7）
1	学校給食で地場産物（青果物）を使用する割合	13.3%（R2）	20%	－	－
2	地域食材を積極的に活用する飲食店（地産地消推進の店）の認定店数	170 軒（R2）	180 軒以上	－	－
3	環境保全型農業に積極的に取り組む組織数及び取組面積	63 組織 929ha	91 組織 1,473ha	－	－
4	環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民の割合	58.0%	75%%以上	－	67.1% →75%以上
5	食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合	91.1%	92%以上	R3 把握 →80%	76.5%※ →80%以上 ※は R1 数値

（１）地域内での自給を基本とした地産地消の推進

① 学校給食における地場産物（青果物）の使用量の拡大

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ 実施主体	取組の概要
39	**地場産物（青果物）を使用した給食の提供**	教育総務課 農政課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	関係団体、生産者等と連携し、学校給食への地場産物（青果物）の利用促進を図る。

■年度別計画（事業計画及び目標）

<table>
<tr><th rowspan="2">No.</th><th colspan="5">年度別計画（事業計画及び目標）</th></tr>
<tr><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th><th>R8</th></tr>
<tr><td rowspan="3">39</td><td colspan="5">【事業計画】
関係団体等との連携を強化し、地場産物（青果物）の利用を促進する。</td></tr>
<tr><td colspan="5">【目標】
学校給食の地場産物（青果物）の使用量の拡大</td></tr>
<tr><td>地場産物（青果物）の使用率
16%以上</td><td>地場産物（青果物）の使用率
17%以上</td><td>地場産物（青果物）の使用率
18%以上</td><td>地場産物（青果物）の使用率
19%以上</td><td>地場産物（青果物）の使用率
20%</td></tr>
</table>

② 地産地消の推進

■取組概要（★第４次計画で新たに取り組む事業）

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ 実施主体	取組の概要
40	★上越産農産物等の情報発信	農村振興課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	「上越野菜」を始めとした、上越産農産物等のPR、販売促進及び農産物直売所への誘客を図るため、上越産農産物等に関する情報を発信する。
41	地産地消推進の店認定事業	農政課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	小売店や飲食店等に地域食材を積極的に活用するよう働き掛けるとともに、一定基準以上の地域食材を積極的に活用する店舗に対して認定を行う。 さらに「プレミアム認定店」を認定し、認定店から地産地消の情報発信を行うことで、地産地消の推進を図る。

（２）生産者と消費者の信頼関係の確立

① 生産者と消費者の相互理解の促進

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ 実施主体	取組の概要
42	農産物直売所と消費者のつながり強化	農村振興課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	消費者に上越の食と農の魅力を知ってもらい、積極的に選んでもらえるよう、直売所と消費者がつながる機会を提供する。

② 地域で行われている農林漁業体験活動の情報提供の充実

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ 実施主体	取組の概要
43	農林漁業体験活動等の情報提供	農村振興課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	市内で行われている農林漁業体験活動等の情報をとりまとめ、情報提供を行う。

③ 農林漁業体験を通じた都市と農村の交流促進

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ 実施主体	取組の概要
44	都市･農村交流促進	農村振興課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	こだわりを持った地域農産物の購入や市民農園等での農作業体験を楽しみとする都市住民に、食や農への認識を深める機会を広く提供し、都市と農村の交流活動を促進する。

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
40	【事業計画】 「上越野菜」を始めとした上越産農産物等に関する情報発信を行う。				
	【目標】 Facebook での情報発信の回数				
	年 24 回	年 24 回	年 24 回	年 24 回	年 24 回
41	【事業計画】 認定事業を周知し、地域食材を積極的に取り扱う市内の小売店、飲食店等を地産地消推進の店に認定する。				
	【目標】 認定事業の周知を行い、地域食材を積極的に活用する地産地消推進の店を増やす。				
	地産地消推進の店 認定数：172 軒	地産地消推進の店 認定数：174 軒	地産地消推進の店 認定数：176 軒	地産地消推進の店 認定数：178 軒	地産地消推進の店 認定数：180 軒

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
42	【事業計画】 消費者と直売所がつながる機会を提供するイベントを開催する。				
	【目標】 事業の参加者数				
	10 人	50 人	50 人	50 人	50 人

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
43	【事業計画】 市ホームページや広報上越等による情報提供を行う。				
	【目標】 市民が容易に農林漁業体験に関する情報を入手できるようにする。				
	情報の提供と更新	情報の提供と更新	情報の提供と更新	情報の提供と更新	情報の提供と更新

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
44	【事業計画】 農作業体験やオンライン等による都市との交流事業を実施する。				
	【目標】 都市との交流体験者数				
	330 人	330 人	350 人	350 人	350 人

（３）環境と調和のとれた持続可能な農林漁業の発展

① 安全・安心な農林水産物の安定供給と消費拡大の推進

■取組概要（★第４次計画で新たに取り組む事業）

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ 実施主体	取組の概要
45	**環境保全型農業の推進**	農政課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	今後ニーズが見込まれる有機農産物に対応するため、有機農業に取り組んでいる農業者を講師に、有機農業の実情を学ぶ研修会を開催し、有機農業に取り組む農業者の裾野を拡大する。
46	**★環境と調和した方法で作られた農林水産物や食品の消費喚起**	農政課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	持続可能な農林水産業の発展につなげるため、市民に対し化学合成農薬や化学肥料の使用を控えた環境と調和した生産方法による農林水産物や食品を消費することの意義を伝え、市民の消費につなげる。

② 食品ロス削減に向けた取組の啓発

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ 実施主体	取組の概要
47	**食品ロス削減に向けた取組の推進**	農政課	乳 学 思 青 壮 高 家 学 地 行 事	食品ロスの削減は、資源の有効活用や環境負荷の低減はもとより、食の大切さを再認識することにもつながることから、家庭や外食時における食品ロス削減に向けた取組を啓発する。

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
45	【事業計画】 食の安全や自然環境の保全につながる有機農産物の生産を推進するため、農業者に対し、環境保全型農業直接支払交付金を活用し支援する。				
	【目標】 環境保全型農業に取り組んでいる面積の維持と、有機農業に取り組んでいる面積の拡大				
	環境保全型農業に取り組んでいる面積：1,896ha うち、有機農業に取り組んでいる面積：75ha	環境保全型農業に取り組んでいる面積：1,896ha うち、有機農業に取り組んでいる面積：75ha	環境保全型農業に取り組んでいる面積：1,896ha うち、有機農業に取り組んでいる面積：80ha	環境保全型農業に取り組んでいる面積：1,896ha うち、有機農業に取り組んでいる面積：85ha	環境保全型農業に取り組んでいる面積：1,896ha うち、有機農業に取り組んでいる面積：90ha
46	【事業計画】 環境と調和した生産方法による農林水産物の消費を推進するため、市民に対し、それらを消費することの意義を発信する。				
	【目標】 環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民の割合				
	―	65%	―	72%	75%以上

※食育市民アンケートの実施年度に目標値を設定する。

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
47	【事業計画】 市ホームページやSNS、イベントにおいて食品ロスの現状や削減に向けた方策を周知する。				
	【目標】 宴会時の食べきり運動「食の宝庫上越 おいしく残さず食べきろう20・10運動」を始めとした食品ロス削減に向けた取組の啓発回数				
	年3回以上	年3回以上	年3回以上	年3回以上	年3回以上
	【目標】 食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合				
	―	92%以上	―	92%以上	92%以上

※食育市民アンケートの実施年度に目標値を設定する。